

徳島文理大学短期大学部
自己点検・評価報告書



平成22年 6 月

徳島文理大学短期大学部

目 次

* 徳島文理大学短期大学部の特色等	1
I 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	
建学の精神、教育理念	6
教育目的、教育目標	7
定期的な点検等	9
特記事項	9
II 教育の内容	
教育課程	11
授業内容・教育方法	22
教育改善への努力	23
特記事項	26
III 教育の実施体制	
教員組織	28
教育環境	30
図書館・学習資源センター等	34
特記事項	37
IV 教育目標の達成度と教育の効果	
単位認定	39
授業に対する学生の満足度	46
退学、休学、留年等の状況	47
資格取得の取組み	51
学生による卒業後の評価、卒業生に対する評価	52
特記事項	55
V 学生支援	
入学に関する支援	56
学習支援	59
学生生活支援体制	60
進路支援	65
多様な学生に対する支援	71
特記事項	72
VI 研究	
教員の研究活動全般	73
研究のための条件	75
特記事項	77
VII 社会的活動	
社会的活動への取組み	78
学生の社会的活動	83
国際交流・協力への取組み	84

特記事項	85
VII 管理運営	
法人組織の管理運営体制	86
教授会等の運営体制	93
事務組織	98
人事管理	103
特記事項	105
IX 財務	
財務運営	106
財務体質の健全性と教育研究経費	108
施設設備の管理	109
特記事項	110
X 改革・改善	
自己点検・評価	111
自己点検・評価の教職員の関与と活用	112
相互評価や外部評価	113
第三者評価（認証評価）	113
特記事項	114
** 将来計画の策定	115

* 徳島文理大学短期大学部の特色等

(1) 短期大学を設置する学校法人（以下「法人」という）の沿革（概要）及び短期大学の沿革（概要）。

<村崎学園の沿革>

学園の創立は明治 28 年 7 月である。当時は欧米列強と拮抗し得る近代国家を建設しようとするわが国にとって、最初の試練ともいえるべき日清戦争に勝利を得た直後で、意気盛んな時代であった。また、日本の社会は男性を中心とした「家」を核として構成すべきものと考えられ、女性は「家」の中であって男性を支えるべきだとされた時代でもあった。そうした男性中心の社会環境の中で、創立者村崎サイは「女も独り立ちが出来ねばならぬ」との信念のもとに、学園の礎を創設した。学園は、昭和 20 年 7 月、戦火に包まれて灰燼に帰し、村崎サイも学園と運命を共にした。その年の秋、戦野から帰還した前理事長村崎凡人は学園の復興に精魂を傾け、総合学園の建設を目指した。その過程で、他からの協力、他への協力なくして「人間の自立」はあり得ないとの考えを強く抱き、福澤諭吉の言葉「独立自協力来 自尊自克己生」（独立ハ協力ヨリ来リ 自尊ハ克己ヨリ生ズ）を引き、協力と克己が「独立自尊」の方法論であると説いた。福澤諭吉は、学祖村崎サイが高松の林竹堂塾で学んだ際の同門で慶應義塾大学塾長を務めた林毅陸の師匠にあたる、という縁もあった。村崎サイの信念は、建学精神「自立協同」としてその後の学園経営の基礎となり、また、教育の目標として一貫して受け継がれてきた。

学園は幾多の変遷を重ねてきたが、戦後、徳島女子高等学校を基礎とし、徳島女子短期大学、徳島女子大学を創設すると共に、幼稚園、小学校、中学校、高等学校を創立した。短期大学と大学は、その後、徳島文理大学短期大学部、徳島文理大学と名称を変更し、現在に至っている。徳島文理大学短期大学部（以下、「本学」という）は、昭和 36 年、徳島女子短期大学家政科が開設されてから、約半世紀にわたり「自立協同」の建学精神のもと、常に時代が必要とするもの、さらに未来が必要とするものは何かを問い続けて、教育と研究に邁進してきた。現在、生活科学科生活科学専攻、同食物専攻、保育科、言語コミュニケーション学科、音楽科、商科の 5 学科 2 専攻から成っている。なお、本学の沿革については、以下の通りである。

<徳島文理大学短期大学部の沿革>

- 昭和 36 年 徳島女子短期大学創立、家政科設置
- 昭和 37 年 家政科専修分離（家政専修、食物専修）
- 昭和 38 年 保育科設置
- 昭和 41 年 文科（国文専攻・英文専攻）、音楽科設置
- 昭和 45 年 商科設置
- 昭和 48 年 徳島女子短期大学を徳島文理大学短期大学に校名変更
- 昭和 49 年 家政科専攻分離（家政専攻、食物専攻）
- 昭和 55 年 徳島文理大学短期大学を徳島文理大学短期大学部に校名変更
- 昭和 62 年 経営情報科設置（香川キャンパス）
- 昭和 63 年 家政科を生活科学科（生活科学専攻、食物専攻）に名称変更
- 平成 8 年 文科英文専攻を文科英語文化専攻に名称変更

- 平成 9 年 文科国文専攻を文科日本文学専攻に名称変更
- 平成 9 年 男女共学
- 平成 11 年 文科を言語コミュニケーション学科に改組
- 平成 15 年 経営情報科を地域ビジネス情報科に名称変更
- 平成 16 年 生活科学科生活科学専攻、言語コミュニケーション学科、音楽科、商科の 4 学科が地域総合科学科（総称）として、短期大学基準協会から適格認定を受ける
- 平成 18 年 生活科学科生活科学専攻介護福祉士コース設置
- 平成 18 年 地域ビジネス情報科廃止届出
- 平成 21 年 生活科学科生活科学専攻介護福祉士コース廃止
- 平成 21 年 短期大学基準協会に「地域総合科学科適格認定取り下げ届」を提出

(2) 短期大学の所在地、位置(市・区・町・村の全体図)、周囲の状況(産業、人口等)等。

＜所在地＞徳島県徳島市山城町西浜傍示 180

＜位置＞JR 徳島駅から徳島市営バス山城町（ふれあい健康館）行き「文理大学前」所要時間約 10 分。



＜周囲の状況（産業・人口等）＞

徳島市は徳島県の東部に位置し、吉野川とその支流がつくり育てた三角州に発達した人口 26 万人余の県都である。地方の中核的都市として、産業をはじめ、政治、経済、文化、教育、情報といった様々な面において高い集積がある。気候は温暖で、物産は豊かである。四国一の大河・吉野川をはじめ市内を縦横に流れる大小の川と優美な眉山の緑は、住む人に安らぎを与え、訪れる人をいやす。また、阿波踊り、人形浄瑠璃、藍染・阿波しじら、木工製品、すだちなど、徳島の風土と歴史が育んだ個性的な文化や産物を有している。まちは天正年間に蜂須賀家政が阿波に入国し、城郭を築いたのが始まりで、蜂須賀 14 代の治世のもと、阿波の政治・経済の中心として栄えた。明治 22 年に市制を施行。大正末期には周辺町村を編入し市域を拡大した。現在では、神戸淡路鳴門自動車道と四国縦貫・横断自動車道の結節点として、近代産業の育成や、高速情報化時代に対応した都市づくりに取り組んでいる。

徳島市の人口 263,918 人 (男 125,016 人 女 138,902 人)

〃 世帯数 113,444 世帯

〃 面積 191.62 km²

平成 22 年 5 月 1 日現在

(3) 法人理事長、学長の氏名、連絡先及びその略歴、ALO の氏名、連絡先及びその略歴。
 なお、連絡先としては、TEL、FAX、E-Mail 等を記載して下さい。

	氏名	略歴	連絡先
理事長	村崎 正人	昭和 61 年 学校法人村崎学園理事 ～現在 平成元年 学校法人村崎学園理事長・学園長 ～現在 平成元年 学校法人村崎学園評議員 ～現在 平成元年 徳島文理大学兼徳島文理大学短期 大学部副学長 ～現在 平成元年 日本私立大学協会理事 (平成 8 年より常務理事) 平成 4 年 日本私立短期大学協会理事 (平成 6 年より常任理事) 平成 8 年 文部科学省教育職員養成審議会委員 ～平成 11 年 (4 期) 平成 11 年 文部科学省大学設置・学校法人審議会 委員 ～平成 20 年 (5 期)	TEL 088-622-0097 FAX 088-626-2998
学 長	桐野 豊	昭和 47 年 東京大学薬学部助手、講師、助教授 を歴任 ～昭和 60 年 昭和 60 年 九州大学薬学部教授 ～平成 5 年 平成 5 年 東京大学薬学部教授、大学院教授、 薬学部長を歴任 ～平成 17 年 平成 17 年 東京大学理事兼副学長 ～平成 18 年 平成 18 年 徳島文理大学兼徳島文理大学短期 大学部学長 ～現在 平成 18 年 学校法人村崎学園理事 ～現在	TEL 088-602-8042 FAX 088-624-1720 E-Mail y-kirino@ tokushima. bunri-u.ac.jp
A L O	阿部 頼孝	昭和 56 年 徳島文理大学短期大学部非常勤講師 昭和 58 年 徳島文理大学短期大学部講師 昭和 62 年 徳島文理大学短期大学部助教授 平成 10 年 徳島文理大学短期大学部教授 ～現在 平成 11 年 徳島文理大学短期大学部学部長 ～平成 21 年	TEL 088-602-8521 FAX 088-622-3217 E-Mail yoritaka@ tokushima. bunri-u.ac.jp

(4)平成16年度から22年度までの学科・専攻（通信による教育を行う学科（以下「通信教育学科」という）、専攻科を含み、以下「学科等」という）ごとの入学定員、入学者数、入学定員充足率（%）、収容定員、在籍者数、収容定員充足率（%）を作成して下さい。廃止、募集停止等の学科等を含む、該当する期間内に設置されたすべての学科等について作成して下さい。なお、在籍者数は毎年度5月1日時点とします。

＜平成16年度～22年度の設置学科、入学定員等＞

学科等の名称		平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	備考
生活科学科 生活科学専攻	入学定員	100	100	100	80	40	40	40	平成18年 介護福祉士 コース設置 (定員40 名) 平成20年4月 介護福祉士 コース募集 停止
	入学者数	33	42	31	21	17	22	33	
	入学定員 充足率(%)	33	42	31	26	42	55	82	
	収容定員	200	200	200	180	120	80	80	
	在籍者数	63	75	67	56	40	40	56	
	収容定員 充足率(%)	31	37	33	31	33	50	70	
生活科学科 食物専攻	入学定員	50	50	50	50	50	50	40	
	入学者数	49	53	45	43	36	28	33	
	入学定員 充足率(%)	98	106	90	86	72	56	82	
	収容定員	100	100	100	100	100	100	90	
	在籍者数	92	102	93	86	81	64	63	
	収容定員 充足率(%)	92	102	93	86	81	64	70	
保育科	入学定員	90	140	140	100	100	100	70	
	入学者数	122	121	89	65	68	28	44	
	入学定員 充足率(%)	135	86	63	65	68	28	62	
	収容定員	180	230	280	240	200	200	170	
	在籍者数	237	235	200	153	125	85	74	
	収容定員 充足率(%)	131	102	71	63	62	42	43	
言語コミュニ ケーション 学科	入学定員	60	60	60	40	40	40	40	
	入学者数	16	22	18	19	22	16	10	
	入学定員 充足率(%)	26	36	30	47	55	40	25	
	収容定員	120	120	120	100	80	80	80	
	在籍者数	33	37	38	37	41	37	26	
	収容定員 充足率(%)	27	30	31	37	51	46	32	
音楽科	入学定員	30	30	30	30	30	30	30	
	入学者数	24	33	22	18	15	14	10	
	入学定員 充足率(%)	80	110	73	60	50	46	33	
	収容定員	60	60	60	60	60	60	60	
	在籍者数	41	56	54	40	31	30	24	
	収容定員 充足率(%)	68	93	90	66	51	50	40	
商科	入学定員	80	80	80	50	50	40	40	
	入学者数	26	28	34	20	21	32	34	
	入学定員 充足率(%)	32	35	42	40	42	80	85	
	収容定員	160	160	160	130	100	90	80	
	在籍者数	86	54	63	55	40	53	65	
	収容定員 充足率(%)	53	33	39	42	40	58	81	
地域 ビジネス 情報科	入学定員	80	【募集停止】						平成17年4月 募集停止
	入学者数	11							
	入学定員 充足率(%)	13							
	収容定員	160	80						
	在籍者数	22	11						
	収容定員 充足率(%)	13	13						

(5)平成 19 年度～21 年度に入学した学生（この事項においては通信教育学科の学生を除く）の出身地別人数及び割合（10 程度の区分）を毎年度 5 月 1 日時点で作成して下さい。なお、短期大学の実態に沿って地域を区分して下さい。

<出身地別学生数（平成 19 年度～21 年度）>

地 域	平成 19 年度		平成 20 年度		平成 21 年度	
	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)	人数(人)	割合(%)
徳 島	127	68.3	122	68.2	103	73.6
香 川	13	7.0	8	4.5	9	6.4
愛 媛	14	7.5	18	10.1	12	8.6
高 知	11	5.9	14	7.8	4	2.9
中 部	0	0.0	1	0.6	2	1.4
近 畿	13	7.0	7	3.9	4	2.9
中 国	1	0.5	2	1.1	2	1.4
九 州	2	1.1	0	0.0	0	0.0
沖 縄	2	1.1	1	0.6	1	0.7
その他	3	1.6	6	3.4	3	2.1
計	186	100.0	179	100.0	140	100.0

(6)法人が設置する他の教育機関の名称、所在地、入学定員、収容定員及び在籍者数をそれぞれ平成 22 年 5 月 1 日時点で作成して下さい。

<法人が設置する他の教育機関の現状>

(平成 22 年 5 月 1 日現在)

教育機関名	所在地	入学定員	収容定員	在籍者数
徳島文理大学	〈徳島キャンパス〉 徳島市山城町西浜傍示 180	1,300	5,850	4,281
	〈香川キャンパス〉 香川県さぬき市志度 1314-1			
徳島文理大学専攻科	徳島市山城町西浜傍示 180	30	30	20
徳島文理大学大学院	〈徳島キャンパス〉 徳島市山城町西浜傍示 180	82	216	112
	〈香川キャンパス〉 香川県さぬき市志度 1314-1			
徳島文理高等学校	徳島市山城西 4 丁目 20	200	600	491
徳島文理中学校	徳島市山城西 4 丁目 20	180	540	404
徳島文理小学校	徳島市山城町東浜傍示 68-10	80	480	365
徳島文理大学附属幼稚園	徳島市山城町東浜傍示 2	80	240	122

(7)その他

評価員が誤解しないように事前知ってもらいたい事項や事情があれば、記述して下さい。

特記事項なし。

I 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

【建学の精神、教育理念について】

(1) 建学の精神・教育理念を記述し、その意味するところ及び建学の精神・教育理念が生まれた事情や背景をできるだけ簡潔に記述して下さい。

本学は、明治 28 年村崎サイにより徳島市に創立された私立裁縫専修学校に端を発し、115 年の長い歴史と伝統に輝いている。学祖サイが裁縫専修学校を創立した時の精神は、四書五経と琴を携え徳島の地に最初の女性教師として赴任した時の想いである。この精神は元々母親の「女も独り立ちが出来ねばならぬ」の言葉を実践したもので、この言葉は本学のオリジナルな建学精神となっている。しかも、この精神は明治の時代に「実学」と「女性の自立」の必要性を認識した学祖の先見性を示したものであり、学祖と親しかった第 6 代慶應義塾大学塾長並びに文部大臣であった林毅陸が師事した福澤諭吉の影響も感じられる。本学の教育に対する基本理念でもある。

本学は、昭和 36 年に創設され、今日の徳島文理大学の礎となっている。本学は、現在 5 学科 2 専攻、徳島文理大学は、8 学部 21 学科を擁する総合大学に発展している。本学の学則第 1 章総則第 1 条には、「本学は教育基本法及び学校教育法に則り、一般教育と密接な関係を保ちつつ広くそれぞれの専門教育の理論と実際について教育し、中正穏健なる人格を涵養するとともに我が国文化の高揚、発展に貢献する有為な人材を育成することを目的とする」と明記している。

村崎凡人前理事長は早稲田大学文学部卒業と第 2 次世界大戦で兵役に服した経験を生かし、本学の教育理念の中に「ヒューマニズム」を取り入れ、大学の使命・目的を確立した。例えば、昭和 60 年村崎凡人理事長が草した村崎サイの伝記によると、学祖サイの建学精神である「女も独り立ちが出来ねばならぬ」の教えは、福澤諭吉の「独立自協力来 自尊自克己生」に重ねられ、「自立協同」と漢語で表現された。この総合的な教育理念を前理事長は「人間の自立と学芸の独立に立脚した教育」として、近代精神を吹き込むことに努めた。「自立協同」は現在にも生きている本学の建学精神である。

◇添付資料① 「2011 年度大学案内」(表紙裏、p. 146-p. 147)

◇添付資料④ 「キャンパスガイドー学生生活と履修の手引きー2010」(扉、p. 100)

◆参考資料(1) 村崎凡人著「村崎サイ 女も独り立ちが出来ねばならぬ」
春秋社 昭和 60 年

(2) 現在は建学の精神・教育理念をどのような形や方法で学生や教職員に知らせているかを記述して下さい。

本学の建学精神である「自立協同」については、図書館(村崎凡人記念図書館)に「自立協同」の扁額を掲げている。また、前理事長である村崎凡人の記念室を設置しており、そこでも建学精神について解説している。理事長は、入学式、卒業式、創立記念式典などにおけるスピーチでは、村崎学園の歴史について学祖村崎サイの信念であった「女も独り立ちが出来ねばならぬ」という言葉から説き起こし、村崎学園の歴史を踏まえた建学精神「自立協同」について解説している。さらには、「人間の自立と学芸の独立を掲げ、教育を推進する」という本学の基本理念についても言及している。学長は、「自立協同」という建学精神を踏まえたうえで、現代社会における大学教育・短期大学教育の意義について

言及している。さらに、学生による入学式での宣誓、卒業式での答辞などでは、建学精神に言及するよう指導している。

新入生には「文理学」を全員受講科目としている。「文理学」は、新入生の学習の中心科目として位置付けられ、新入生が本学学生としてのアイデンティティを醸成することを目的の一つとしている。この科目において、理事長は「建学の精神」について講話し、学長は「自立協同を生かした大学教育の基本的理念」について講話している。なお、この講話には各学科の教員も出席し、教員も共に建学精神や基本理念について学ぶ機会としている。

教職員に対しては、平成 20 年度に「建学精神懸賞論文」を募集し、本学のアイデンティティの明確化を図った。優秀賞に選ばれた懸賞論文 3 篇は、本学の「研究紀要」平成 20 年 9 月第 76 号 157～170 頁に掲載され、その別冊を各教員に配布した。

◆ 参考資料(4) 「徳島文理大学研究紀要」第 76 号

◆ 参考資料(8) 「建学精神懸賞論文」

【教育目的、教育目標について】

(1)多くの短期大学が複数の学科等を設置しています。その場合、それぞれの学科等では建学の精神や教育理念から導き出された、より具体的な教育目的や教育目標を掲げているものと思います（例えば、設置認可の際に「設置の趣旨」等で示されたもの等）。ここでは全学的に示された教育目的や教育目標ならびにそれぞれの学科等が設定している具体的な教育目的や教育目標を記述して下さい。

徳島文理大学短期大学部

本学学則の第 1 章総則第 1 条には「本学は教育基本法及び学校教育法に則り、一般教育と密接な関係を保ちつつ広くそれぞれの専門教育の理論と実際について教育し、中正穏健なる人格を涵養するとともに我が国文化の高揚、発展に貢献する有為な人材を育成することを目的とする」と明記している。

本学では「自立協同」の建学精神を具現化するため以下の二つの教育目的を掲げている。すなわち、①社会的常識や幅広い教養を身に付け、コミュニケーション能力の豊かな人材を育てる。言い換えれば、「品位と知性」を備えた人間性豊かな学生を育てるということである。このことから、本学では、「教養教育」「人間教育」の領域を一方の柱としている。そして、②専門的職業能力を養い、実社会で求められる技能や資格取得を目指す、という点である。これは、「即戦力として、社会の第一線で活躍できる人材」を養成することを意味する。そのため、本学では、在学中にいかにより高い付加価値を学生に付けさせるかという観点から、就職に有利な資格を取得させたりするなど、より実践的・実務的な教育を行っている。すなわち、「職業教育」「実務教育」の分野を、教育のもう一方の柱としている。

生活科学科生活科学専攻

本科は、生活、すなわち衣食住に関する学術を教授研究し、健康で快適な暮らし方に関わる専門的知識・技能を身に付け、時代や地域のニーズに応えられる人材を養成することを教育目的としている。

本専攻は、衣食住における「ものづくり」を通して、創造力、問題発見・解決能力を身

に付け、「生きる情熱」と「素の考える力」のある人材を養成することを教育目的としている。様々な実習を通じてものづくりを深く理解し、美しく楽しい生活空間の創造を探求すると共に、健康で調和のとれた生活をデザイン・実践する力を養うことを教育目標としている。

生活科学科食物専攻

本専攻は、食生活に関する領域の学術を教授研究し、栄養士、栄養教諭、フードスペシャリスト、食品科学技術認定証の資格を取得し、食のスペシャリストを養成することを教育目的としている。国家資格である栄養士をはじめ数々の資格を取得し、実験や実習を重ねて体得した技術や技能を生かし、実践の場で大いに役立つ「食のプロフェッショナル」を目指すことを教育目標としている。

保育科

本科は、次世代を担う子どもの成長と幸福を支援できる専門的知識・技能を習得し、保育を創造する能力、豊かな感性と総合的実践力を備えた人材を養成することを教育目的としている。子どもたちと触れ合う多くの体験を通して保育に必要な多様な能力を育むと共に、保育を計画し、実践できる力を育成することを教育目標としている。

言語コミュニケーション学科

本科は、プレゼンテーション技術を身に付けることを教育の核にし、日本語・英語の表現能力、情報機器の効果的な利用法を習得し、地域社会に貢献できる人材を養成することを教育目的としている。日本語による言語能力を高めると同時に、国際言語である英語による表現能力を徹底的に磨くことにより、国際化社会で必要不可欠な英語と日本語の両方でプレゼンテーションできる能力の習得を目指すことを教育目標としている。

音楽科

本科は、音楽の領域に関する学術の総合的、学際的な教授研究を行い、音楽にかかる専門的知識・技能豊かな教養を備え、実社会に貢献できる人材を養成することを教育目的としている。充実した施設・設備と著名な教授陣の指導により、演奏家としての活動の幅を広げると共に、幼稚園や中学校の音楽の教職免許、音楽療法士の資格取得を教育目標としている。

商科

本科は、ビジネスに関わる学術を教授研究し、情報処理技能をはじめ、商業の領域にかかる専門的知識・技能、企業で生かせる豊かな教養、コミュニケーション力を備え、実社会に貢献できる人材を養成することを教育目的としている。ビジネスの知識と実技を身に付け、実社会で「即戦力」として活躍できる人材の育成を教育目標としている。

◇添付資料② 「徳島文理大学短期大学部学則」 (p. 1)

(2)それぞれの学科等の教育目的や教育目標を、現在ほどのような方法で学生や教職員に周知し、またどのような方法で学外に公表しているかを記述して下さい。

入学式の翌日から2日間にわたって実施される新入生オリエンテーションにおいて、「キャンパスガイド」を用いて、学生に各学科の教育目的の周知を図っている。また、履修指導ガイダンス期間に、担当教員が学生の目指す資格や免許などに必要な専門科目や必修単位などについて、個別に指導を行っている。教職員に対しては、教授会、学科会議、

及び「新入生オリエンテーション打ち合わせ会」などの機会に、各学科の教育目的や教育目標の周知・徹底を図っている。学外に対しては、インターネット上での公式ホームページや「大学案内」、「キャリア短大 始動! Campus Guide 2011 徳島文理大学短期大学部」、リーフレット「ANGAI OMOROI 徳島文理大学短期大学部のAO入試」などの印刷物を通して公表している。

◇添付資料① 「2011年度大学案内」(表紙裏、p.66-p.69)

◇添付資料③ 「キャリア短大 始動! Campus Guide 2011 徳島文理大学短期大学部」

◇添付資料④ 「キャンパスガイドー学生生活と履修の手引きー2010」(扉、p.100)

◇添付資料⑧ 「平成23年度入学試験要項」(p.3)

◆参考資料(9) 「ANGAI OMOROI 徳島文理大学短期大学部のAO入試」

【定期的な点検等について】

(1) 建学の精神や教育理念の解釈の見直し、教育目的や教育目標の点検が、定期的に行われている場合はその概要を記述して下さい。また点検を行う組織、手続き等についても記述して下さい。

建学精神や教育理念の解釈を定期的に見直すための組織や手続きについては特に明確な定めはないが、自己点検・評価制度が推進される中で、その解釈が議論されることがある。また、教育目的や教育目標についても、社会の趨勢や学問上の諸問題を検討して時代のニーズに合った教育内容や学科内での展開を決定している。「徳島文理大学短期大学部学則」については、平成20年4月1日改正即日施行しているが、その中で各科の教育目的について各学科で検討し、教授会の議を経て理事会において承認されている。

(2) 建学の精神や教育理念の解釈の見直し、教育目的や教育目標の点検及びそれらを学生や教職員に周知する施策等の実施について、理事会または短期大学教授会がどのように関与しているかを記述して下さい。

前述のように、建学精神などについて定期的に見直すための組織や手続きについて別段の定めはない。教育目的や教育目標の点検は、各学科会議で随時検討され、教授会の議を経て、理事会において承認されている。

【特記事項について】

(1) この《I 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標について努力していることがあれば記述して下さい。また短期大学で独自の使い方や別の語句を使っている場合はその旨記述して下さい。

＜建学精神懸賞論文の募集＞

教職員には、建学精神の意味や意義の適切な理解を図り、また、本学のアイデンティティを広報するために、平成20年度「建学精神懸賞論文」を募集し、その明確化を図った。その募集テーマは

- ① 建学精神「自立協同」の現代的意義
- ② 建学精神を現在の教育にどう生かすか

③建学の精神を踏まえた大学の使命・目的について

であった。多くの教職員が改めてその精神の意味するところを十分に認識した。なお、優秀賞に選ばれた懸賞論文は本学の研究紀要に掲載された。

<「BUNRI-C」の提唱>

本学では、平成20年度入試から、独自の「アドミッションズオフィス入試」を導入している。その際、アドミッションポリシーとして提唱した教育理念が、「BUNRI-C」である。「BUNRI-C」とは、「自立協同」の建学精神を、学生に分かりやすく説明するため、「徳島文理大学短期大学部（BUNRI-College）」とのゴロ合わせから生まれたものである。すなわち、

B (Basic knowledge) 〈基礎知識〉 社会人になるうえで必要な知識を修得する

U (Uniqueness) 〈個性・独創性〉 自分らしさを見つけ、表現し、輝かせよう

N (human Nature) 〈人間性〉 人として大切な道徳・思いやりの心を持つ

R (Regular life) 〈規則正しい生活〉 健康で楽しい毎日のために正しい生活習慣を身に付ける

I (Independence) 〈自立〉 自ら考え、行動できることが生きる力となる

C (Cooperation) 〈協同〉 他と協力することで、一人では味わえないものが得られる

「AO入試」の広報用パンフレットをはじめ、オープンキャンパスの時に学生が着用するTシャツにも、「BUNRI-C」のロゴを入れ、周知を図っているところである。

◇添付資料③ 「キャリア短大 始動! Campus Guide 2011 徳島文理大学短期大学部」 (p.1)

◇添付資料⑧ 「平成23年度入学試験要項」 (p.3)

◆参考資料(4) 「徳島文理大学研究紀要」第76号

◆参考資料(9) 「ANGAI OMOROI 徳島文理大学短期大学部のAO入試」

(2) 特別の事由や事情があり、評価項目や評価の観点があることが実現（達成）できないときはその事由や事情を記述して下さい。

特記事項なし。

II 教育の内容

【教育課程について】

(1) 学科等の現在の教育課程を作成して下さい。なお学科等に複数の履修コースを設定し、学生に別の教育課程表として提示している場合はコースごとに記載して下さい。
平成 22 年度に学科改組等を行った場合は、平成 21 年度の教育課程表を別途作成し、巻末に綴じて下さい。

一般総合科目 教育課程

(平成 22 年 5 月 1 日現在)

科目の種別	授業科目名	授業形態			単位			教員配置			前年度の履修人員 (クラス数)	備考	
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任			
一般総合科目	人文科学関係科目	哲学	○			2							
		倫理学	○			2							
		歴史	○			2							
		文学	○			2				○		29(1)	
		美術	○			2							
		音楽	○			2				○		28(1)	
		ことばと表現	○			2*	2			○		114(1)	
	社会科学関係科目	法学	○			2							
		くらしと法(日本国憲法を含む)	○			2*	2		○	○		171(3)	
		心理学	○			2				○		10(1)	
		経済学	○			2				○		6(1)	
		社会学	○			2				○		29(1)	
		地理学	○			2							
	自然科学関係科目	社会生活とマナー	○			2*	2			○		85(1)	
		統計学	○			2				○		1(1)	
		物理学	○			2							
		化学	○			2				○		27(1)	
		生物学	○			2				○		57(1)	
		自然科学総論	○			2							
	総合科目	情報リテラシー	○			2*	2		○	○	○	165(3)	
		総合科目A	○			2				○		9(1)	
		総合科目B	○			2							
		総合科目C	○			2					○	7(1)	
		総合科目D	○			2							
		総合科目E	○			2							
	外国語科目	英語A①		○		1				○		50(1)	
		英語A②		○		1				○		31(1)	
		英語B①		○		1							セメスタ移行のため未開講
		英語B②		○		1							セメスタ移行のため未開講
		仏語A①		○		1							セメスタ移行のため未開講
		仏語A②		○		1							セメスタ移行のため未開講
		外国語総合科目A①		○		1					○	4(1)	
		外国語総合科目A②		○		1					○	14(1)	
外国語総合科目B①			○		1					○	3(1)		
外国語総合科目B②			○		1					○	3(1)		
スポーツ・ 体育・ ソク目	健康スポーツA		○		1				○	○	43(2)		
	健康スポーツB		○		1					○	28(1)		
	スポーツ科学理論	○			1				○		69(1)		
文理学科	○			2				○	○	140(6)			
総合ゼミナール	○			2									

注) ①生活科学科生活科学専攻、言語コミュニケーション学科、音楽科及び商科においては、「ことばと表現」「くらしと法(日本国憲法を含む)」「社会生活とマナー」「情報リテラシー」を必修とする。

②単位：必修・選択・自由欄で、2*及び2と示した科目は、学科により必修科目2単位と選択科目2単位に分かれる。

※平成 22 年度に、生活科学科生活科学専攻、言語コミュニケーション学科、音楽科、商科はカリキュラム変更を実施した。したがって、平成 21 年度教育課程表を巻末に添付している。

生活科学科生活科学専攻 教育課程

(平成22年5月1日現在)

科目の種別	授業科目名	授業形態			単位			教員配置			前年度の履修人員(クラス数)	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任		
専門教育科目	生活科学論	○			2			○			—	
	キャリアプランニングⅠ	○			2			○			—	
	キャリアプランニングⅡ	○			2				○		—	
	ホスピタリティ入門	○			2					○	—	
	衣生活論	○			2					○	—	
	被服構成学	○			2			○			—	
	被服構成学実習			○	2			○			—	
	ファッションクリエイションⅠ	○			2			○			—	
	ファッションクリエイションⅡ	○			2			○			—	
	ファッションビジネス	○			2				○		—	
	ファッションデザイン	○			2			○			—	
	ファッショングッズ		○		2					○	—	
	ブライダルコーディネート	○			2					○	—	
	ブライダルプランニング	○			2					○	—	
	ブライダルドレスメイクⅠ			○	2					○	—	
	ブライダルドレスメイクⅡ		○		2					○	—	
	ブライダルジュエリー		○		2					○	—	
	ブライダルフラワー		○		2					○	—	
	ジュエリーデザイン		○		2					○	—	
	洋菓子基礎実習Ⅰ		○		2					○	—	
	洋菓子基礎実習Ⅱ		○		2					○	—	
	洋菓子応用実習Ⅰ		○		2					○	—	
	洋菓子応用実習Ⅱ		○		2					○	—	
	和菓子基礎実習Ⅰ		○		2					○	—	
	和菓子基礎実習Ⅱ		○		2					○	—	
	和菓子応用実習Ⅰ		○		2					○	—	
	和菓子応用実習Ⅱ		○		2					○	—	
	デッサンⅠ		○		2			○			—	
	デッサンⅡ		○		2			○			—	
	グラフィックデザインⅠ(造形論を含む)		○		2			○			—	
	グラフィックデザインⅡ		○		2			○			—	
	着彩写生		○		2			○			—	
	絵画Ⅰ		○		2			○			—	
	絵画Ⅱ		○		2			○			—	
	CGⅠ		○		2					○	—	
	CGⅡ		○		2					○	—	
	陶芸Ⅰ		○		1					○	—	
	陶芸Ⅱ		○		1					○	—	
	CAD製図		○		2					○	—	
	住宅設計製図Ⅰ		○		2					○	—	
	住宅設計製図Ⅱ		○		2					○	—	
	住宅設備	○			2					○	—	
	住宅構造学	○			2					○	—	
	住宅材料学	○			2					○	—	
	構造力学	○			2					○	—	
	住宅施工	○			2					○	—	
	建築法規	○			2					○	—	
	インテリアデザイン	○			2					○	—	
	住生活環境学	○			2					○	—	
	生活空間論	○			2					○	—	
卒業制作(絵画)		○		2			○			—		
卒業制作(CG)		○		2					○	—		
卒業制作(陶芸)		○		2					○	—		
カラーコーディネート	○			2			○			—		
カラーコーディネート検定対策講座	○			2			○			—		
デザイン基礎演習Ⅰ		○		2					○	—		
デザイン基礎演習Ⅱ		○		2					○	—		
コンピュータネットワーク演習Ⅰ		○		2					○	—		
コンピュータネットワーク演習Ⅱ		○		2					○	—		
食生活論	○			2					○	—		
住居学	○			2					○	—		
家庭経営学(家庭経済学を含む)	○			2					○	—		
救急処置及び看護法	○			2					○	—		
保育学(実習を含む)	○			2					○	—		
予防医学	○			2					○	—		
解剖生理学	○			2					○	—		
公衆衛生学	○			2					○	—		
看護学Ⅰ	○			2					○	—		
栄養学	○			2					○	—		
食品学	○			2					○	—		
調理学	○			2					○	—		
調理学実習			○	2					○	—		

科目の種別	授業科目名	授業形態			単位			教員配置			前年度の履修人員 (クラス数)	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任		
専門教育科目	学校保健	○				2				○	—	
	養護概説	○				2				○	—	
	衛生学	○				2				○	—	
	生理学	○				2				○	—	
	健康相談活動	○				2				○	—	
	微生物学	○				2				○	—	
	精神保健学	○				2				○	—	
	看護学Ⅱ	○				2				○	—	
	看護学Ⅲ	○				2				○	—	
看護学Ⅳ(臨床実習を含む)			○		2				○	—		

生活科学科食物専攻 教育課程

(平成22年5月1日現在)

科目の種別	授業科目名	授業形態			単位			教員配置			前年度の履修人員 (クラス数)	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任		
専門教育科目	解剖生理学	○				2				○	3 4(1)	科目等履修生1人
	運動生理学	○			2					○	3 0(1)	
	生化学	○			2			○			2 9(1)	
	生化学実験			○	1			○			3 3(1)	
	食品学概論Ⅰ	○			2			○			2 9(1)	
	食品学概論Ⅱ	○				2		○			1 5(1)	
	食品学実験			○	1					○	2 4(1)	
	食品学各論	○			2			○			2 8(1)	
	食品学各論実験			○	1							
	食品の安全性	○				2				○	2 2(1)	
	食品加工学Ⅰ	○			2			○			3 6(1)	
	食品加工学実習Ⅰ			○	1			○			3 4(1)	
	食品加工学Ⅱ	○				2		○			1 5(1)	
	食品加工学実習Ⅱ			○	1			○			1 4(1)	
	栄養学総論	○			2			○			3 4(1)	
	栄養学各論Ⅰ	○			2					○	3 4(1)	
	栄養学各論Ⅱ	○			2					○	1 4(1)	
	栄養学各論実習			○	1			○			3 3(1)	
	栄養指導論	○				2		○			2 9(1)	
	栄養指導実習Ⅰ			○	1			○			2 9(1)	科目等履修生3人
	栄養指導実習Ⅱ			○	1							セメスタ移行のため未開講
	栄養情報処理	○				2				○	3 3(1)	
	栄養カウンセリング論	○			1					○	3 4(1)	
	栄養カウンセリング実習			○	1			○			3 4(1)	
	臨床栄養学	○			2			○			2 9(1)	
	臨床栄養学実習			○	1			○			3 4(1)	
	病理学	○				2				○	3 4(1)	
	公衆栄養学	○			2					○	3 3(1)	
	給食計画論	○				1				○	2 9(1)	
	給食実務論	○				1				○	2 9(1)	
	給食運営管理実習(校内)			○	1					○	3 1(1)	
	給食運営管理実習(臨地実習)			○	1			○			3 0(1)	
	食品衛生学Ⅰ	○			2					○	3 6(1)	
	食品衛生学Ⅱ	○				2				○	1 2(1)	
	食品衛生学実験			○	1					○	3 3(1)	
	公衆衛生学Ⅰ	○			2							セメスタ移行のため未開講
	公衆衛生学Ⅱ(社会福祉を含む)	○			2							セメスタ移行のため未開講
	公衆衛生学実習			○	1					○	3 3(1)	
	調理学	○			2			○			3 0(1)	
	調理学実習Ⅰ			○	1					○	3 0(1)	
	調理学実習Ⅱ			○	1					○	2 9(1)	
	調理学実習Ⅲ			○	1							セメスタ移行のため未開講
調理科学実験			○		1		○			1 6(1)		
食品流通論	○				2		○			1 1(1)		
食生活論	○			1			○			2 8(1)		
食生活特論	○				2		○			1 1(1)		
フードコーディネータ論	○				2				○	1 7(1)		
学校栄養指導論	○				2				○	4(1)		
生活科学論	○				2							
家庭経済学	○				2							
家族関係	○				2							
住居学	○				2							
衣生活論	○				2							

保育科 教育課程

(平成 22 年 5 月 1 日現在)

科目の種別	授業科目名	授業形態			単位			教員配置			前年度の履修人員 (クラス数)	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任		
専門教育科目	社会福祉	○			2					○	28(1)	科目等履修生1人
	社会福祉援助技術①		○			1				○	57(1)	
	社会福祉援助技術②		○			1				○	57(1)	
	児童福祉	○			2					○	28(1)	
	児童文化①		○			1			○	○	28(4)	
	児童文化②		○			1			○	○	28(4)	
	児童文学	○				2				○		
	教育原理	○			2					○	28(1)	
	保育原理Ⅰ	○			2					○	30(1)	科目等履修生1人
	保育原理Ⅱ	○			2					○	30(1)	科目等履修生1人
	保育課程総論	○			2					○	59(1)	
	乳児保育①		○			1				○	28(1)	
	乳児保育②		○			1				○	28(1)	
	障害児保育		○			1				○	57(1)	科目等履修生1人
	養護原理	○			2					○	28(1)	科目等履修生1人
	保育実習①			○		2				○	57(1)	科目等履修生1人
	保育実習②			○		2				○	57(1)	科目等履修生1人
	保育実習指導			○		1				○	28(1)	科目等履修生1人
	保育実習Ⅱ			○		2				○	57(1)	科目等履修生1人
	保育実習Ⅲ			○		2				○		
	発達心理学	○				2				○	57(1)	
	教育心理学	○				2				○	57(1)	
	地域子育て支援論	○				2			○		57(1)	
	小児保健Ⅰ	○				2				○	30(1)	科目等履修生1人
	小児保健Ⅱ	○				2				○	30(1)	科目等履修生1人
	小児保健実習			○		1				○	28(1)	科目等履修生1人
	小児栄養		○			2				○	28(1)	科目等履修生1人
	精神保健	○				2				○	57(1)	
	家族援助論	○				2			○		57(1)	
	国語	○				2				○		
	算数	○				2				○		
	生活	○				2				○	1(1)	
	音楽Ⅰ①		○			1				○	28(4)	
	音楽Ⅰ②		○			1				○	28(4)	
	音楽Ⅱ①		○			1				○	87(8)	
	音楽Ⅱ②		○			1				○	87(8)	
	音楽Ⅲ①		○			1				○	57(2)	
	音楽Ⅲ②		○			1				○	57(2)	
	図画工作①		○			1				○	28(1)	
	図画工作②		○			1				○	28(1)	
	体育①		○			1				○		
	体育②		○			1				○		
	保育内容総論	○				1				○	57(1)	科目等履修生1人
	保育内容①A(表現)	○				1				○	28(1)	
	保育内容①B(表現)	○				1				○	28(1)	
	保育内容①C(表現)	○				1				○	57(1)	科目等履修生1人
	保育内容①D(表現)	○				1				○	59(2)	
保育内容②A(人間関係)	○				1				○	59(2)		
保育内容②B(人間関係)	○				1				○			
保育内容③A(健康)	○				1				○	59(1)		
保育内容③B(健康)	○				1				○			
保育内容④A(言葉)	○				1				○	28(1)		
保育内容④B(言葉)	○				1				○			
保育内容⑤A(環境)	○				1				○	28(1)		
保育内容⑤B(環境)	○				1				○			
養護内容	○				1				○	57(1)		
保育・教職実践演習(幼)	○				2				○			
レクリエーション概論	○				2				○	6(1)		
レクリエーション実技			○		2				○			

言語コミュニケーション学科 教育課程

(平成 22 年 5 月 1 日現在)

科目の種別	授業科目名	授業形態			単位			教員配置			前年度の履修人員 (クラス数)	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任		
専門教育科目	言語とコミュニケーション	○			2					○	—	
	プレゼンテーション概論	○			2					○	—	
	プレゼンテーション演習Ⅰ		○			2				○	—	
	プレゼンテーション演習Ⅱ		○			2				○	—	

科目の種別	授業科目名	授業形態			単位			教員配置			前年度の履修人員(クラス数)	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任		
専門教育科目	情報機器利用プレゼンテーション演習		○			2		○			—	
	日本語の語法	○				2		○			—	
	日本語概説	○				2			○		—	
	日本語表現法Ⅰ	○				2		○			—	
	日本語表現法Ⅱ	○				2		○			—	
	日本文学A	○				2		○			—	
	日本文学B	○				2		○			—	
	日本文学C	○				2		○			—	
	日本文学史	○				2		○			—	
	書道及び書道史	○				2				○	—	
	中国文学(漢詩文)	○				2			○		—	
	言語学概論	○				2		○			—	
	日本文化論	○				2			○		—	
	総合英語	○				2		○			—	
	英語の語法	○				2		○			—	
	TOEIC・英検対策Ⅰ	○				2				○	—	
	TOEIC・英検対策Ⅱ	○				2				○	—	
	英会話(オーラルコミュニケーション)Ⅰ	○				2				○	—	
	英会話(オーラルコミュニケーション)Ⅱ	○				2				○	—	
	英会話(オーラルコミュニケーション)Ⅲ	○				2				○	—	
	英会話(オーラルコミュニケーション)Ⅳ	○				2				○	—	
	英米文化論	○				2				○	—	
	国際社会と日本	○				2				○	—	
	異文化間コミュニケーション	○				2				○	—	
	英語学概論	○				2		○			—	
	英米文学	○				2		○			—	
	観光総論	○				2				○	—	
	旅行業務入門	○				2				○	—	
	ホテルサービス論	○				2				○	—	
	航空産業入門	○				2				○	—	
	エアラインサービス論	○				2				○	—	
	ホテル・エアライン英会話	○				2		○			—	
ホスピタリティ入門	○				2				○	—		
キャリアプランニングⅠ	○				2				○	—		
キャリアプランニングⅡ	○				2				○	—		
情報機器演習	○				2				○	—		
情報ネットワーク論	○				2				○	—		

音楽科 教育課程

(平成22年5月1日現在)

科目の種別	授業科目名	授業形態			単位			教員配置			前年度の履修人員(クラス数)	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任		
専門教育科目	音楽理論Ⅰ(和声を含む)	○			2					○	—	
	音楽理論Ⅱ(和声を含む)	○			2					○	—	
	音楽史	○			2					○	—	
	ソルフェージュⅠ			○	1					○	—	
	ソルフェージュⅡ			○	1					○	—	
	ソルフェージュⅢ			○	1					○	—	
	ソルフェージュⅣ			○	1					○	—	
	実技AⅠ			○	3			○		○	—	
	実技AⅡ			○	3			○		○	—	
	実技AⅢ			○	3			○		○	—	
	実技AⅣ			○	3			○		○	—	
	卒業研究			○	2			○		○	—	
	実技BⅠ			○	1			○		○	—	
	実技BⅡ			○	1			○		○	—	
	実技BⅢ			○	1			○		○	—	
	実技BⅣ			○	1			○		○	—	
	実技CⅠ			○	1			○		○	—	
	実技CⅡ			○	1			○		○	—	
	実技CⅢ			○	1			○		○	—	
	実技CⅣ			○	1			○		○	—	
	合奏A			○	1			○		○	—	
	合奏B			○	1			○		○	—	
	合奏C			○	1			○		○	—	
	合奏D			○	1			○		○	—	
	吹奏楽演習A		○		1					○	—	
	吹奏楽演習B		○		1					○	—	
	室内楽A			○	1					○	—	
	室内楽B			○	1					○	—	

科目の種別	授業科目名	授業形態			単位			教員配置			前年度の履修人員 (クラス数)	備考		
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任				
専門教育科目	合唱A			○		1					○	—		
	合唱B			○		1					○	—		
	合唱C			○		1					○	—		
	合唱D			○		1					○	—		
	ポピュラー音楽理論	○				2			○				—	
	コンピュータ音楽Ⅰ	○				2			○				—	
	コンピュータ音楽Ⅱ	○				2			○				—	
	作曲法Ⅰ	○				2					○		—	
	作曲法Ⅱ	○				2					○		—	
	指揮法	○				2					○		—	
	伴奏法Ⅰ	○				2					○		—	
	伴奏法Ⅱ	○				2					○		—	
	比較音楽学	○				2					○		—	
	音楽特講	○				2			○				—	
	音楽鑑賞A	○				2					○		—	
	音楽鑑賞B	○				2					○		—	
	教育原理	○				2				○			—	
	音楽科教育法	○				2					○		—	
	臨床心理学	○				2					○		—	
	音楽心理学	○				2					○		—	
	医学概論	○				2					○		—	
	老年医学	○				2					○		—	
	発達障害論	○				2					○		—	
	ヒューマニズム論	○				2			○				—	
	音楽療法概論Ⅰ	○				2			○				—	
	音楽療法概論Ⅱ	○				2			○				—	
	音楽療法論臨床Ⅰ	○				2					○		—	
	音楽療法論臨床Ⅱ	○				2					○		—	
	音楽療法演習Ⅰ		○			1					○		—	
	音楽療法演習Ⅱ		○			1					○		—	
	音楽療法実習Ⅰ			○		1.5					○		—	
	音楽療法実習Ⅱ			○		1.5					○		—	

商科 教育課程

(平成22年5月1日現在)

科目の種別	授業科目名	授業形態			単位			教員配置			前年度の履修人員 (クラス数)	備考	
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任			
専門教育科目	経済学Ⅰ	○			2						○	—	
	経営学Ⅰ	○			2			○				—	
	経済学Ⅱ	○				2					○	—	
	経営学Ⅱ	○				2			○			—	
	簿記論Ⅰ	○				2			○			—	
	簿記論Ⅱ	○					2		○			—	
	会計学	○				2			○			—	
	原価計算	○					2		○			—	
	簿記演習Ⅰ		○				1		○			—	
	簿記演習Ⅱ		○				1		○			—	
	原価計算演習		○				1		○			—	
	会計学演習		○				1		○			—	
	コンピュータ概論	○					2				○	—	
	PC文書作成実習Ⅰ			○		1			○			—	
	PC文書作成実習Ⅱ			○			1		○			—	
	PCデータ活用実習Ⅰ			○		1				○		—	
	PCデータ活用実習Ⅱ			○			1			○		—	
	情報処理Ⅰ	○					2				○	—	
	情報処理Ⅱ	○					2				○	—	
	情報機器演習	○					2		○			—	
	マルチメディア論	○					2				○	—	
	情報ネットワーク論	○					2			○		—	
	ビジネス実務総論	○					2		○			—	
	ビジネス実務演習	○					2		○			—	
	秘書学概論	○					2		○			—	
	秘書実務	○					2		○			—	
	医療秘書概論	○					2				○	—	
	医療事務総論	○					2				○	—	
	医療事務各論	○					2				○	—	
	福祉と介護保険制度	○					2				○	—	
	介護保険事務総論	○					2				○	—	
	医学一般	○					2				○	—	
	キャリアプランニングⅠ	○					2		○			—	

科目の種別	授業科目名	授業形態			単位			教員配置			前年度の履修人員(クラス数)	備考
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任		
専門教育科目	キャリアプランニングⅡ	○				2		○			—	
	現代社会と法	○				2		○			—	
	ビジネスと法	○				2		○			—	
	くらしと税	○				2				○	—	
	商業学(商業史を含む)	○				2		○			—	
	マーケティング	○				2		○			—	
	商品学	○				2		○			—	
	財政学	○				2		○			—	
	金融論	○				2				○	—	
	中小企業経営論	○				2				○	—	
	広告論	○				2				○	—	
	社会心理学	○				2		○			—	
	プレゼンテーション概論	○				2				○	—	
	国語表現法	○				2				○	—	
	ホスピタリティ入門	○				2				○	—	

◇添付資料④ 「キャンパスガイドー学生生活と履修の手引きー2010」 (p. 33-p. 48)

(2) 教養教育の取組み、専門教育の内容、授業形態のバランス、必修・選択のバランス、専任教員の配置等について特に強調したいことがあれば記述して下さい。

教養教育

本学の教育目的の一つは、「社会的常識や幅広い教養を身に付け、コミュニケーション能力の豊かな人材を育てる」ことである。したがって、本学において教養教育は重要な役割を担うことになることと認識している。学生の学力やニーズが多様化する中で、社会人として必要な基礎的知識や能力を養成することを本学の教養教育の中心と位置付け、生活科学科生活科学専攻・言語コミュニケーション学科・音楽科及び商科においては、「ことばと表現」「くらしと法(日本国憲法を含む)」「社会生活とマナー」「情報リテラシー」の4科目8単位を必修としている。これらは、平成16年、短期大学基準協会に上記の4学科が「地域総合科学科」の適格認定を受ける際、特にその特徴をより鮮明に出すために新設した科目である。すなわち、時代の変化に対応し、社会から必要とされる基礎的・基本的な資質・能力を育成するため、汎用的能力に重心を置いた科目構成とした。さらに、幅広い人間の育成を図る視点から、ほかの一般総合科目も、選択履修ができるようにしている。また、建学精神を基軸とした自校教育及び初年時教育を充実させることが必要であるという方向性のもとに、平成19年度より全入学者を対象とした本学独自の科目「文理学」を一般総合科目の中に設け、教養教育の充実に取り組んでいる。

生活科学科生活科学専攻

専門教育では、「生活科学論」「衣生活論」「食生活論」「住居学」の4科目8単位を必修としている。本専攻は「ものづくり」を主としており、デザイン・アート系、ファッション系に加えて、平成20年度より「洋菓子基礎実習Ⅰ・Ⅱ」「洋菓子応用実習Ⅰ・Ⅱ」「和菓子基礎実習Ⅰ・Ⅱ」「和菓子応用実習Ⅰ・Ⅱ」を新設し、演習科目は37科目67単位である。ほかに、免許・資格関連として、教職免許「中2家庭」18科目、「中2保健」13科目、「養護教諭2種」22科目、「フードスペシャリスト受験資格」12科目、「2級建築士受験資格」12科目、「介護員2級資格」11科目がある。

平成21年度開講された専門教育科目80科目153単位における専任教員担当科目は14科目(専任教員率18%)である。

生活科学科食物専攻

栄養士免許取得のための専門科目は 34 科目、50 単位である。そのうち 24 科目が必修科目である。専任教員が行っているのは 16 科目（専任教員率 47%）である。授業科目及び授業形態は栄養士法を順守したものである。

保育科

保育士資格及び幼稚園教諭教職免許に関わる 38 科目を開講しており、そのうち 11 科目が卒業必修科目である。専門教育科目の 50%を学科専任教員が担当している。全科目中、授業形態が演習、実習・実験の科目が 25 科目とほぼ 7 割を占める。学年ごとに、講義とのバランスが取れるように教育課程を編成している。本科の特徴としては、乳幼児の表現に関する教育内容に強調点を置き、「表現」「音楽」などの科目数が多いことがあげられる。

言語コミュニケーション学科

専門教育では、「言語とコミュニケーション」「文学入門」の 2 科目 4 単位を必修とし、それ以外を選択科目としている。また、現代社会が求めるコミュニケーション能力を「プレゼンテーション能力」と考え、平成 19 年度入学者より「プレゼンテーション実務士」の資格を得て卒業できるように、プレゼンテーション関連の 4 科目 8 単位を新設した。

開講されている専門教育科目 44 科目における専任教員担当科目は 25 科目（専任教員率 57%）であり、バランスは取れている。

専門教育科目のうち演習は 3 科目のみであり、それ以外は全て講義となっている。しかし講義科目として分類されている科目においても、実際の授業運営においては教員と学生の双方向的な授業を行うよう配慮しており、また学生に発表させる機会も多く、演習形態に近い授業を試みることにより、講義と演習のバランスを取るよう工夫している。

音楽科

専門教育において、音楽を学習するにあたって最も基礎となる「音楽理論Ⅰ」を必修科目とし、その学習を基盤として種々の選択科目を段階を追って学習することができるように工夫している。近年多様化している音楽の形態（音楽のジャンル、ソロ演奏、合奏、音楽教育、音楽療法など）に柔軟に対応できるように多様な分野の科目を配置し、選択の幅を広げることで学生一人ひとりの進路に合った授業の選択を可能にしている。その中でも、音楽科ではその特性上、演奏実技、音楽療法の実習など、実技・実習関係の科目を重視し充実を図っている。

商科

本科の必修科目は、「経済学Ⅰ」「経営学Ⅰ」「簿記論Ⅰ」「会計学Ⅰ」「PC 文書作成実習Ⅰ」「PC データ活用実習Ⅰ」の 6 科目 10 単位である。それ以外の科目は選択科目であるが、「経済学Ⅱ」「経営学Ⅱ」「簿記論Ⅱ」「会計学Ⅱ」「PC 文書作成実習Ⅱ」「PC データ活用実習Ⅱ」については、上記の必修科目とワンセットとして、全員に受講するよう指導している。開講されている専門教育科目は 48 科目（専任教員率 52%）である。

◇添付資料⑤ 「キャンパスガイドー学生生活と履修の手引きー2009」 (p. 33-p. 52)

(3) 当該教育課程を履修することによって取得が可能な免許・資格を示して下さい。また教育課程に関係なく免許・資格等を取得する機会を設けている場合は、その免許・資格名とどのような履修方法であるかを記述して下さい。

＜教育課程履修で取得可能な免許・資格＞

取得可能な免許・資格	生活科学科		保育科	言語コミュニケーション学科	音楽科	商科
	専攻生活科学	食物専攻				
中学校教諭2種免許状(家庭)	○					
中学校教諭2種免許状(保健)	○					
中学校教諭2種免許状(国語)				○		
中学校教諭2種免許状(英語)				○		
中学校教諭2種免許状(音楽)					○	
小学校教諭2種免許状			○			
幼稚園教諭2種免許状			○		○	
養護教諭2種免許状	○					
栄養教諭2種免許状		○				
栄養士		○				
食品科学技術認定		○				
二級建築士受験資格	○					
保育士			○			
社会福祉主事任用資格	○		○			
司書				○		○
司書教諭				○		
レクリエーション・インストラクター			○			
医療秘書	○	○		○	○	○
秘書士				○		○
上級秘書士						○
情報処理士				○		○
プレゼンテーション実務士				○		○
介護員2級	○			○	○	○
音楽療法士2種					○	

＜教育課程外で取得できる資格＞

取得可能な資格	取得可能学科	備考
日商簿記検定	全学科	
日商PC(文書作成)検定		
日商PC(データ活用)検定		
日商販売士検定		
秘書技能検定		
色彩能力検定		
カラーコーディネーター検定		
ファッション販売能力検定		
ファッションビジネス能力検定		
実用英語技能検定		
TOEICテスト	全学科	
日本語検定		
日本漢字能力検定		
赤十字幼児安全法支援員		
フードスペシャリスト	生活科学科 生活科学専攻・食物専攻	
音楽検定	音楽科	

※ただし、平成21年度教育課程表による。

教育課程外の資格取得については、集中講座を開設したり、関係教員が希望者を募り、課外授業を開くなどして、資格取得支援を行っている。

◇添付資料⑤ 「キャンパスガイドー学生生活と履修の手引きー2009」 (p. 33-p. 78)

(4) 選択科目を学生が適切に判断して選択できるように、学生便覧やガイダンス等でのように指導しているか、また学生が希望する選択科目を履修しやすいように、時間割上どのような工夫を施しているか等について記述して下さい。

必修科目・選択科目とその履修方法については、「キャンパスガイド」に明記しており、オリエンテーションの中で各クラス担任が「キャンパスガイド」の内容を詳しく説明し、また個別の履修指導も行っている。また、クラス担任以外にも、学生支援グループが履修相談に応じる支援体制を整えている。

選択科目を履修しやすいようにするために、各学科は開講年次及び専門領域が同じである科目は同じ時間帯に開講しないように、努めて時間割を作成している。また、教職課程科目はなるべく5時限(16:30~18:00)に開講したり、資格に関する科目を集中講義として開講するなどの工夫をしている。

◇添付資料④ 「キャンパスガイドー学生生活と履修の手引きー2010」 (p. 26-p. 48)

(5) 卒業要件単位数及びその他の卒業要件(必修単位の修得、学生納付金の納付等)を示して下さい。また学生にはどのような方法で卒業要件を周知させているかを記述して下さい。

<卒業要件単位数及びその他の卒業要件>

卒業要件単位数は、全学科 62 単位以上であり、その中で必要な専門教育科目単位数は 54 単位以上である。そのほかの卒業要件(学生納付金の納付等)については、「キャンパスガイド」に明記している。

<学生への卒業要件周知方法>

卒業要件の周知方法については、「キャンパスガイド」をもとに、入学時及び各学期の初めにクラス担任がオリエンテーションの中で説明したうえで個別の履修指導も行っている。

◇添付資料④ 「キャンパスガイドー学生生活と履修の手引きー2010」 (p. 13-p. 16
p. 26-p48 p. 100-p. 107)

(6) 教育課程の見直し、改善について、学科等の現状を記述して下さい。なおこの項はできれば学科等の責任者(学科長、学科主任等。以下「学科長等」という)が記述して下さい。

本学では、平成 22 年度から短期大学本来の教養教育をベースにしながら、より実践的な短期大学へと進化を遂げるため、「キャリア短大」として各学科にコース制を設け、職業を強く意識した科目を追加した。また同時に、コンパクトで効率的な大学運営を目指して、科目の再編やカリキュラムの見直しを行った。なお、本学での「コース」は学生がより明確な目的意識を持って学ぶための「履修モデル」であるので、クラス分けは行っていない。

生活科学科生活科学専攻（学科長の見解）

本専攻では、平成 20 年度に開設した「パティシエコース」に加えて、平成 22 年度から新たに「ブライダル・ファッションコース」と「デザイン・アートワークコース」を設けた。「パティシエコース」では、洋菓子と和菓子の確かな製造技術を身に付け、また、創作の基礎となる芸術的センスを磨く授業を設けている。「ブライダル・ファッションコース」には、「ブライダルビジネスコミュニケーション」、「ブライダルファッション」、「ブライダルプランニング」などの科目を新設した。また、「デザイン・アートワークコース」では、陶芸をはじめ、グラフィックデザインからジュエリーまで様々な分野のデザインを学べるよう配慮している。

生活科学科食物専攻（専攻主任の見解）

栄養士免許を取得するために全て必要な科目であり、栄養士法により定められているので、教育課程の見直し、改善の余地は限定されている。とはいえ、本専攻では、栄養士のほかに、栄養教諭 2 種、食品科学技術認定資格、フードスペシャリストなどの資格が取得できることから、学生にとってより学習効果が上がるようにカリキュラム上の工夫をしている。

保育科（学科長の見解）

教育課程のほとんどが保育士資格・幼稚園教諭 2 種免許状を取得するために必要な科目であるため、全体的な教育課程の見直しは難しい。既設の科目の教育内容を見直すことによって、時代の変化に対応した保育者養成を行っている。

言語コミュニケーション学科（学科長の見解）

本科では、プレゼンテーション能力が現代社会で求められているコミュニケーション能力であると位置付け、プレゼンテーション能力を養成することを主眼に置いた授業を平成 19 年度入学者より導入した。また、プレゼンテーション能力育成のための授業を新たに 4 科目設置したことにより、「プレゼンテーション実務士」の資格が取得できるようになった。

さらに、平成 22 年度から、「エアポートグランドスタッフコース」と「観光ビジネスコース」を新設した。「エアポートグランドスタッフコース」では、「エアラインサービス論」などの科目を新設し、エアライン関連の様々な職業が目指せるカリキュラムを設定している。また、「観光ビジネスコース」では、「観光総論」や「ホテルサービス論」、「旅行業務入門」などの科目を新設し、観光業界で役立つスキルを身に付け実際に旅行のプランニングができる人材の養成を目指している。

音楽科（学科長の見解）

本科では、平成 22 年度から音楽業界の多様な進路に直結した 4 コース 6 専修を設けている。すなわち、「演奏コース（ピアノ専修・声楽専修・管弦打楽器専修・電子オルガン専修）」、「ニューサウンドコース（コンピュータミュージック専修・シンガーソングライター専修）」、「音楽療法コース」、「総合音楽コース」である。それぞれ少人数制を採用しており、学生一人ひとりの個性や目指す進路と向き合い、きめ細かいサポート体制を敷いている。

商科（学科長の見解）

本科では、平成 22 年度から「ビジネス実務コース」と「医療事務コース」を新設した。「ビジネス実務コース」では、「ビジネス実務総論」、「ビジネス実務演習」などの科目を設けることにより、これまでの「上級秘書士」に加えて「ビジネス実務士」の資格が取れるようになった。また、授業科目の見直しを行い、様々な分野で通用するビジネス実践力を身に付けさせると共に、PC 検定・簿記検定などの資格取得に対応したカリキュラムを編成している。他方、「医療事務コース」では、「医療秘書概論」、「医療事務総論」、「医療事務各論」を本科の専門科目として設け、就職に有利な医療系の資格や検定に対応すると共に、医療の本質に関する知識が身につくカリキュラムとなっている。

【授業内容・教育方法について】

(1) シラバスあるいは講義要項を作成・配布する際に配慮していることや学生への周知方法等を記述して下さい。

シラバスは Web シラバスとして閲覧できるようになっている。Web シラバスでは科目名、開講学科、担当教員名、単位数、科目群、必修・選択の区別、開講期、対象学年、授業概要及び到達目標、授業計画、授業方法、評価方法、教科書、参考書、備考など 15 項目を簡潔にまとめ、学生が理解しやすいよう配慮している。

◇添付資料⑦ 「2010 年度 シラバス」(CD 版)

◆参考資料(10) 「2010 年度 シラバス」(冊子)

(2) 学生の履修態度、学業への意欲等について、学科長等はどのように把握し受け止めているか記述して下さい。

生活科学科生活科学専攻（学科長の見解）

本専攻は演習系の科目が中心である。学生は、ものをつくる作業の工程で自己を発見していく。真面目な学生が多く、互いに良い刺激を与えており、2 年間という短い時間的制約の中で、予想以上の進歩を見せている。

生活科学科食物専攻（専攻主任の見解）

本専攻に入学する学生は「栄養士免許の取得」という目的意識が強く、そのために学習態度は真面目で熱心である。授業の準備や取り組みも熱意を持って行い、誠実である。特に実験・実習には興味を持っており、受講態度も積極的である。近年は学力に少し問題のある学生も見受けられるが、教員の熱心な個別指導と学生同士の連携やグループ学習及び本人の努力により徐々に学力も向上している。栄養士は「いかに他人と協力(協調)するか」ということも勉学の範囲であり、積極的にグループ学習を行うことで、学生同士がお互いをよく知り、刺激しあえるよい経験になっている。

保育科（学科長の見解）

入学直後から学外実習への意識付けを行い、専任教員を中心に遅刻・欠席や授業態度について厳格な指導を行っている。将来保育者になるという明確な目的を持っている学生がほとんどであるため、授業態度は良好である。授業内容においても、グループ活動やゲストによる講話、保育実践現場の見学を取り入れるなど学生の興味を引き出す工夫をしており、意欲的な学習活動が行われている。

言語コミュニケーション学科（学科長の見解）

本科の学生は、学習意欲が高く、学習態度も良好である。学生は授業の準備や課題への取り組みにも熱心であり、授業への関わりも積極的である。しかし、入学者の学力の多様化により、学習意欲はあるものの学力に問題がある学生もいることは事実である。そのような学生には予習の仕方やノートの取り方などのきめ細かな個別指導により、自信をもって授業に参加できるよう配慮するように心がけている。

音楽科（学科長の見解）

本科の学生は、総じて温和で真面目である。大学音楽学部との関わりが密であり、単科の短期大学にはない非常に恵まれた音楽的環境にある。定期演奏会をはじめとして、多数の演奏会やアンサンブルを経験でき、それらを通して社会性、協調性が自然と体得できる。ただ、音楽的能力などに個人差があることは否めない。音楽的能力などが比較的低い学生には、教員が特別に個別指導を行うなどの方策を講じている。

商科（学科長の見解）

本科の学生は、一般的に履修態度が良く、学習意欲も強い。また、就職に有利な資格取得に対する関心が強く、特に「P C文書作成実習Ⅰ・Ⅱ」のような実習系の教科には、クラスの全員が熱心に取り組んでいる。学生によって、学力、学習意欲において多少の開きがあるが、個別指導を行うなど、個々の学生のやる気を引き出すよう努めている。

【教育改善への努力について】

(1) 学生による授業評価を行っている場合はその概要を記述して下さい。行っていない場合にはその事由等を記述して下さい。

自己点検・評価の一環として、「学生による授業評価」を前期・後期の各学期末に定期的実施している。本調査の目的は、授業に対する学生の理解度や満足度を測定することによって、今後の授業をより充実したものに改善していくための一つの判断材料とするところにある。平成 20 年度から、徳島文理大学教育開発機構 F D 研究部会が全学で実施したアンケート調査を使用した。調査結果については、各教員がコメントを付けた用紙を一定期間、個人研究室の前に掲示することによって、学生にもその結果を公開している。

◆参考資料(11) 「平成 21 年度学生による授業評価—学生アンケートに基づく分析—」

◆参考資料(12) 「授業に対する学生の評価アンケート」（マークシート用紙）

(2) 短期大学全体の授業改善（ファカルティ・ディベロップメント(FD)活動等）への組織的な取り組み状況について記述して下さい。また短期大学の責任者（以下「学長等」という）は授業改善の現状について、どのように受け止めているかを記述して下さい。

平成 7 年度から授業改善のための授業評価アンケートは行ってきたが、平成 18 年度に改めて、本学・大学合同の「徳島文理大学教職員融合の F D 研究会」を発足させた。一般教養科目の教員が軸となり 4 回の研究会及び全学の教職員を対象とした講演会を開催した。平成 19 年度からは、F D 活動をより組織的な取り組みとするために、本学・大学合同の「教育開発機構」を設立し、多面的に F D 活動を実施する体制を整えた。「教育開発機構」は、全学カリキュラム委員会・入試制度検討部会・一般教育研究部会・学部教育連絡

部会・FD研究部会の5部門から構成され、活動を行っている。平成20年度前期の活動内容は、「文理学」のシラバスの改善、GPA評価制度導入の検討、全学統一フォーマットによる授業評価の研究、学習ポートフォリオの研究などが主なものである。また「教育開発機構」の各部会の活動を全学的に共有するために、平成20年度には「本学のFDを考える会」を開催し、全教職員対象に各5部会のFDに対する取り組みを報告する機会を設けた。

平成21年度からはより実践的なFD活動を目指し、講演会「授業改善への第一歩―授業評価アンケート・研究授業をどう活用するか―」やスキルアップを目指した研修「授業・業務で使えるパワーポイント作成講座」を開催したほか、「卒業生に対する満足度調査」も実施した。

これらの結果は「FD研究部会活動報告書」としてまとめられている。本学では「新入生アンケート」も実施しており、「授業評価アンケート」「卒業生に対する満足度調査」と共に独自に報告書を作成して、教員各自の授業改善及び職員のSD活動に役立てている。また、「研究授業」は前期・後期各2回行っている。学科の枠を超えて参観しあい、意見交換する機会を設けたことによって、授業改善への意識や方法などの共有化が進んだ。今後もFD研究部会と連携しながら授業改善を推進したいと考えている。

＜学長の見解＞

従来、教育・研究年報を通じた教員の個人的なレベルにおいての、また各学科のレベルにおいての取り組みであった授業改善に向けての努力を、平成19年度には教育開発機構を設置することにより、全学的に組織的な取り組みの体制を構築することができ、平成20年度にはさらに実質的な活動が展開されるに至った。本学と大学の各学部の全学的なFD活動を通じて、授業改善の方策の共有化が図られ、学部の枠を超えて同じ分野の教員が授業内容や直面する課題を共有し、情報交換が活発になったことにより、教員の授業改善に対する意識は高まったと評価している。一方で、必ずしも全教員が同じ意識レベルであるとはいえない面もある。そこで、組織的なFD活動をより活性化させるとともに、平成20年度から開始した1年間の活動報告書（各教員が学長に提出）に基づき、学科長、学部長、あるいは、学長が教員個人にアドバイスすることにより、すべての教職員が同じ意識の高さをもってよりよい授業が展開できるよう、徹底した授業改善を推し進めていきたいと考えている。

- ◆参考資料(11) 「平成21年度学生による授業評価-学生アンケートに基づく分析-
- ◆参考資料(13) 「平成21年度新入生アンケート報告書」
- ◆参考資料(14) 「平成21年度卒業生に対する満足度調査-学生アンケートに基づく分析-
- ◆参考資料(16) 「FD研究部会活動報告書」
- ◆参考資料(17) 「教育開発機構設置要綱」
- ◆参考資料(18) 「大学活性化のための学生による意識調査 平成7年度結果報告」
- ◆参考資料(28) 「教育・研究年報」2007年
- ◆参考資料(29) 「教育・研究年報」2008年
- ◆参考資料(30) 「教育・研究年報」2009年

(3) 担当授業について教員間の意思の疎通や協力体制、または兼任教員との意思の疎通について、学科長等は現状をどのように受け止めているかを記述して下さい。

全学科が定期的に学科会議を開催し、教学・学生生活・就職などについて、学生の満足度を高めるための方策を議論し、指導に当たっている。また、特にいわゆる「ホウ・レン・ソウ」（報告・連絡・相談）をキーワードとして、教員間に意思の疎通や協力体制を築く努力を行っている。

生活科学科生活科学専攻（学科長の見解）

専任教員同士の情報交換などは随時行っている。また、年間6回のオープンキャンパスと、卒業制作展という大きな行事に向けて協力体制をしっかりと取っている。本専攻のメインである「ものづくり」の演習授業は、外部で活躍している現役の方々に非常勤講師として多くの科目を依頼している。使用する材料・消耗品などについて密接な情報交換が必要であり、学科長が、各講師と講座の前後などに直接、意思疎通を図っている。また、兼任教員とは必要に応じて学科長が直接情報交換を行っている。

生活科学科食物専攻（専攻主任の見解）

専任教員同士の意思の疎通、協力体制はしっかりと取れている。兼任教員との意思の疎通や協力体制については、専攻主任が必要に応じて面談し、情報交換や意思の疎通を図っている。

保育科（学科長の見解）

専任教員は毎月の学科会議のほか、各種実習や学生指導についての情報交換を日常的に行っている。意思の疎通は良好であり、複数担当の授業や学科主催の行事も協力しながら当たっている。兼任教員に対しては、定期的に学生の出席状況を尋ねる機会を設け、学生指導についての情報交換を行うように努めている。また、「音楽Ⅰ」など音楽関係科目を担当する兼任教員に対しては、年度ごとに指導内容や到達基準などについて説明する会を設けている。

言語コミュニケーション学科（学科長の見解）

「プレゼンテーション能力」の育成を学科教育の柱として教育改革を行ったことにより、担当授業についての専任教員間の日常的な情報交換の機会が増え、協力して教育にあたる意識が以前にも増して高まった。また、兼任教員とは、科目担当を依頼する段階で、学科長が学科の教育目標と担当科目の内容について説明すると共に、事前に面談を行うことにより、意思の疎通を図っている。

音楽科（学科長の見解）

ほとんどの教員が、本科・大学音楽学部両方のレッスンや授業を担当している。定期演奏会やウインドオーケストラ、OBオーケストラなど、多岐にわたる演奏会、受験対策セミナーなどの活動を、全教員が総掛かりで取り組んでいる。また、地域に開かれたキーボード・合唱の社会人講座など、本科・大学音楽学部の全教員が一致協力し熱心に行っている。

商科（学科長の見解）

年度始めの学科会議において、本科としての教育目標や教育方針などについての共通理解が持てるように話し合いの場を設けている。また、簿記・会計関係科目担当の教員が各学期初めに集まり、それぞれの教科の学習範囲などにつき、検討している。情報機器関係

の科目についても、同様の作業を行っている。なお、兼任教員とは、必要に応じて学科長が直接情報交換を行っている。

【特記事項について】

(1) この《Ⅱ教育の内容》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、例えば、他の教育機関との単位互換制度、習熟度別授業、情報・メディア教育、国際理解教育、海外研修制度、インターンシップ、女子教育の伝統継承と発展への取組み等、学科等において努力していることがあれば記述して下さい。

<習熟度別授業>

保育科では「音楽Ⅰ」「音楽Ⅱ」のピアノ実技の指導を8～9名の習熟度別クラスで行っている。初心者クラスでは読譜や指使いから指導し、経験者クラスではより高度な演奏力や伴奏付けなどの応用力を養う指導を行っている。学生は同程度の進度のグループで学べる安心感と適度な競争意識によって積極的に取り組んでおり、指導の効果をあげている。

<海外研修制度>

①短期語学研修制度

本学は、語学研修・異文化体験を目的として海外語学研修を実施している。

・夏期カナダ英語研修

毎年、英語スピーチコンテストで最優秀賞を獲得した2名の学生と、学生の希望者が、8月中の約3週間、カナダの協定校ランガラ大学で、各国から参加した学生と共に、能力別クラスに分かれ、午前中は授業を学び、午後は課外活動を行う。研修中はホストファミリー宅に滞在し、カナダの家庭生活を体験する。なお、研修に参加・修了した者は、一般総合科目・英語2単位が認定される。

・夏期韓国語研修

韓国の協定校である檀国大学が、8月の約4週間に実施している韓国語・韓国文化研修に、いろいろな国の学生と共に参加する。研修中は檀国大学の学生寮に滞在し、各国の学生と生活を共有する。本学との協定により、研修中の授業料、寮費、食費は無料である。

・ヨーロッパ芸術研修

例年12月の中旬約2週間、ベネチア、フィレンツェ、ウィーンなどの5都市を訪問し、ヨーロッパの芸術・文化（音楽・美術・建築など）を研修する。さらに、ミラノ近郊にある協定校パヴィア大学を訪問し、学生との交流を図っている。なお、研修に参加・修了した者は一般総合科目・総合科目2単位が認定される。

・春期オーストラリア英語研修

協定校であるオーストラリアのグリフィス大学で春期に実施される語学研修に参加できる。参加者1人につき1家庭のホストファミリー宅に滞在する。

②交換留学制度

1年間の交換留学制度によると、本学からの留学生は現地での授業料が免除になるだけでなく、出席日数や単位の読み替えが可能のため、休学することなく留学ができる。交換留学ができる大学は、檀国大学（韓国）、グリフィス大学（オーストラリア）、

グロスターシャー大学（イギリス）である。なお、平成 21 年度から平成 22 年度にかけて、檀国大学へ男子学生 1 人を本制度の留学生として派遣している。

＜学生プレゼンテーションコンテスト・学生ポスターセッションコンテスト＞

学生プレゼンテーションコンテストの目的は、学生が高度なコンピュータ技術を学び、自分の考えをまとめ、発言する能力を向上させることである。第 6 回コンテスト（平成 21 年度）のテーマは「わが徳島文理大学キャンパスライフ」であった。また、学生ポスターセッションコンテストは、学生が身近な友人の前で学習成果や研究内容を発表する貴重な経験と、将来に生かせるスキルを獲得することを目的として行われているものである。本学では、これ以外にも、英語スピーチコンテストや英語暗誦コンテストなども実施している。

＜インターンシップ教育＞

インターンシップについては、学生に対するキャリア教育の一環として、「インターンシップ委員会」を立ち上げ、積極的に取り組んでいる。平成 21 年度は、総合政策学部のインターンシッププログラムと連携しながら実施した。期間は 8 月 3 日から、同 28 日までのそれぞれ 5 日間で、事前教育・事後教育と併せて行った。参加人数は、商科が 3 名、言語コミュニケーション学科が 5 名であった。平成 22 年度より対象を拡大して実施する予定である。

- ◆参考資料(19) 「2010 年度夏期カナダ英語研修」
- ◆参考資料(20) 「檀国大学交換留学・短期語学研修」
- ◆参考資料(21) 「ヨーロッパ芸術研修旅行」
- ◆参考資料(22) 「オーストラリアグリフィス大学語学研修」
- ◆参考資料(23) 「第 6 回学生プレゼンテーションコンテスト募集要項」
- ◆参考資料(24) 「第 2 回学生ポスターセッションコンテスト募集要項」
- ◆参考資料(25) 「英語スピーチコンテスト」
- ◆参考資料(26) 「英語暗誦コンテスト」

(2) 特別の事由や事情があり、この《Ⅱ教育の内容》の評価項目や評価の観点を求めることが実現（達成）できないときはその事由や事情を記述して下さい。

特記事項なし。

Ⅲ 教育の実施体制

【教員組織について】

(1) 現在の専任教員数の表を作成して下さい。

＜専任教員表＞

(平成 22 年 5 月 1 日現在)

学科等名	専任教員数					設置基準で定める教員数		助手	[ハ]	備考
	教授	准教授	講師	助教	計	[イ]	[ロ]			
一般総合科目	1	5	1	0	7	—	—	0	0	
生活 科学科	生活科学専攻	2	2	0	0	4(2)	—	1	4	家政関係
	食物専攻	2	1	1	0	4	4(2)	—	0	3
保育科	4	2	2	0	8	8(3)	—	0	2	教育学・保育学関係
言語コミュニケーション学科	3	2	0	0	5	5(2)	—	0	2	文学関係
音楽科	2	2	1	0	5	5(2)	—	0	0	音楽関係
商科	3	2	2	0	7	7(3)	—	0	1	経済学関係
(小計)	17	16	7	0	40	33(14)	—	1	12	
[ロ]	—	—	—	—	—	—	5(2)	—	—	
(合計)	17	16	7	0	40	33(14)	5(2)	1	12	

(2) 短期大学の教員にふさわしい資格と資質の有無については、訪問調査の際に、教員の個人調書（①履歴書、②研究業績書、③担当授業科目名、④その他）を提示していただきます。したがって個人調書をこの報告書に添付する必要はありません。

訪問調査時に、教員の個人調書を提示する。

◆参考資料(27) 「教員個人調書」

◆参考資料(30) 「教育・研究年報」2009年

(3) 教員の採用、昇任が適切に行われている状況を記述して下さい。その際、選考基準等を示した規程等があれば訪問調査の際にご準備をお願いいたします。

教員の採用については「教員選考規程」に従い、学長は短期大学部長に教員採用候補者について調査を命じる。短期大学部長は、教員採用候補者調査委員会を設け、候補者を選び学長に推薦する。学長は選考委員会で、「教員等資格審査に関する基準」に基づき、候補者の人格、履歴、教育研究業績、健康などのほかに、資格適性などについても選考を進める。

理事長は学長から推薦のあった候補者につき、学長、副学長、事務局長、短期大学部長の出席のもと、面接を行い、採用の可否を決定する。

教員の採用に用いられる「教員選考規程」は「教員等選考規程」と「教員等資格審査に関する基準」を含み、教員の昇任の方針としても準用されている。特に、「教員等資格審査に関する基準」には、各職位に応じた基準が明記されているので、明確な方針として活用されている。教員の採用は学期中にも行われるが、昇任は年度末に選考委員会を開催し、当該教員の資格審査を行っている。

◆参考資料(31) 「教員選考規程」

(4) 教員の年齢構成について現状を記載して下さい。

＜専任教員等の年齢構成表(短期大学全体で作成)＞

(年齢は平成 22 年 4 月 1 日現在)

区分	年齢ごとの専任教員数(助教以上)						平均年齢	助手等の平均年齢	備考
	70以上	60～69	50～59	40～49	30～39	29以下			
合計人数(40人)	4	23	2	7	4	0	58	41	
割合	10.0	57.5	5.0	17.5	10.0	0.0			

(5) 専任教員は、(a)授業、(b)研究、(c)学生指導、(d)その他教育研究上の業務に対して意欲的に取り組んでいるか。また上記4つの分野の業務取組み状況にはどのような傾向があるかを学長等が記述して下さい。その際、過去3ヶ年(平成19年度～21年度)程度の教員の担当コマ数(担当コマ基準、平均担当コマ数等を含む)、教員の研究業績、教員が参画する学生指導の業務、教員が参画するその他の教育研究上の業務概要を示して下さい。

＜学長の見解＞

本学には、(a)授業、(b)研究、(c)学生指導、(d)その他教育研究上の業務に関して、次のようなPDCAサイクルを回す仕組みができています。それは、①チューター制度、②オンライン学務システム、③学習ポートフォリオ、④教育・研究年報、⑤教員活動報告書、⑥学生による授業評価、⑦卒業生を対象とする満足度調査、⑧大学教育開発機構、⑨提案箱である。

①チューターは、担当した学生(数名程度)に対して、学期はじめの履修科目登録の指導から、日常的に面談を行い、面談記録を個人票(オンライン)に残す。また、学生の自主的な勉学意欲を醸成するために、③学習ポートフォリオの作成を指導し、面談時に学習ポートフォリオを見ることで、学生の日常の行動についてある程度知ることができ、適切なアドバイスが可能となる。履修科目登録及び学習ポートフォリオ作成の指導は、特に初年次生において重要である。②オンライン学務システムは、学生の授業出欠状況、成績、チューターの面談記録等を含むオンライン個人票であり、チューター、クラス担任、学科長、学部長は、それぞれ自己の担当学生の個人票を閲覧することができる。チューター、クラス担任は、授業出席状況、成績情報を踏まえた面接により、学生の勉学意欲を刺激し、また、学生の抱える問題に対処する。学科長、及び、学部長は、チューター、及び、クラス担任による学生への対応をチェックし、適宜、アドバイスを行う。④教育・研究年報を年度ごとに発行して、学科及び短期大学としての自己点検、自己評価を行うとともに、(a)～(d)に関するパフォーマンスを公開している。⑤教員活動報告書は、教員個人が(a)～(d)に関する活動状況を学長に報告するものである。これにより、教員は自己アピールを行うことができ、学長は、各学科における教員の活動状況を把握することによって、教員の適切な配置等を考えることができる。⑥学生による授業評価と⑦卒業生を対象とする満足度調査は、教育活動等の結果と問題点の把握を行う。⑧大学教育開発機構の各部会は、問題点の把握とその改善方策について、学長に対して提言を行い、学長はそれを部局長会、合同教授会、あるいは、理事会において決定し、適切な組織(学科、あるいは、学内委員会等)がそれらを実施する。⑨学内に設置された「提案箱」への投書により、教職員、学生は、いつでも学長宛に学内の問題の訴えやそれらの改善方策の提案をすることができる。

＜平成 19 年度～21 年度 専任教員の担当コマ数＞

学科等		平成 19 年度		平成 20 年度		平成 21 年度	
		人数	平均コマ数	人数	平均コマ数	人数	平均コマ数
一般総合科目		5	2.6	5	2.5	7	6.2
生活科学科	生活科学専攻	7	6.9	5	7.1	4	5.6
	食物専攻	4	4.9	5	4.7	4	4.8
保育科		10	6.5	10	6.7	8	5.9
言語コミュニケーション学科		8	4.7	7	4.8	5	5.9
音楽科		5	8.6	5	7.9	5	7.5
商科		7	3.4	8	3.4	7	3.4

(6) 助手、副手、補助職員、技術職員等を十分に、あるいは可能な限り配置しているか、また助手等が教育研究活動等において適切に機能しているかを学長等が現状を記述して下さい。

＜学長の見解＞

本学は、総合大学である徳島文理大学と連携することによって、短期大学単独で実現できる以上の教育・研究活動を展開しようとしている。したがって、教員・学生をサポートする職員は、学科、学部ごとに配置するよりも、全学共通事務組織（総務ユニット、教育・研究支援ユニット、学生支援ユニット、キャリア・サポートユニット、アドミッションズ・オフィスなど）に全学的視点から配置することとしている。その上で、各学科においては、それぞれの学科特有の教育・研究に必要な人員（実験助手・副手）を配置している（専任教員表参照）。各実習の補助や、学生指導についても教育面での履修指導のみならず修学に関わる全般的なことについても積極的な関わりを持って取り組んでいる。

(7) 2以上の校地（校地が隣接はしていないものの極めて近接しており、学生に対する日常的な学習相談、進路指導、厚生補導等が支障なく行うことができる体制にある場合など例外的な場合以外）において教育研究を行う場合においては、それぞれの校地の専任教員の配置状況について記述して下さい。

本学においては1つの校地で行っているため該当しない。

【教育環境について】

(1) 校舎・校地一覧表を作成して下さい。

校舎について、まず短期大学設置基準第31条（通信教育学科を置く短期大学の場合には短期大学通信教育設置基準第10条を含む）の規定による短期大学全体の基準面積（基準面積を算出する計算式を含む）を示して下さい。また校舎を法人が設置する他の学校等と共用している場合は、他の学校の校舎の基準面積も記載して下さい。さらに校舎の配置図、用途（室名）、専用・共用の別を示した各階の図面を準備して下さい。なお主要校舎については訪問調査の際にご案内いただきます。

本学の設置基準校舎面積は、下表の通り7,150平方メートルとなる。この基準面積に対し本学の校舎面積は、7,422平方メートルであり設置基準の規定を十分に満たしている。

＜校舎・校地一覧表＞

(平成 22 年 5 月 1 日現在)

区 分	収容定員	校 舎			校 地		
		基準面積	現有面積	差異	基準面積	現有面積	差異
徳島文理大学 短期大学部	520人	7,150㎡	7,422㎡	272㎡	5,200㎡	174,818㎡	129,018㎡
(共用)			33,668㎡	33,668㎡			
併設 徳島文理大学 徳島キャンパス	4,060人	29,090㎡	57,902㎡	28,812㎡	40,600㎡		
計	4,580人	36,240㎡	98,992㎡	62,752㎡	45,800㎡	174,818㎡	129,018㎡

※短期大学部校地現有面積 174,818 ㎡はすべて大学との共用。

※基準面積とは短期大学設置基準等、各学校の設置基準で定める面積とする。

基準面積計算式

区分	収容定員 (人)	校舎 (㎡)	校地 (㎡)
		基準面積	基準面積
生活科学科 (家政)	160	2,350	1,600
保育科 (教育学・保育学)	140	1,550	1,400
言語コミュニケーション学科 (文学)	80	1,000	800
音楽科 (音楽)	60	1,250	600
商科 (経済学)	80	1,000	800
徳島文理大学短期大学部 計	520	7,150	5,200

区分	収容定員 (人)	校舎 (㎡)	校地 (㎡)
		基準面積	基準面積
人間生活学部 (家政)	1,660	11,208	16,600
保健福祉学部 (保健衛生学)	720	5,123	7,200
音楽学部 (音楽)	160	2,512	1,600
薬学部 (薬学)	1,200	8,099	12,000
総合政策学部 (経済学)	320	2,148	3,200
【併設】徳島文理大学 (徳島キャンパス) 計	4,060	29,090	40,600

校舎面積

※短期大学部の場合、生活科学科の基準面積が最大のため、別表第二 (イ) から算出し、それ以外の学科については、別表第二 (ロ) から算出。

※大学の場合、人間生活学部の基準面積が最大のため、別表第三 (イ) から算出。

それ以外の学部については、別表第三 (ハ) から算出。

◆参考資料(32) 「校舎、校地に関する図面」

(2)校地・校舎について、他の学校等との共有部分がある場合は、教育研究上の支障が生じないように、どのような措置をとっているかについても記述して下さい。

校地・校舎については、本学と大学は講義室や図書館など多くの部分を共有しているが、教員室やゼミ室・実習室などについては、本学独自のスペースがあり、教育・研究上の支障はないといえる。

(3) 教育研究に使用する情報機器を設置するパソコン室、マルチメディア室、学内 LAN、LL 教室及び学生自習室の整備状況（機種、台数等を含む）について記述して下さい。またその使用状況（使用頻度等）についても記述して下さい。なお、2 以上の校地において教育研究を行う場合においては、校地ごとに記述して下さい。

パソコン室、マルチメディア室、語学学習室の整備及び利用状況は以下の内容になっている。学内 LAN は、全ての研究室及び講義室・実習室には有線のネットワークを構築しており、メディアセンターなど一部のエリアについては無線によるネットワークも構築している。これらのネットワークは高度なセキュリティを確保しており、教務関係・事務関係及び学生とのコミュニケーションなど、様々な利用が行われている。

<パソコン室>

室番号	教室名	面積 (㎡)	機器整備状況						昭1年度コマ数	
			PC機種	台数	プロジェクター	スクリーン	カラープリンタ	モノクロレーザープリンタ	前期	後期
9401	コンピュータ室(1)	262.41	富士通 FMV-C601	100(+1)	有	有	無	4台	7	19
9501	コンピュータ室(2)	262.41	DELL OPTIPLX760	104(+2)	無	2面・有	無	3台	14	8
23404	コンピュータ室	281.61	DELL	72(+1)	有	有	インクジェット 6台	6台	11	11
23405	コンピュータ室		IBM	44(+1)	2台・有	有	レーザー4台 インクジェット 1台	無	6	4
自習室	コンピュータ室	100.08	FMV-C601 DELL	30	2台・有	有	レーザー1台	無	0	0
3604	コンピュータ室	239.81	富士通 FMV-C601	90(+1)	有	有	レーザー4台	無	15	8
25-3F	メディアラボ	317.55	富士通 FMV-D5320(62台) Apple iMac MA166J/A(20台)	80(+2)	無 ※モニター有	無	レーザー5台	8台	7	7
25-4F	マルチメディア室	131.16	富士通 FMV-D5320	42(+2)	無 ※モニター有	無	レーザー2台 大判1台	4台	16	19

※括弧内は教師用パソコン数

<マルチメディア室>

室番号	教室名	面積 (㎡)	機器整備状況						昭1年度コマ数	
			PC機種	台数	プロジェクター	スクリーン	カラープリンタ	モノクロレーザープリンタ	前期	後期
23203	視聴覚室	289.34	パソコン(NEC Mate NX) OHP/書画カメラ/ビデオデッキ(SONY) コンパクトミキサー マイクシステム 操作卓	各1	有	有	無	無	11	10
9303	視聴覚室兼 コンピュータ室(1)	243.41	OHP/書画カメラ/ビデオデッキ(Victor) コンパクトミキサー マイクシステム 操作卓 DLPプロジェクタ ハイビジョンカメラ 録画システム テレビ(SONY)	各1 8台	無	2面・有	無	無	17	19
9603	視聴覚室兼 コンピュータ室(2)	243.41	OHP/書画カメラ/ビデオデッキ(Victor) コンパクトミキサー マイクシステム 操作卓 テレビ(SONY)	各1 8台	有	有	無	無	18	18
3103	3103	194.40	ノートPC(Mebius) デジタルビューア(AV-P960) DVD/VHSレコーダー(HR-DV5) マイクシステム コンパクトミキサー 操作卓	各1	有	有	無	無	14	19
図書館 3F	AVホール	128.30	プロジェクター テレビ(TH-29F135) ワイヤレスマイク	各1	有	有	無	無	機器利用時に 使用	

室番号	教室名	面積 (㎡)	機器整備状況					昭21年度コマ数		
			P C機種	台数	プロジェクター	スクリーン	カラープリンタ	モノクロレーザープリンタ	前期	後期
			ビデオデッキ(NV-DHE10) MD デッキプレーヤー DVD/LD プレーヤー 資料提示装置(HV-500XG) コンパクトミキサー 操作卓本体							
25-4F	スタジオ型講義室	101.80	「メディアセンター関連情報・メディア機器」の通り		有	有	レーザー9台	無	2	2
25-5F	CALL 兼 プレゼンテーション室	165.24		有(4台)	有(4面)	レーザー1台	1台	2	3	
25-4F	バーチャルスタジオ	41.55		無	無	無	無	機器利用時に使用		
25-4F	調整室	13.49		無	無	無	無	機器利用時に使用		
25-4F	録音室	13.49		無	無	無	無	機器利用時に使用		

<語学学習室>

室番号	教室名	面積 (㎡)	機器整備状況					昭21年度コマ数		
			P C機種	台数	プロジェクター	スクリーン	カラープリンタ	モノクロレーザープリンタ	前期	後期
25-5F	CALL 室	85.96	「メディアセンター関連情報・メディア機器」の通り		無	無	レーザー1台	1台	6	5
25-5F	同時通訳室(1)	9.02		無	無	無	無	機器利用時に使用		
25-5F	同時通訳室(2)	9.02		無	無	無	無	6	5	
3-7F	LL 教室	140.4	SONY LLC-9000, ER-9060	81	有	有	無	無	9	9

◆参考資料(33) 「メディアセンター関連情報・メディア機器」

(4) 授業用の機器・備品の整備状況及び整備システム（管理の状況、整備計画等を含む）について、その概要を記述して下さい。2以上の校地において教育研究を行う場合においては、校地ごとに記述して下さい。なお機器・備品の整備状況については訪問調査の際に校舎等をご案内いただく際にご説明いただきます。

教室の使用状況に応じて、液晶プロジェクター、テレビ、ビデオデッキ、DVDプレーヤー、OHP、マイク、スピーカーなどを適切に設置している。授業用の機器・備品は学務入試グループで全体を把握し、日々の使用・点検は学務入試グループ及び当該学科に依頼している。故障による修理依頼などは、施設・サプライグループで対応する。機器・備品の購入は、年度末の次年度予算申請時に当該学科などが申請し、採択された物品を施設・サプライグループが業者との折衝のうえ購入する方法が原則である。

(5) 校地、校舎の安全性、障害者への対応、運動場、体育館、学生の休息場所等について記述して下さい。訪問調査の際にご案内いただき、ご説明願います。

<校地、校舎の安全性>

建物の安全性については、ほとんどの建物は昭和56年に改正された新耐震基準を満たしている。施設設備の安全性については、施設・サプライグループが保守・管理及び調査点検の全般を担当している。消防設備保守、エレベータ保守などは専門業者と委託契約を締結して実施している。

上記に加えて、体育館、音楽ホール、図書館、実験室など各施設設備担当責任者が、専門的な観点から常時その安全に配慮し、利用者への指導並びに日常的な整備点検を実施している。

緊急時に備えて、連絡網と指示体系を明確に定めて全学に周知している。また、消防隊を組織して、毎年全員参加の防火訓練を実施している。そのほか、衛生面では、衛生委員会を定めて日常的に点検を実施している。

本学の位置は、近い将来予想される東南海・南海地震の警戒地域にあり、全建物の耐震化対応を最優先に進めている。

<障害者への対応>

車椅子による移動を考慮し、バリアフリー化に取り組んでいる。建物入口のスロープ化や専用トイレの設置、主要建物でのエレベータ設置、点字表示などに留意している。そして、教職員、学生全てに相互扶助の精神を徹底して安全に努めている。

<運動場>

運動場のうち 11,362 m²は本学から徒歩 20 分に位置し、部室及び器具庫の設備がある。野球、サッカー、ラグビー、陸上の練習、及び学生のレクリエーションに活用されている。

テニスコートは全てオムニコートで 4 面ある。夜間照明を設置しており、学生の利用に支障のない限り一般の利用も認めている。

<体育館>

総合体育館は 3 階建てで、総床面積は 5,666 m²である。1 階は卓球場、柔・剣道場、トレーニングルームになっており、授業や部活動に利用されている。2 階は大ホール兼用のアリーナ、3 階は 360 席の観客席になっている。

<学生の休息場所>

学生の休息場所としては、9 号館 1 階、24 号館 1 階、パウゼ、カフェロティ、図書館ロビーなどがあり、学生は友達との談笑の場や、自習の場として利用している。

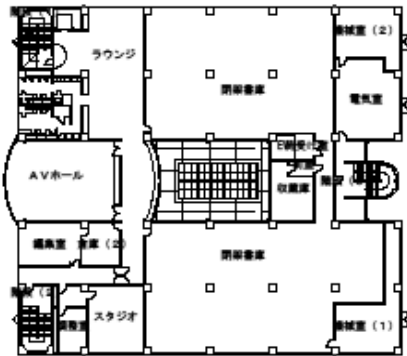
【図書館・学習資源センター等（以下「図書館等」という）について】

(1) 図書館等の概要について、全体の配置図、座席数、年間図書館予算、購入図書等選定システム、図書等廃棄システム、司書数、情報化の進捗状況等を含めて記述して下さい。なお図書館等には訪問調査の際にご案内いただきます。

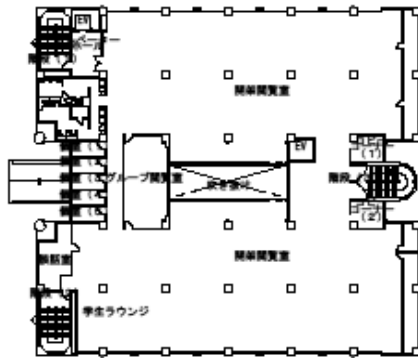
<図書館の概要>

本学の図書館は、徳島文理大学との共用施設のため、設備、組織、蔵書、利用者サービスなどについては、大学と一体的な管理・運営を行っている。蔵書数は平成 22 年 5 月 1 日現在で図書 367,399 冊である。1 階には、前理事長の「村崎凡人記念室」を設け、建学精神や学園の歴史などを紹介している。また、茶室「茶琴亭」やブラウジングコーナー、談話室などが設けられ、憩いの場としても利用されている。なお、ブラウジングコーナーには、学生出身都道府県の地方新聞が全て揃っている。

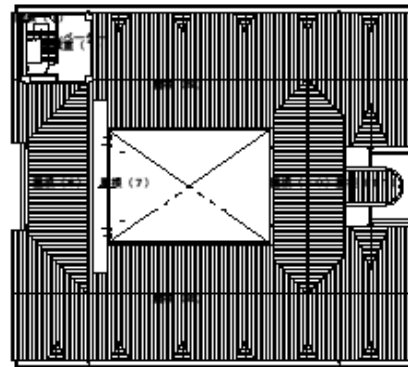
<全体の配置図>



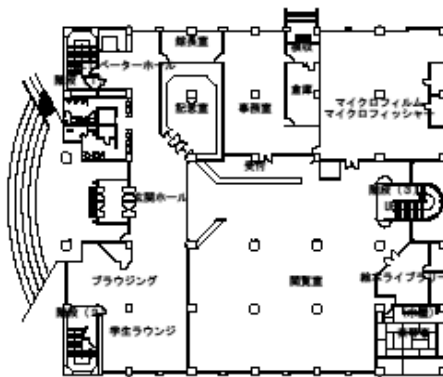
3階平面図



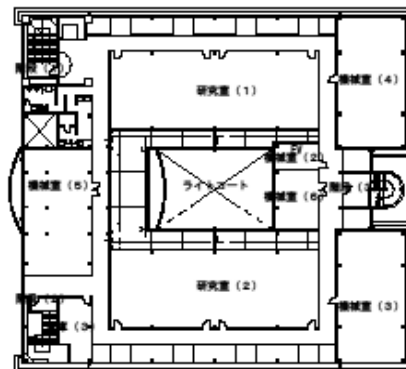
2階平面図



屋階平面図



1階平面図



4階平面図

<座席数>

館内の座席数は 731 席（内 24 席はグループ学習室）あり、学生数に比し十分な席数を確保している。

<年間図書館予算>

本学図書館は大学と共用である。徳島文理大学図書館（徳島キャンパス）の図書館予算は1億1,300万円（うち図書購入費5,700万円、新聞・雑誌費300万円、電子ジャーナル費等5,300万円）である。

<購入図書等選定システム>

各学科の教員による選書会議などによって、教員研究用図書及び学生用図書としてシラバスとカリキュラムに沿った図書を選定する。購入は図書予算から、各教員が各自のパソコンから教職員グループウェアの情報共有システムによって申請手続を行う。

図書館では、全学共通で利用できる学生用図書、学術雑誌、製本、視聴覚資料、辞書、事典、継続図書などを図書館予算（共用分）で購入申請を行う。

<図書等廃棄システム>

学校法人村崎学園「物件の調達管理取扱規程」及び「徳島文理大学図書館図書取扱・管理要領」に基づき廃棄・除籍手続きを実施している。

<司書数>

現在、図書館長1名、事務長1名、司書3名、事務職員1名、合計6名が勤務している。

<情報化の進捗状況>

システムの情報化は進んでおり、入退館の管理や貸出返却はICチップ搭載のキャンパスカードによって行う。蔵書はデータベース化され、利用者は館内の10台の端末機で検索できるほか、学内のパソコンから自由に検索システムを利用することができる。さらに、外部のデータベースともオンラインで結ばれており、大学の枠を超えて資料を求めることができる。また、電子ジャーナルなど約8,500タイトルも24時間利用することができる。

視聴覚情報への対応も進められており、最先端のAV機器を完備したスタジオ及び調整室、編集室を持つ。映像資料の編集や学内向けの番組制作など高度情報化時代に対応した多様な活用が可能である。

◆参考資料(34) 「学園創立100周年 村崎凡人記念図書館」

◆参考資料(35) 「図書館利用規程」

◆参考資料(36) 「物件の調達管理取扱規程」

◆参考資料(37) 「徳島文理大学図書館 図書取扱・管理要領」

(2) 図書館等に備えられている蔵書数（和書、洋書、学術雑誌数、AV資料数等）の表を作成して下さい。

<図書館等蔵書数一覧>

（平成22年5月1日現在）

区分	和書	洋書	学術雑誌	AV資料	電子ジャーナル
冊（種）	266,731冊	100,668冊	1,364種	12,689点	約8,500種

（徳島文理大学と共用）

(3) 図書館等には学生が利用できる授業に関連する参考図書、その他学生用の一般図書等は整備されているか。また学生の図書館等の利用は活発かを、図書館等の責任者(図書館長等)が現状をどのように捉えているかを記述して下さい。

<図書館長の見解>

学生のための図書は、各学科の教員が中心になって学生用図書を選書し、開架閲覧室に配架している。また、各学科の協力を得て「課題図書コーナー」を別置き、図書館資料全般の活発化を図っている。

平成 21 年度の本学の入館者数は 5,955 人、1 人当りの入館回数は 19 回である。年間貸出冊数は 510 冊、1 人当たりでは 1.7 冊である。活字離れやインターネットによる情報収集などが進んでいるため、図書館利用は減少傾向が見られ、今後さらなる改善が必要と考える。

(4) 図書館等からの学内外への情報発信、他の図書館等との連携等、現在の図書館活動について、図書館長等がどのように受け止めているかを記述して下さい。

<図書館長の見解>

本学ホームページにおいて図書館の館内及び利用案内などを一般公開しており、学内のパソコンからは図書館所蔵の資料に関する検索サイトにアクセスすることができる。

ほかの図書館などとの連携については、私立大学図書館協会、日本薬学図書館協議会、徳島県大学図書館協会に加盟し、図書館員のスキルアップと相互協力などを積極的に実施している。国立情報学研究所のデータベースなどを利用し、他大学図書館とも相互貸借、文献複写も活発である。

学生の図書館利用を促すため、就職活動や各学科の学習に役立つ文献を揃えたり「映画鑑賞会」を企画したりして図書館の広報活動に努めている。教員の協力を得て、授業で図書館資料を活用するような宿題あるいはテーマを学生に与えるなどして利用を促してもいる。今後、学生や教員のニーズを把握しながら、活発な図書館活動を行っていきたい。そのために、職員を様々な図書館会議や研修会に参加させ、一人ひとりのスキルアップを図ることを考えている。

【特記事項について】

(1) この《Ⅲ教育の実施体制》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、例えば外国人教員の採用、授業の公開、学習評価活動等、努力していることがあれば記述して下さい。

<外国人教員の採用>

現在、外国人教員 4 名が語学教育にあたっている。

<授業の公開>

研究授業(教員相互の授業参観)を行っており、授業内容の改善に資する取り組みを行っている。

<学習評価活動等>

学習ポートフォリオによる学生指導を行っており、学生自らが自分を見つめながら将来の計画を立てていけるように支援している。また、出欠管理システムなどの ICT を活用し

た方法や、チューター制など様々な方法できめ細かな学生指導を行っている。

(2) 特別の事由や事情があり、この《Ⅲ教育の実施体制》の評価項目や評価の観点求められることが実現（達成）できないときはその事由や事情を記述して下さい。

特記事項なし。

Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

【単位認定について】

(1) 単位認定の方法と評価の実態を記載して下さい。なお、この表は平成 21 年度卒業生が入学時より卒業までに履修した科目について作成して下さい。

一般総合科目の単位認定の状況表

(平成 21 年度卒業生)

種別	授業科目名	授業形態	履修	主な単位認定の方法	単位取得状況 (%)			最終の評価 (%)				
					本試	再試等	計	優	良	可	不可	
一般総合科目	人文科学	哲学	講義	受講希望者なし	—	—	—	—	—	—	—	—
		倫理学	講義	受講希望者なし	—	—	—	—	—	—	—	—
		歴史	講義	受講希望者なし	—	—	—	—	—	—	—	—
		文学	講義	36	試験、レポート	100.0	0.0	100.0	97.2	2.8	0.0	0.0
		美術	講義	—	受講希望者なし	—	—	—	—	—	—	—
		音楽	講義	68	実技、試験、平常点	91.2	1.5	92.6	77.9	14.7	0.0	7.4
	社会科学	ことばと表現	講義	115	試験、平常点	94.8	3.5	98.3	72.2	14.8	11.3	1.7
		法学	講義	—	受講希望者なし	—	—	—	—	—	—	—
		くらしと法(日本国憲法を含む)	講義	116	試験、レポート	84.4	9.9	94.3	34.0	18.4	41.8	5.7
		心理学	講義	13	試験、レポート、平常点	92.3	0.0	92.3	30.8	30.8	30.8	7.7
		経済学	講義	6	試験、平常点	50.0	0.0	50.0	33.3	16.7	0.0	50.0
		社会学	講義	36	試験、平常点	100.0	0.0	100.0	16.7	63.9	19.4	0.0
	自然科学	地理学	講義	—	受講希望者なし	—	—	—	—	—	—	—
		社会生活とマナー	講義	78	試験、平常点	93.6	0.0	93.6	62.8	19.2	11.5	6.4
		統計学	講義	10	試験、レポート、平常点	90.0	10.0	100.0	70.0	20.0	10.0	0.0
		物理学	講義	—	受講希望者なし	—	—	—	—	—	—	—
		化学	講義	36	試験、平常点	86.1	13.9	100.0	19.4	25.0	55.6	0.0
		生物学	講義	57	試験、レポート、平常点	100.0	0.0	100.0	52.6	26.3	21.1	0.0
	総合科目	自然科学総論	講義	—	受講希望者なし	—	—	—	—	—	—	—
		情報リテラシー	講義	166	試験、レポート、平常点	93.4	1.2	94.6	65.1	25.3	4.2	5.4
総合科目A		講義	19	試験、レポート、平常点	94.7	0.0	94.7	73.7	10.5	10.5	5.3	
総合科目B		講義	—	受講希望者なし	—	—	—	—	—	—	—	
総合科目C		講義	—	受講希望者なし	—	—	—	—	—	—	—	
外国語科目	総合科目D	講義	—	受講希望者なし	—	—	—	—	—	—	—	
	総合科目E	講義	—	受講希望者なし	—	—	—	—	—	—	—	
	英語A	英語A	演習	134	試験、平常点	88.6	8.8	97.4	57.9	16.7	22.8	2.6
		英語B	演習	—	受講希望者なし	—	—	—	—	—	—	—
		仏語	演習	—	受講希望者なし	—	—	—	—	—	—	—
外国語総合科目A		演習	3	平常点、レポート	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	
外国語総合科目B	外国語総合科目B	演習	1	試験、レポート、平常点	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	
	体育・スポーツ科目	講義 実技	138	実技、レポート、平常点	100.0	0.0	100.0	62.3	34.8	2.9	0.0	
文理学	講義	179	平常点、レポート	86.6	7.8	94.4	51.4	25.7	17.3	5.6		
総合ゼミナール	講義	10	平常点、レポート	100.0	0.0	100.0	80.0	20.0	0.0	0.0		

生活科学科生活科学専攻の単位認定の状況表

(平成 21 年度卒業生)

種別	授業科目名	授業形態	履修	主な単位認定の方法	単位取得状況 (%)			最終の評価 (%)						
					本試	再試等	計	優	良	可	不可			
専門教育科目	ライフサイエンスフィールド	生活科学エッセ	生活科学論	講義	17	レポート、平常点	100.0	0.0	100.0	64.7	35.3	0.0	0.0	
			衣生活論	講義	17	試験、レポート、平常点	82.4	17.6	100.0	75.0	25.0	0.0	0.0	
			食生活論	講義	17	試験	76.5	23.5	100.0	52.9	5.9	41.2	0.0	
		ライフコアエッセ I	住居学	講義	16	試験、レポート、平常点	100.0	0.0	100.0	43.8	37.5	18.8	0.0	
			家庭経済学	講義	11	試験、平常点	90.9	0.0	90.9	45.5	9.1	36.4	9.1	
			環境科学	講義	—	受講希望者なし	—	—	—	—	—	—	—	
	ライフコアエッセ II	救急処置及び看護法	講義	1	試験、平常点	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0		
		育児学	講義	—	受講希望者なし	—	—	—	—	—	—	—		
		家族関係	講義	4	試験	75.0	0.0	75.0	0.0	50.0	25.0	25.0		
		母子福祉	講義	—	受講希望者なし	—	—	—	—	—	—	—		
	ファッションフィールド	ファッションビジネスエッセ	児童福祉論	講義	1	試験、レポート、平常点	100.0	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	
			ファッションビジネス論	講義	—	受講希望者なし	—	—	—	—	—	—	—	
			ファッションデザイン論	講義	6	レポート	83.3	0.0	83.3	50.0	33.3	0.0	16.7	
			服飾史	講義	5	試験、レポート、平常点	80.0	0.0	80.0	80.0	0.0	0.0	20.0	
		ファッション造形フィールド	生活美学(被服デザインを含む)	生活美学	講義	3	試験、レポート、平常点	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
				アパレルCAD	講義	—	受講希望者なし	—	—	—	—	—	—	—
			ファッション造形エッセ I	ファッション造形論	講義	3	試験、レポート、平常点	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
				服飾工芸実習	実習	5	レポート、作品、平常点	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
			ファッション造形エッセ II	被服整理学	講義	1	試験、レポート、平常点	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
				被服材料学	講義	—	受講希望者なし	—	—	—	—	—	—	—
被服構成学実習 I				実習	5	試験、レポート、作品、平常点	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	
被服構成学実習 II				実習	5	提出物、平常点	100.0	0.0	100.0	80.0	20.0	0.0	0.0	
被服構成学				講義	1	試験、レポート、平常点	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	
卒業制作(ファッションデザイン)				演習	2	レポート、作品、平常点	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	

種別	授業科目名	授業形態	膨員	主な単位認定の方法	単位取得状況 (%)			最終の評価 (%)					
					本試	再試等	計	優	良	可	不可		
専門教育科目	アートクラブ ユニット I	デッサン	演習	3	作品、平常点	100.0	0.0	100.0	33.3	66.7	0.0	0.0	
		グラフィックデザイン I (造形論を含む)	演習	3	作品、平常点	100.0	0.0	100.0	33.3	33.3	33.3	0.0	
		絵画 I	演習		受講希望者なし	—	—	—	—	—	—	—	
		陶芸 I	演習	12	作品、平常点	100.0	0.0	100.0	58.3	41.7	0.0	0.0	
		彫塑	演習	2	作品、平常点	100.0	0.0	100.0	50.0	0.0	50.0	0.0	
		デッサン II	演習	5	作品、平常点	100.0	0.0	100.0	60.0	40.0	0.0	0.0	
		グラフィックデザイン II	演習	4	作品、平常点	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	
		絵画 II	演習		受講希望者なし	—	—	—	—	—	—	—	
		陶芸 II	演習	11	作品、平常点	90.9	0.0	90.9	45.4	36.4	9.1	9.1	
	アートクラブ ワールド II	卒業制作 (絵画)	演習	4	作品、平常点	100.0	0.0	100.0	50.0	25.0	25.0	0.0	
		卒業制作 (陶芸)	演習	6	作品、平常点	100.0	0.0	100.0	66.7	33.3	0.0	0.0	
		CG I	演習	14	作品、平常点	100.0	0.0	100.0	21.4	50.0	28.6	0.0	
		CG 検定対策講座	演習		受講希望者なし	—	—	—	—	—	—	—	
		CG II	演習	12	作品、平常点	100.0	0.0	100.0	8.3	25.0	66.7	0.0	
		卒業制作 (CG)	演習	12	作品、平常点	100.0	0.0	100.0	16.7	16.7	66.7	0.0	
		家庭電気・機械	講義	1	試験、平常点	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	
		美術概論 (美術史・建築史含む)	演習	6	レポート、平常点	66.7	0.0	66.7	0.0	33.3	33.3	33.3	
		CAD 製図	演習	8	作品	62.5	12.5	75.0	25.0	25.0	25.0	25.0	
	住居インテ リアフィー ルド	住居ユ ニット	生活空間論	講義	4	試験、平常点	100.0	0.0	100.0	0.0	25.0	75.0	0.0
			生活デザイン論	講義	4	作品、平常点	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
			インテリアデザイン	講義	4	試験、平常点	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0
		インテ リアユ ニット	人間工学	講義	7	試験、レポート	42.9	28.6	71.5	14.3	28.6	28.6	28.6
			木工デザイン	演習	4	提出課題、平常点	100.0	0.0	100.0	25.0	0.0	75.0	0.0
			色彩学	講義	17	作品、平常点	76.5	5.9	82.4	64.7	5.9	11.8	17.6
			カラーコーディネート 検定対策講座	講義	7	試験	71.4	0.0	71.4	0.0	71.4	0.0	28.6
		カラー デザイ ネット エクト	色彩と表現	演習	4	作品、平常点	100.0	0.0	100.0	50.0	50.0	0.0	0.0
			洋菓子 ユニ ット	洋菓子基礎実習 I	演習	15	レポート、平常点	100.0	0.0	100.0	86.7	6.7	6.7
洋菓子基礎実習 II				演習	14	レポート、平常点	100.0	0.0	100.0	42.9	42.9	14.3	0.0
洋菓子応用実習 I	演習	14		レポート、平常点	100.0	0.0	100.0	57.1	35.7	7.1	0.0		
和菓子 ユニ ット	洋菓子応用実習 II	演習	14	レポート、平常点	100.0	0.0	100.0	35.7	28.6	35.7	0.0		
	和菓子基礎実習 I	演習	15	作品、平常点	100.0	0.0	100.0	80.0	20.0	0.0	0.0		
	和菓子基礎実習 II	演習	14	作品、平常点	100.0	0.0	100.0	78.6	21.4	0.0	0.0		
	和菓子応用実習 I	演習	14	作品、平常点	100.0	0.0	100.0	21.4	50.0	28.6	0.0		
販売士 フォー ム	販売士 エクト	商品学	講義		受講希望者なし	—	—	—	—	—	—		
		マーケティング	講義	10	試験、平常点	40.0	20.0	60.0	10.0	10.0	40.0	40.0	
健康・ 福祉フ ィールド	健康ユ ニット	家庭看護学	講義	1	試験、レポート	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	
		予防医学	講義	3	レポート、平常点	66.7	33.3	100.0	66.7	0.0	33.3	0.0	
		リハビリテーション論	講義		受講希望者なし	—	—	—	—	—	—	—	
		ケアマネジメント技術	実習		受講希望者なし	—	—	—	—	—	—	—	
		社会福祉制度政策論	講義		受講希望者なし	—	—	—	—	—	—	—	
	福祉ユ ニット	障害者福祉論	講義		受講希望者なし	—	—	—	—	—	—	—	
		介護概論	講義		受講希望者なし	—	—	—	—	—	—	—	
		介護実技	講義		受講希望者なし	—	—	—	—	—	—	—	
	医療事 務ユ ニット	施設介護実習	実習		受講希望者なし	—	—	—	—	—	—	—	
		医療秘書概論	講義	27	試験、提出物、平常点	81.5	7.4	88.9	55.6	11.1	22.2	11.1	
		医療事務総論	講義	7	試験、レポート、平常点	100.0	0.0	100.0	71.4	14.3	14.3	0.0	
	医学基 礎ユ ニット	医療事務各論	講義	7	試験、レポート、平常点	71.4	28.6	100.0	57.1	14.3	28.6	0.0	
		薬理概論	講義	7	試験、平常点	42.9	42.9	85.8	28.6	0.0	57.1	14.3	
		解剖生理学	講義	1	試験、小テスト	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	
		公衆衛生学	講義	6	試験、レポート、平常点	83.3	0.0	83.3	50.0	33.3	0.0	16.7	
フー ドスペ シヤリ ストフ ィールド	フー ドス ペシ ヤリ スト ユニ ット I	看護学 I	講義	8	試験、レポート、平常点	50.0	25.0	75.0	25.0	0.0	50.0	25.0	
		栄養学 I	講義	5	試験	80.0	0.0	80.0	60.0	0.0	20.0	20.0	
		食品学	講義	12	試験	75.0	0.0	75.0	58.3	16.7	0.0	25.0	
		調理学	講義	11	試験、レポート	45.5	9.1	54.6	0.0	9.1	45.5	45.5	
	フー ドス ペシ ヤリ スト ユニ ット II	調理学実習	実習	14	ノート、平常点	100.0	0.0	100.0	21.4	28.6	50.0	0.0	
		消費科学	講義	3	試験、レポート、平常点	100.0	0.0	100.0	66.7	33.3	0.0	0.0	
		情報機器演習	講義		受講希望者なし	—	—	—	—	—	—	—	
	フー ドス ペシ ヤリ スト ユニ ット III	フードコーディネイト論	講義	2	試験、レポート	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	
		食品学実験	実験	8	レポート	75.0	0.0	75.0	62.5	12.5	0.0	25.0	
		調理科学実験	実験		受講希望者なし	—	—	—	—	—	—	—	
保健フ ィールド	保健科 ユニ ット I	食品加工学	講義	3	試験	33.3	33.3	66.6	0.0	33.3	33.3		
		食品衛生学実験	実験		受講希望者なし	—	—	—	—	—	—		
		食品衛生学	講義	2	試験、レポート	100.0	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	
		学校保健 I	講義	1	試験、レポート	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	
	保健科 ユニ ット II	養護概説	講義	1	試験、レポート、平常点	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	
		衛生学	講義	1	試験	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	
		栄養学 II	講義		受講希望者なし	—	—	—	—	—	—	—	
		生理学	講義	2	試験、平常点	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	50.0	50.0	
健康相談活動	講義	3	試験、レポート、平常点	33.3	66.7	100.0	33.3	0.0	66.7	0.0			
学校保健 II	講義	1	試験、レポート	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0			
疾病予防及び看護法	講義		受講希望者なし	—	—	—	—	—	—	—			
細菌学	講義	1	試験、平常点	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0			

種別	授業科目名	授業形態	膨員	主な単位認定の方法	単位取得状況 (%)			最終の評価 (%)				
					本試	再試等	計	優	良	可	不可	
専門教育科目	看護フ ィールド I	看護学実習	実習	受講希望者なし	—	—	—	—	—	—	—	—
		精神保健学	講義	1	試験、レポート、平常点	100.0	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0
		看護学II	講義	1	レポート、平常点	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
		免疫学	講義	2	試験、平常点	50.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	50.0
		看護学III	講義	1	試験、平常点	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
		看護学IV(臨床実習を含む)	実習	1	平常点、記録	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0

生活科学科食物専攻の単位認定の状況表

(平成21年度卒業生)

種別	授業科目名	授業形態	膨員	主な単位認定の方法	単位取得状況 (%)			最終の評価 (%)			
					本試	再試等	計	優	良	可	不可
専門教育科目	生活科学論	講義	—	受講希望者なし	—	—	—	—	—	—	—
	家庭経済学	講義	—	受講希望者なし	—	—	—	—	—	—	—
	家族関係	講義	—	受講希望者なし	—	—	—	—	—	—	—
	住居学	講義	1	試験、レポート、平常点	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	衣生活論	講義	—	受講希望者なし	—	—	—	—	—	—	—
	解剖生理学	講義	34	試験	91.2	8.8	100.0	61.8	20.6	17.6	0.0
	運動生理学	講義	36	試験、レポート、平常点	100.0	0.0	100.0	47.2	41.7	11.1	0.0
	生化学	講義	35	試験、レポート、平常点	97.1	0.0	97.1	48.6	14.3	34.3	2.9
	生化学実験	実験	33	試験、平常点	97.0	0.0	97.0	63.6	12.1	21.2	3.0
	食品学概論I	講義	36	試験、平常点	97.2	2.8	100.0	58.3	27.8	13.9	0.0
	食品学概論II	講義	34	試験、平常点	85.3	14.7	100.0	17.6	44.1	38.2	0.0
	食品学実験	実験	36	レポート	97.2	0.0	97.2	97.2	0.0	0.0	2.8
	食品学各論	講義	36	試験、平常点	86.1	11.1	97.2	33.3	30.6	33.3	2.8
	食品学各論実験	実験	—	受講希望者なし	—	—	—	—	—	—	—
	食品の安全性	講義	31	試験、レポート、平常点	96.8	0.0	96.8	58.1	29.0	9.7	3.2
	食品加工学I	講義	34	試験	73.5	5.9	79.4	20.6	23.5	35.3	20.6
	食品加工学実習I	実習	34	試験、レポート、平常点	100.0	0.0	100.0	76.5	17.6	5.9	0.0
	食品加工学II	講義	22	試験	68.2	22.7	90.9	50.0	18.2	22.7	9.1
	食品加工学実習II	実習	14	試験、平常点	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	栄養学総論	講義	40	試験	65.0	22.5	87.5	17.5	22.5	47.5	12.5
	栄養学各論I	講義	34	試験、レポート、平常点	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	栄養学各論II	講義	14	試験、平常点	78.6	0.0	78.6	71.4	7.1	0.0	21.4
	栄養学各論実習	実習	33	試験、レポート、平常点	97.0	0.0	97.0	45.5	36.4	15.2	3.0
	栄養指導論	講義	34	試験、平常点	97.1	2.9	100.0	88.2	8.8	2.9	0.0
	栄養指導実習	実習	33	試験、レポート、平常点	72.7	24.2	97.0	24.2	24.2	48.5	3.0
	栄養情報処理	講義	33	試験、レポート、平常点	100.0	0.0	100.0	3.0	57.6	39.4	0.0
	栄養カウンセリング論	講義	34	試験、レポート、平常点	100.0	0.0	100.0	79.4	20.6	0.0	0.0
	栄養カウンセリング実習	実習	34	試験、平常点	85.3	11.8	97.1	47.1	11.8	38.2	2.9
	臨床栄養学	講義	35	試験	80.0	17.1	97.1	37.1	5.7	54.3	2.9
	臨床栄養学実習	実習	34	試験、レポート、平常点	100.0	0.0	100.0	5.9	64.7	29.4	0.0
	病理学	講義	34	試験、平常点	85.3	11.8	97.1	58.8	17.6	20.6	2.9
	公衆栄養学	講義	33	試験、レポート	97.0	0.0	97.0	21.2	24.2	51.5	3.0
	給食計画論	講義	34	試験、レポート、平常点	100.0	0.0	100.0	76.5	23.5	0.0	0.0
	給食実務論	講義	34	試験、レポート、平常点	100.0	0.0	100.0	76.5	23.5	0.0	0.0
	給食運営管理実習(校内)	実習	31	レポート、平常点	100.0	0.0	100.0	29.0	48.4	22.6	0.0
	給食運営管理実習(臨地実習)	実習	30	レポート、平常点	100.0	0.0	100.0	10.0	90.0	0.0	0.0
	食品衛生学I	講義	35	試験、レポート	60.0	17.1	77.1	28.6	17.1	31.4	22.9
	食品衛生学II	講義	12	試験、レポート	100.0	0.0	100.0	83.3	16.7	0.0	0.0
	食品衛生学実験	実験	33	レポート	97.0	0.0	97.0	81.8	15.2	0.0	3.0
	公衆衛生学(社会福祉を含む)	講義	34	試験、レポート、平常点	100.0	0.0	100.0	38.2	41.2	20.6	0.0
	公衆衛生学実習	実習	33	レポート、実技	93.9	0.0	93.9	48.5	30.3	15.2	6.1
	調理学	講義	36	試験、平常点	97.2	2.8	100.0	77.8	16.6	5.6	0.0
	調理学実習	実習	35	試験、レポート、平常点	100.0	0.0	100.0	28.6	54.3	17.1	0.0
調理科学実験	実験	16	試験、平常点	93.8	6.3	100.0	75.0	18.8	6.3	0.0	
食品流通論	講義	11	試験、レポート、平常点	100.0	0.0	100.0	72.7	27.3	0.0	0.0	
食生活論	講義	36	試験	100.0	0.0	100.0	41.7	44.4	13.9	0.0	
食生活特論	講義	11	試験	100.0	0.0	100.0	72.7	18.2	9.1	0.0	
フードコーディネーター論	講義	17	試験、レポート	52.9	17.6	70.6	11.8	23.5	35.3	29.4	
学校栄養指導論	講義	4	試験、レポート	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	
関連科目	医療秘書概論	講義	20	試験、レポート、平常点	80.0	5.0	85.0	50.0	15.0	20.0	15.0
	医療事務総論	講義	20	試験、レポート、平常点	80.0	5.0	85.0	65.0	15.0	5.0	15.0
	医療事務各論	講義	17	試験、レポート、平常点	94.1	0.0	94.1	82.3	11.8	0.0	5.9

保育科の単位認定の状況表

(平成21年度卒業生)

種別	授業科目名	授業形態	膨員	主な単位認定の方法	単位取得状況 (%)			最終の評価 (%)			
					本試	再試等	計	優	良	可	不可
専門教育科目	社会福祉	講義	68	試験、平常点	92.7	0.0	92.7	36.8	45.6	10.3	7.3
	社会福祉援助技術	演習	57	試験、レポート、平常点	89.5	10.5	100.0	54.4	14.0	31.6	0.0
	児童福祉	講義	62	試験、平常点	91.2	1.5	92.6	73.5	13.2	5.9	7.4
	児童文化	演習	68	発表、作品提出	90.3	8.1	98.4	87.1	6.5	4.8	1.6
	児童文学	講義	—	受講希望者なし	—	—	—	—	—	—	—
	保育指導論	講義	—	受講希望者なし	—	—	—	—	—	—	—

種別	授業科目名		授業形態	履修	主な単位認定の方法	単位取得状況 (%)			最終の評価 (%)			
						本試	再試等	計	優	良	可	不可
専門教育科目	教育原理		講義	62	試験、平常点	93.6	0.0	93.6	58.1	33.9	1.6	6.4
	保育原理		講義	64	試験、平常点	89.1	1.6	90.7	54.7	21.9	14.1	9.4
	保育課程総論		講義	57	試験、レポート	100.0	0.0	100.0	70.2	29.8	0.0	0.0
	乳児保育		演習	68	試験	45.6	47.1	92.7	17.7	19.1	55.9	7.3
	障害児保育		演習	57	試験、課題提出、平常点	98.2	1.8	100.0	42.1	54.4	3.5	0.0
	養護原理		講義	68	試験、レポート、平常点	89.7	2.9	92.6	61.8	20.6	10.3	7.4
	保育者論		講義		受講希望者なし	—	—	—	—	—	—	—
	保育の歴史		講義		受講希望者なし	—	—	—	—	—	—	—
	保育実習	実習	実習	57	実習記録、実習評価	100.0	0.0	100.0	33.3	54.4	12.3	0.0
		実習指導	実習	62	試験、提出物	93.6	0.0	93.6	69.4	11.3	12.9	6.4
	保育実習Ⅱ		実習	57	実習記録、実習評価	100.0	0.0	100.0	47.4	40.4	12.3	0.0
	保育実習Ⅲ		実習		受講希望者なし	—	—	—	—	—	—	—
	発達心理学		講義	57	試験、レポート、平常点	63.2	36.8	100.0	49.1	12.3	38.6	0.0
	発達心理学Ⅱ		講義		受講希望者なし	—	—	—	—	—	—	—
	臨床心理学		演習		受講希望者なし	—	—	—	—	—	—	—
	教育心理学		講義	57	試験、平常点	91.2	8.8	100.0	66.7	19.3	14.0	0.0
	児童心理学		講義		受講希望者なし	—	—	—	—	—	—	—
	道徳教育		講義		受講希望者なし	—	—	—	—	—	—	—
	保育カウンセリング		演習		受講希望者なし	—	—	—	—	—	—	—
	地域子育て支援論		講義	57	試験、平常点	93.0	5.3	98.3	61.4	26.3	10.5	1.7
	小児保健	講義	講義	64	試験、平常点	93.8	0.0	93.8	10.9	17.2	65.6	6.3
		実習	実習	65	試験、平常点、レポート	87.7	6.2	93.9	63.1	9.2	21.5	6.1
	小児栄養		演習	65	試験、実習	92.3	0.0	92.3	16.9	49.2	26.2	7.7
	精神保健		講義	57	試験、レポート	57.9	40.3	98.2	12.3	22.8	63.2	1.7
	家族援助論		講義	57	試験、平常点	93.0	7.0	100.0	59.6	21.1	19.3	0.0
	国語（書写を含む）		講義		受講希望者なし	—	—	—	—	—	—	—
	社会		講義		受講希望者なし	—	—	—	—	—	—	—
	算数		講義		受講希望者なし	—	—	—	—	—	—	—
	理科		講義		受講希望者なし	—	—	—	—	—	—	—
	生活		講義		受講希望者なし	—	—	—	—	—	—	—
	音楽Ⅰ		演習	62	実技試験	93.5	0.0	93.5	12.9	69.4	11.3	6.5
	音楽Ⅱ		演習	57	実技試験	100.0	0.0	100.0	45.6	54.4	0.0	0.0
	音楽Ⅲ		演習	57	試験、実技試験	87.7	10.5	98.2	42.1	28.1	28.1	1.7
	図画工作		演習	62	試験、作品提出、平常点	93.5	0.0	93.5	59.7	32.3	1.6	6.5
	家庭		講義		受講希望者なし	—	—	—	—	—	—	—
	体育		演習	59	試験	100.0	0.0	100.0	79.7	20.3	0.0	0.0
	国語科教育法		講義		受講希望者なし	—	—	—	—	—	—	—
	社会科教育法		講義		受講希望者なし	—	—	—	—	—	—	—
	算数科教育法		講義		受講希望者なし	—	—	—	—	—	—	—
	理科教育法		講義		受講希望者なし	—	—	—	—	—	—	—
	生活科教育法		講義		受講希望者なし	—	—	—	—	—	—	—
	音楽科教育法		講義		受講希望者なし	—	—	—	—	—	—	—
	図画工作科教育法		実技		受講希望者なし	—	—	—	—	—	—	—
	家庭科教育法		講義		受講希望者なし	—	—	—	—	—	—	—
	体育科教育法		講義		受講希望者なし	—	—	—	—	—	—	—
	保育内容総論		演習	57	試験、提出物、平常点	78.9	21.1	100.0	15.8	26.3	57.9	0.0
	保育内容総論Ⅱ		演習		受講希望者なし	—	—	—	—	—	—	—
	保育内容Ⅰ（表現）		演習	68	試験、作品提出、平常点	80.9	11.8	92.7	41.2	33.8	17.6	7.4
	保育内容ⅠB（表現）		演習	62	試験、提出物、発表	75.8	17.7	93.5	30.6	22.6	40.3	6.5
	保育内容ⅠC（表現）		演習	57	作品提出、平常点	91.2	7.0	98.2	40.3	31.6	26.3	1.8
	保育内容ⅠD（表現）		演習	59	作品提出、平常点	93.2	6.8	100.0	37.3	42.4	20.3	0.0
	保育内容Ⅱ	（人間関係）	演習	59	試験、実技、平常点	98.3	0.0	98.3	98.3	0.0	0.0	1.7
		（健康）	演習	57	試験、レポート、平常点	80.7	19.3	100.0	31.6	31.6	36.8	0.0
	保育内容ⅡB	（人間関係）	演習		受講希望者なし	—	—	—	—	—	—	—
		（健康）	演習		受講希望者なし	—	—	—	—	—	—	—
	保育内容Ⅲ	（言葉）	演習	68	試験、実技試験	92.6	0.0	92.6	69.1	14.7	8.8	7.4
		（環境）	演習	62	試験、レポート	87.1	6.4	93.5	61.3	11.3	21.0	6.5
保育内容ⅢB	（言葉）	演習		受講希望者なし	—	—	—	—	—	—	—	
	（環境）	演習		受講希望者なし	—	—	—	—	—	—	—	
養護内容		演習	57	試験、平常点	100.0	0.0	100.0	89.5	7.0	3.5	0.0	
総合演習		演習	57	レポート、平常点	100.0	0.0	100.0	89.5	7.0	3.5	0.0	
レクリエーション概論		講義	6	試験、レポート	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	
レクリエーション実技		実技	6	試験、レポート	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	

言語コミュニケーション学科の単位認定の状況表

（平成21年度卒業生）

種別	授業科目名		授業形態	履修	主な単位認定の方法	単位取得状況 (%)			最終の評価 (%)				
						本試	再試等	計	優	良	可	不可	
専門教育科目	ベータ・シット フォワード	コアユニット	言語とコミュニケーション	講義	22	試験、レポート、平常点	95.5	0.0	95.5	63.6	22.7	9.1	4.5
			文学入門	講義	22	試験、レポート	95.5	4.5	100.0	95.5	4.5	0.0	0.0
	日本語 コミュニケーション ユニットⅠ		日本語の語法	講義	13	試験、平常点	100.0	0.0	100.0	84.6	15.4	0.0	0.0
			日本語概説Ⅰ	講義	3	試験、レポート、平常点	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
			日本語表現法Ⅰ	講義	23	試験、平常点	95.7	0.0	95.7	65.2	30.4	0.0	4.3

種別	授業科目名	授業形態	時数	主な単位認定の方法	単位取得状況 (%)			最終の評価 (%)					
					本試	再試等	計	優	良	可	不可		
専門教育科目	日本語・日本文化フィールド	日本語コミュニケーションユニットII	人とことば(言語学概説)	講義	18	試験、レポート	100.0	0.0	100.0	83.3	5.6	11.1	0.0
		日本語概説II	講義	8	試験、レポート	100.0	0.0	100.0	75.0	0.0	25.0	0.0	
		日本語表現法II	講義	21	試験、レポート、平常点	100.0	0.0	100.0	76.2	23.8	0.0	0.0	
		日本の文学ユニットI	日本文学A(詩歌)	講義	19	試験、レポート	100.0	0.0	100.0	89.5	5.3	5.3	0.0
			日本文学C(物語I)	講義	5	試験、平常点	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
			日本文学史I	講義	6	試験、平常点	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
		日本の文学ユニットII	日本文学B(小説)	講義	18	試験、レポート	88.9	5.6	94.4	77.8	11.1	5.6	5.6
			日本文学II	講義	15	試験、平常点	86.7	6.7	93.3	86.7	6.7	0.0	6.7
			日本文化論	講義	5	試験、レポート、平常点	100.0	0.0	100.0	80.0	20.0	0.0	0.0
	日本の文化ユニットI	俳句入門	講義	14	試験、レポート	100.0	0.0	100.0	71.4	21.4	7.1	0.0	
		書道及び書道史I	講義	—	受講希望者なし	—	—	—	—	—	—	—	
		中国文学A(中国の詩文)	講義	—	受講希望者なし	—	—	—	—	—	—	—	
	日本の文化ユニットII	日本の演劇	講義	8	レポート、平常点	87.5	0.0	87.5	62.5	25.0	0.0	12.5	
		歴史と文化(日本)	講義	5	試験、レポート、平常点	100.0	0.0	100.0	40.0	60.0	0.0	0.0	
		書道及び書道史II	講義	—	受講希望者なし	—	—	—	—	—	—	—	
		中国文学B(漢字と中国文化)	講義	—	受講希望者なし	—	—	—	—	—	—	—	
	英語・英会話フィールド	英語資格対策ユニットI	TOEIC・英検対策I	講義	16	試験、平常点	100.0	0.0	100.0	81.3	6.2	12.5	0.0
			英語の語法I	講義	13	試験、レポート、平常点	46.2	0.0	46.2	38.5	0.0	7.7	53.8
リーディングI			講義	19	試験、レポート	100.0	0.0	100.0	57.9	15.8	26.3	0.0	
ライティング			講義	21	試験、平常点	90.5	0.0	90.5	90.5	0.0	0.0	9.5	
英語資格対策ユニットII		TOEIC・英検対策II	講義	15	試験、平常点	93.3	0.0	93.3	73.3	20.0	0.0	6.7	
		英語の語法II	講義	6	試験、レポート、平常点	100.0	0.0	100.0	83.3	0.0	16.7	0.0	
		リーディングII	講義	21	試験、レポート	95.2	0.0	95.2	52.4	28.6	14.3	4.8	
		スピーキング	講義	19	試験	94.7	0.0	94.7	89.5	5.3	0.0	5.3	
英語コミュニケーションユニットI		英会話(オーラルコミュニケーション)I	講義	19	試験、レポート、平常点	78.9	0.0	78.9	26.3	31.5	21.1	21.1	
		英会話(オーラルコミュニケーション)II	講義	15	試験、レポート、平常点	86.7	0.0	86.7	53.3	20.0	13.3	13.3	
		リスニングI	講義	11	試験	72.7	0.0	72.7	72.7	0.0	0.0	27.3	
英語コミュニケーションユニットII		インターネットの英語	講義	—	受講希望者なし	—	—	—	—	—	—	—	
		英会話(オーラルコミュニケーション)III	講義	16	試験、レポート、平常点	93.7	0.0	93.7	37.5	25.0	31.3	6.3	
		英会話(オーラルコミュニケーション)IV	講義	12	試験、レポート、平常点	91.7	0.0	91.7	75.0	16.7	0.0	8.3	
		リスニングII	講義	3	試験	100.0	0.0	100.0	66.7	0.0	33.3	0.0	
異文化理解ユニット		英米文化論	講義	16	試験、レポート、平常点	75.0	0.0	75.0	37.5	37.5	0.0	25.0	
		国際社会と日本	講義	16	試験、レポート、平常点	93.8	0.0	93.8	93.8	0.0	0.0	6.3	
		異文化間コミュニケーション	講義	16	試験、レポート、平常点	100.0	0.0	100.0	93.8	0.0	6.3	0.0	
		英語学概説I	講義	4	試験、平常点	100.0	0.0	100.0	25.0	50.0	25.0	0.0	
英語圏の文化ユニット		英米文学A(小説)	講義	5	試験、レポート、平常点	100.0	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	
		英米文学B(ドラマ)	講義	14	試験、レポート、平常点	100.0	0.0	100.0	78.6	7.1	14.3	0.0	
	英米文学C(詩)	講義	—	受講希望者なし	—	—	—	—	—	—	—		
観光フィールド	英語学概説II	講義	—	受講希望者なし	—	—	—	—	—	—	—		
	観光実務ユニット	観光サービスI(か'ト'論)	講義	20	試験、レポート、平常点	65.0	0.0	65.0	45.0	20.0	0.0	35.0	
		観光サービスII(ホテ'ル'論)	講義	10	試験、レポート、平常点	100.0	0.0	100.0	90.0	0.0	10.0	0.0	
観光英語	講義	—	受講希望者なし	—	—	—	—	—	—	—			
プレゼンテーションフィールド	プレゼンテーションユニット	プレゼンテーション概論	講義	22	試験、レポート	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	
		プレゼンテーション演習I	演習	23	レポート、平常点	95.7	0.0	95.7	82.6	13.0	0.0	4.3	
		プレゼンテーション演習II	演習	22	レポート、平常点	100.0	0.0	100.0	90.1	9.9	0.0	0.0	
	情報ユニット	情報機器利用プレゼンテーション演習	演習	22	レポート、平常点	100.0	0.0	100.0	63.6	36.4	0.0	0.0	
		情報機器演習	講義	22	試験、レポート、平常点	90.9	0.0	90.9	40.9	31.8	18.2	9.1	
		情報ネットワーク論	講義	12	試験、レポート、平常点	66.7	0.0	66.7	16.7	41.7	8.3	33.3	

音楽科の単位認定の状況表

(平成21年度卒業生)

種別	授業科目名	授業形態	時数	主な単位認定の方法	単位取得状況 (%)			最終の評価 (%)				
					本試	再試等	計	優	良	可	不可	
専門教育科目	音楽基本ユニットI	音楽理論I(和声を含む)	講義	15	試験	86.7	0.0	86.7	53.3	6.7	26.7	13.3
		音楽理論II(和声を含む)	講義	12	試験	100.0	0.0	100.0	16.7	50.0	33.3	0.0
		音楽史	講義	11	平常点、レポート	90.9	0.0	90.9	45.5	45.5	0.0	9.1
		ソルフェージュI	演習	16	実技試験	87.5	0.0	87.5	43.8	18.7	25.0	12.5
		ソルフェージュII	演習	10	実技試験	100.0	0.0	100.0	20.0	70.0	10.0	0.0
		ソルフェージュIII	演習	8	実技試験	50.0	12.5	62.5	12.5	25.0	25.0	37.5
		ソルフェージュIV	演習	4	実技試験	100.0	0.0	100.0	25.0	75.0	0.0	0.0
		音楽基本ユニットII	実技A I	実技	15	実技試験、平常点	100.0	0.0	100.0	33.3	60.0	6.7
	実技A II		実技	15	実技試験	100.0	0.0	100.0	33.3	60.0	6.7	0.0
	実技A III		実技	16	実技試験	100.0	0.0	100.0	56.3	43.8	0.0	0.0
	実技A IV		実技	15	実技試験、平常点	100.0	0.0	100.0	53.3	46.7	0.0	0.0
	音楽基本ユニットIII	卒業研究	実技	15	実技試験、平常点	100.0	0.0	100.0	53.3	46.7	0.0	0.0
	音楽基本ユニットIV	実技B I	実技	14	実技試験	92.9	0.0	92.9	35.7	42.9	14.3	7.1
		実技B II	実技	14	実技試験	92.9	0.0	92.9	7.1	71.4	14.3	7.1

種別	授業科目名	授業形態	単位数	主な単位認定の方法	単位取得状況 (%)			最終の評価 (%)					
					本試	再試等	計	優	良	可	不可		
専門教育科目	ベーシックフィールド	音楽基本ユニットV	実技BⅢ	実技	16	実技試験	100.0	0.0	100.0	0.0	81.3	18.8	0.0
		実技BⅣ	実技	14	実技試験、平常点	100.0	0.0	100.0	0.0	85.7	14.3	0.0	
		音楽基本ユニットVI	実技CⅠ	実技	14	実技試験	92.9	7.1	100.0	14.3	78.6	7.1	0.0
		実技CⅡ	実技	14	実技試験	100.0	0.0	100.0	28.6	71.4	0.0	0.0	
		音楽基本ユニットVII	実技CⅢ	実技	15	実技試験	100.0	0.0	100.0	20.0	80.0	0.0	0.0
		実技CⅣ	実技	9	実技試験、平常点	100.0	0.0	100.0	33.3	66.7	0.0	0.0	
		演奏フィールド	合奏ユニットI	合奏A	実技	12	実技試験	75.0	0.0	75.0	66.7	8.3	0.0
	合奏B	実技	8	実技試験	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0		
	合奏ユニットII	合奏C	実技	15	実技試験	73.3	0.0	73.3	66.7	6.7	0.0	26.7	
	合奏D	実技	12	実技、平常点	100.0	0.0	100.0	75.0	8.3	16.7	0.0		
	吹奏楽ユニット	吹奏楽演習A	演習	2	平常点	100.0	0.0	100.0	50.0	50.0	0.0	0.0	
	吹奏楽演習B	演習			受講希望者なし	—	—	—	—	—	—	—	
	室内楽ユニット	室内楽A	実技	6	実技試験	66.7	16.7	83.4	50.0	16.7	16.7	16.6	
	室内楽B	実技	4	実技、平常点	100.0	0.0	100.0	75.0	25.0	0.0	0.0		
	合唱ユニットI	合唱A	実技	15	実技、平常点、レポート	86.7	0.0	86.7	53.3	13.3	20.0	13.3	
	合唱B	実技	14	実技、平常点、レポート	100.0	0.0	100.0	71.4	14.3	14.3	0.0		
	合唱ユニットII	合唱C	実技	6	実技、平常点、レポート	83.3	16.7	100.0	33.3	50.0	16.7	0.0	
	合唱D	実技	10	実技、平常点、レポート	100.0	0.0	100.0	80.0	0.0	20.0	0.0		
	ひろがりフィールド	ポピュラー音楽理論ユニット	ポピュラー音楽理論	講義	14	作品審査	100.0	0.0	100.0	57.1	21.4	21.4	0.0
			コンピュータ音楽Ⅰ	演習	10	試験	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
			コンピュータ音楽Ⅱ	演習	12	試験	100.0	0.0	100.0	41.7	41.7	16.6	0.0
		音楽創作ユニットI	作曲法Ⅰ	講義	11	作品審査、試験	100.0	0.0	100.0	54.5	45.5	0.0	0.0
			伴奏法Ⅰ	講義	12	試験、平常点	100.0	0.0	100.0	50.0	25.0	25.0	0.0
			指揮法	講義	14	試験、実技、平常点	85.7	0.0	85.7	57.1	21.4	7.1	14.3
		音楽創作ユニットII	作曲法Ⅱ	講義	7	作品審査、試験	100.0	0.0	100.0	71.4	28.6	0.0	0.0
			伴奏法Ⅱ	講義	12	試験、平常点	100.0	0.0	100.0	58.3	25.0	16.7	0.0
		音楽ひろがりユニット	比較音楽学	講義	1	レポート	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
			音楽特講	講義	15	レポート、平常点	100.0	0.0	100.0	53.3	46.7	0.0	0.0
		音楽鑑賞ユニット	音楽鑑賞A	講義	14	レポート、平常点	92.9	0.0	92.9	7.1	7.1	78.6	7.1
			音楽鑑賞B	講義	13	レポート、平常点	92.3	0.0	92.3	92.3	0.0	0.0	7.7
		音楽教育ユニット	教育原理	講義	10	試験、平常点	50.0	0.0	50.0	10.0	20.0	20.0	50.0
			音楽科教育法	講義	13	試験、実技、平常点	76.9	0.0	76.9	38.5	23.1	15.4	23.1
		音楽療法フィールド	音楽療法ユニットI	臨床心理学	講義	9	試験、レポート、平常点	100.0	0.0	100.0	22.2	44.4	33.3
	音楽心理学			講義	9	試験、レポート	44.4	44.4	88.9	22.2	0.0	66.7	11.1
	医学概論			講義	9	レポート	88.9	0.0	88.9	11.1	55.6	22.2	11.1
老年医学	講義			9	試験、平常点	100.0	0.0	100.0	33.3	55.6	11.1	0.0	
発達障害総論	講義			10	試験	70.0	0.0	70.0	70.0	0.0	0.0	30.0	
ヒューマニズム論	講義		12	レポート、平常点	90.0	0.0	90.0	20.0	70.0	0.0	10.0		
音楽療法ユニットII	音楽療法概論Ⅰ		講義	10	試験	91.7	0.0	91.7	50.0	8.3	33.3	8.3	
	音楽療法概論Ⅱ		講義	9	試験	100.0	0.0	100.0	88.9	11.1	0.0	0.0	
	音楽療法論臨床Ⅰ		講義	10	試験	100.0	0.0	100.0	80.0	10.0	10.0	0.0	
	音楽療法論臨床Ⅱ		講義	10	試験	100.0	0.0	100.0	50.0	20.0	30.0	0.0	
	音楽療法演習	演習	10	レポート、平常点	90.0	0.0	90.0	70.0	20.0	0.0	10.0		
音楽療法実習	実習	9	レポート、平常点	100.0	0.0	100.0	44.4	55.6	0.0	0.0			

商科の単位認定の状況表

(平成21年度卒業生)

種別	授業科目名	授業形態	単位数	主な単位認定の方法	単位取得状況 (%)			最終の評価 (%)					
					本試	再試等	計	優	良	可	不可		
専門教育科目	商科ベーシックユニットI	経済学Ⅰ	講義	20	試験、平常点	90.0	10.0	100.0	50.0	35.0	15.0	0.0	
		経営学Ⅰ	講義	20	試験、平常点	80.0	20.0	100.0	25.0	30.0	45.0	0.0	
		簿記論Ⅰ	講義	21	試験、平常点	95.2	0.0	95.2	57.1	9.5	28.6	4.8	
		会計学Ⅰ	講義	20	試験、平常点	70.0	30.0	100.0	45.0	5.0	50.0	0.0	
		経済学Ⅱ	講義	20	試験、平常点	90.0	0.0	90.0	60.0	20.0	10.0	10.0	
		経営学Ⅱ	講義	20	試験、平常点	100.0	0.0	100.0	60.0	25.0	15.0	0.0	
		簿記論Ⅱ	講義	20	試験、平常点	95.0	5.0	100.0	70.0	25.0	5.0	0.0	
		会計学Ⅱ	講義	18	試験、平常点	50.0	11.1	61.1	27.8	5.6	27.8	38.9	
		商科ベーシックユニットIII	P C文書作成実習Ⅰ	実習	21	試験、平常点、レポート	81.0	14.3	95.2	33.3	38.1	23.8	4.8
			P C文書作成実習Ⅱ	実習	20	試験、平常点、レポート	100.0	0.0	100.0	60.0	35.0	5.0	0.0
	P Cデータ活用実習Ⅰ		実習	20	試験、平常点、レポート	100.0	0.0	100.0	0.0	90.0	10.0	0.0	
	P Cデータ活用実習Ⅱ		実習	20	試験、平常点、レポート	95.0	5.0	100.0	65.0	25.0	10.0	0.0	
	ビジネスフィールド	経済ユニット	経済政策論	講義	1	平常点、レポート	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
			財政学	講義		受講希望者なし	—	—	—	—	—	—	—
		国際経済学	講義	1	試験、平常点	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	
		経営ユニット	ビジネス英語	講義	10	試験	90.0	0.0	90.0	90.0	0.0	0.0	10.0
			中小企業経営論	講義	8	試験	87.5	0.0	87.5	87.5	0.0	0.0	12.5
			ビジネス戦略論	講義		受講希望者なし	—	—	—	—	—	—	—
		実務簿記ユニット	工業簿記	講義	4	試験、平常点	75.0	0.0	75.0	25.0	25.0	25.0	25.0
			簿記演習	演習	4	試験、レポート、平常点	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
財務諸表論	講義		4	試験、平常点	75.0	0.0	75.0	0.0	25.0	50.0	25.0		
基礎法務ユニット	会社法	講義	8	試験	87.5	0.0	87.5	50.0	25.0	12.5	12.5		
	民法	講義	6	試験	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0		

種別	授業科目名	授業形態	膨員	主な単位認定の方法	単位取得状況 (%)			最終の評価 (%)					
					本試	再試等	計	優	良	可	不可		
専門教育科目	企業法務ユニット	税法総論	講義	5	試験、平常点	100.0	0.0	100.0	80.0	20.0	0.0	0.0	
		実務法規	講義	2	試験、平常点	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	
		現代社会と法	講義	10	試験、レポート	100.0	0.0	100.0	80.0	0.0	20.0	0.0	
	商業ユニット	商業学(商業史を含む)	講義	13	試験、平常点	92.3	7.7	100.0	23.1	30.8	46.1	0.0	
		マーケティング	講義	14	試験、平常点	78.6	14.3	92.9	28.6	21.4	42.9	7.1	
		商品学	講義	10	試験、平常点	70.0	10.0	80.0	50.0	10.0	20.0	20.0	
	地域経済ユニット	経済史	講義	2	試験、平常点	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	
		金融論	講義	5	試験	100.0	0.0	100.0	80.0	20.0	0.0	0.0	
		地域ビジネス論	講義		受講希望者なし	—	—	—	—	—	—	—	
		キャリアガイダンス	講義	7	試験、平常点	100.0	0.0	100.0	28.6	28.6	42.8	0.0	
	税務ユニット	法人税法	講義	6	試験、平常点	100.0	0.0	100.0	83.3	16.7	0.0	0.0	
		所得税法	講義	7	試験、平常点	100.0	0.0	100.0	71.4	28.6	0.0	0.0	
		くらしと税法	講義	11	試験、平常点	100.0	0.0	100.0	63.6	18.2	18.2	0.0	
	ワークユニット	事務管理	講義	21	試験	95.2	0.0	95.2	42.8	28.6	23.8	4.8	
		国語表現法	講義	19	試験、平常点	94.7	5.3	100.0	84.2	15.8	0.0	0.0	
		社会心理学	講義	19	試験	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	
	情報フィールド	企画表現ユニット	プレゼンテーション概論	講義	2	試験、レポート	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0
			情報機器演習	演習	2	試験、レポート、平常点	100.0	0.0	100.0	50.0	50.0	0.0	0.0
		オフィスワークユニット	コンピュータ概論Ⅰ	講義	20	試験、平常点	95.0	0.0	95.0	70.0	20.0	5.0	5.0
			コンピュータ概論Ⅱ	講義	19	試験、平常点	100.0	0.0	100.0	73.7	21.1	5.3	0.0
情報処理Ⅰ			講義	14	試験、レポート、平常点	100.0	0.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	
コンピュータ応用演習			演習	13	試験、レポート、平常点	100.0	0.0	100.0	61.5	0.0	38.5	0.0	
情報社会ユニット		広告論	講義	16	試験、平常点	100.0	0.0	100.0	81.3	18.8	0.0	0.0	
		情報処理Ⅱ	講義	15	試験、レポート、平常点	100.0	0.0	100.0	6.7	53.3	40.0	0.0	
		マルチメディア論	講義	14	試験、レポート、平常点	100.0	0.0	100.0	92.9	0.0	7.1	0.0	
		情報ネットワーク論	講義	8	試験、レポート、平常点	100.0	0.0	100.0	50.0	50.0	0.0	0.0	
秘書フィールド	秘書ユニットⅠ	秘書学概論Ⅰ	講義	19	試験、平常点	89.5	10.5	100.0	21.1	36.8	42.1	0.0	
		秘書実務Ⅰ	講義	19	試験、平常点	94.7	5.3	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	
	地域総合連携講座	講義	19	試験、レポート、平常点	100.0	0.0	100.0	15.8	84.2	5.0	0.0		
	秘書ユニットⅡ	秘書学概論Ⅱ	講義	20	試験、平常点	90.0	10.0	100.0	30.0	35.0	35.0	0.0	
	秘書実務Ⅱ	講義	19	試験、平常点	95.0	5.0	100.0	47.4	26.3	26.3	0.0		

(2) 学科長等がそれぞれの学科について、単位認定の方法、単位の取得状況及び担当教員による評価の現状についてどのように受け止めているかを記述して下さい。

<短期大学部長の見解>

単位認定の方法については、各教員がシラバスに評価方法を明記している。講義、演習、実習など、授業形態や授業内容により、筆記試験、レポート提出、作品提出、実技試験、課題発表(個人、グループ等)、実技の取り組み過程や受講態度などを総合して評価している。単位の取得状況については、特に不適切な評価は見受けられない。また、評価の現状に関しては、シラバス記載の授業の目標及び評価の方法に沿って科目担当教員が適切に評価を行い、評価の統一性を維持している。

生活科学科生活科学専攻(学科長の見解)

単位認定方法は、筆記試験や作品提出などシラバス記載通りの評価方法による。本試験合格率が84.1%、追・再試を含めての単位取得率は90.4%である。そのうち優51.2%、良19.5%、可19.7%であり、おおむね良い結果と捉えている。

生活科学科食物専攻(専攻主任の見解)

栄養士免許など取得のため、講義だけでなく実験・実習が多くあり、試験のほかにレポートや平常点により評価されている。本試験合格率は91.4%、単位取得率は95.9%である。成績評価は、優52.8%、良24.1%、可19.0%で比較的に優評価の割合が高くなっている。

保育科(学科長の見解)

筆記試験のほか、実技試験や作品提出などシラバスに記載された通りの方法で単位認定されている。本試験での単位取得率は平均96.9%と良好である。評価については、優53.6%、良25.0%、可18.2%である。優は10.9~100%と差が大きいが、科目の特性に

よるものであり、特に問題はないと捉えている。

言語コミュニケーション学科（学科長の見解）

各授業の評価方法はシラバスに明示された「評価の方法」に従っており、第1回の授業においても各授業担当者が改めて確認及び説明を行っている。本試験合格率が92.9%、追・再試験を含めての単位取得率は93.3%である。成績評価は、優69.1%、良17.1%、可7.2%である。全体の成績における優の占める割合は高く、成績は良好である。

音楽科（学科長の見解）

本科は実技及び演習が中心である。実技系科目の単位認定については、シラバス記載の通り実技試験や作品評価による認定を行っている。そのほかの科目については筆記試験やレポート評価で認定をしている。単位取得率は93.8%、実技系の科目や音楽療法士の資格科目はほぼ100%であり、総合的に見て問題はないと考えている。

商科（学科長の見解）

単位認定方法は、筆記試験やレポート、平常点などシラバス記載通りの評価方法による。本試験での単位取得率は96.5%である。全体における優の占める割合は、61.2%である。各科目によって、教員による評価の基準に多少のばらつきはあるものの、全体的にみて単位認定や評価は適切に行われている。

◇添付資料⑥ 「キャンパスガイドー学生生活と履修の手引きー2008」（p.33-p.51）

(3)学長等は、単位認定の方法、単位の取得状況及び担当教員による評価の現状について、短期大学全体の状況をどのように受け止めているかを記述して下さい。

<学長の見解>

単位認定の方法については、各教員がシラバスに評価方法を明記している。学生の出席状況・授業態度などを含む科目担当教員の適切な成績判断のもと、単位認定が行われているものとする。講義、演習、実習、実技、実験などによって評価方法は多様であるが、いずれにしても、学生の学習結果が反映されるものでなければならない。これまで、特に不適切な評価は見受けられず、おおむね妥当な評価結果である。

【授業に対する学生の満足度について】

(1)各授業について、終了後に「学生の満足度」の調査を実施していればその調査の概要を記述して下さい。また調査票の様式等を訪問調査の際にご準備下さい。

本学では、平成11年度より「学生による授業評価アンケート」を実施している。その目的は、授業に対する学生の理解度や満足度を測定することによって、今後の授業をより充実したものに改善していくための一つの判断材料とするところにある。このアンケートは、前期・後期に定期的に各教員の全ての授業科目を対象として実施している。アンケート結果は各教員に戻され、各教員が調査結果を踏まえて授業の反省点や今後の改善に向けての具体的な取り組みなどのコメントを記入することになっている。本学では、それらの調査結果から、各教員につき1科目を選定し、それを印刷物として発表している。フィードバック表は学生にも閲覧することができるよう配慮している。

◆参考資料(11) 「平成21年度学生による授業評価ー学生アンケートに基づく分析ー」

◆参考資料(12) 「授業に対する学生の評価アンケート」（マークシート用紙）

(2) 担当教員が授業終了後の学生の満足度に配慮しているかについて、学科長等が現状をどのように受け止めているかを記述して下さい。

＜短期大学部長の見解＞

平成 21 年度の授業評価アンケートの評価の平均値は 4.07（5 段階評価）となっており、授業に対する満足度は高いと考えられる。質問項目ごとに見ると、最もポイントの高い項目は「授業に対する教員の熱意は感じられましたか」である。次いで、「総合的に見て、この授業はよかったと思いますか」となっている。最もポイントが低い項目は、「あなたはこの授業に関して、予習復習を十分に行いましたか」、次いで「授業内容はシラバスに沿っていましたか」「授業の進め方は適切でしたか」となっている。

以上の結果から、学生は授業におおむね満足しており教員の熱意を高く評価していることがわかる。しかし、それが必ずしも予習復習などの積極的な学習態度や内容の理解に結びついていない。また、必ずしもシラバスを含めて授業の進め方に満足しているわけではないことが明らかになった。このような特徴が浮かび上がったことは授業評価アンケートの成果の一つであり、今後の課題として受け止めるべきであろう。

現在は結果を各教員にフィードバックすることにとどめているが、今後は、さらに詳細な分析を行って学科や同じ科目群の担当で検討したり、学科や科目ごとに独自の質問を設けるなどして授業改善に役立てていくことを考えている。教員が協力しあって授業全体を改善していく体制作りが不可欠である。

◆参考資料(11) 「平成 21 年度学生による授業評価—学生アンケートに基づく分析—」

(3) 学長等は短期大学全体の現状をどのように受け止めているかを記述して下さい。

＜学長の見解＞

今日、学生に「いかにわからせるか、わかってもらうか」という観点に立った授業の工夫が強く求められている。そのため、調査結果を各教員にフィードバックして、「今後の授業改善にいかに役立てるか」という観点から上記のような取り組みを行っている。なお、平成 19 年度から定期的に「研究授業」も行っており、教員が「授業の進め方に対する工夫」を共有し、お互いに啓発しあうための機会としてプログラムを進めている。今後とも、このような取り組みを通して、教員と学生との双方向のコミュニケーションによって学生の満足度を高めることができるよう大学全体として邁進したいと考えている。

【退学、休学、留年等の状況について】

(1) 過去 3 ケ年（平成 19 年度～21 年度）の退学、休学、留年等の数を、学科等ごとに記載し、学科等の状況を明らかにして下さい。

＜退学者等一覧表＞

(平成 22 年 3 月 31 日現在)

学科・専攻	区分	19 年度入学	20 年度入学	21 年度入学	備考
生活科学科生活科学専攻	入学者数	21	17	22	19 年度入学生 転出 1 (19 年度 商科 1 年次へ)
	うち退学者数	3	1	0	
	うち休学者数	0	0	0	
	休学者のうち復学者数	0	0	0	
	うち留年者数	0	0	0	
	卒業者数	17	16	—	

学科・専攻	区分	19年度入学	20年度入学	21年度入学	備考
生活科学科食物専攻	入学者数	43	36	28	
	うち退学者数	1	5	1	
	うち休学者数	0	0	0	
	休学者のうち復学者数	0	0	0	
	うち留年者数	0	0	0	
	卒業生数	42	31	—	
保育科	入学者数	65	68	28	20年度入学生 転出1 (21年度商科 下学年へ)
	うち退学者数	12	10	1	
	うち休学者数	1	0	0	
	休学者のうち復学者数	1	0	0	
	うち留年者数	0	0	0	
	卒業生数	53	57	—	
言語コミュニケーション学科	入学者数	19	22	16	
	うち退学者数	1	2	0	
	うち休学者数	0	0	0	
	休学者のうち復学者数	0	0	0	
	うち留年者数	0	0	0	
	卒業生数	18	20	—	
音楽科	入学者数	18	15	14	
	うち退学者数	3	0	2	
	うち休学者数	0	0	0	
	休学者のうち復学者数	0	0	0	
	うち留年者数	0	0	0	
	卒業生数	15	15	—	
商科	入学者数	20	21	32	19年度入学生 転入1 (19年度 生活科学科 1年次より)
	うち退学者数	2	1	3	
	うち休学者数	0	0	1	
	休学者のうち復学者数	0	0	0	
	うち留年者数	1	0	0	
	卒業生数	18	20	—	

(2) 退学者の退学理由割合、退学理由の最近の傾向及び退学者、休学者（復学者を含む）及び留年者に対する指導（ケア）の現状について学科等ごとに記述して下さい。

<退学理由割合>

(単位：人、%)

		退学理由						合計
		進路変更	一身上の都合	体調不良	経済的理由	家庭の事情	成績不振	
生活科学科 生活科学専攻	19年度	人数	2	1	0	0	0	3
		割合	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	
	20年度	人数	1	0	0	0	0	1
		割合	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	21年度	人数	0	0	0	0	0	0
		割合	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
生活科学科 食物専攻	19年度	人数	0	0	1	0	0	1
		割合	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	
	20年度	人数	2	1	0	1	0	5
		割合	40.0	20.0	0.0	20.0	0.0	
	21年度	人数	1	0	0	0	0	1
		割合	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
保育科	19年度	人数	2	5	3	1	0	12
		割合	16.7	41.7	25.0	8.3	0.0	
	20年度	人数	2	3	1	3	1	10
		割合	20.0	30.0	10.0	30.0	10.0	
	21年度	人数	1	0	0	0	0	1
		割合	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
言語コミュニケーション 学科	19年度	人数	0	1	0	0	0	1
		割合	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	
	20年度	人数	1	1	0	0	0	2
		割合	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	
	21年度	人数	0	0	0	0	0	0
		割合	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	

			退学理由						合計
			進路変更	一身上の都合	体調不良	経済的理由	家庭の事情	成績不振	
音楽科	19年度	人数	0	0	1	1	1	0	3
		割合	0.0	0.0	33.3	33.3	33.3	0.0	
	20年度	人数	0	0	0	0	0	0	0
		割合	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	21年度	人数	1	0	1	0	0	0	2
		割合	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	
商科	19年度	人数	1	1	0	0	0	0	2
		割合	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	20年度	人数	0	0	1	0	0	0	1
		割合	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	
	21年度	人数	2	0	1	0	0	0	3
		割合	66.7	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	

<短期大学部長の見解>

ここでは、次の質問と内容的に重複するところがあるので、本学全体の退学者・休学者に対するケアについて、短期大学部長が記述する。

毎年何らかの理由で退学・休学者などが出ている。主に、進路変更、経済的理由、健康上の理由、意欲喪失などによる。いずれの場合も、クラス担任が学生の相談に乗り、面談を重ねることにより将来への希望が明確になるよう学生指導を行っている。最終的な判断は、学生並びに保護者との三者面談を行い、保護者の了解を得て結論を出している。学科によって退学・休学者などの人数にばらつきがみられるものの、それぞれの学科では組織的にできる限りの対応を行っている。

①進路変更が理由の場合

学業途中に何らかの理由で進路変更を希望する場合は、クラス担任が学生本人の将来性を見据えたうえで、その意思を尊重し、保護者も納得できるよう責任を持って指導している。

②経済的理由の場合

学習意欲があっても家庭の経済的理由で学業を断念せざるを得ない場合がある。そのような事態に陥らないように、クラス担任及び学生支援グループのスタッフが各種奨学金制度や銀行の融資制度について説明し、学業を継続できるよう指導している。

③健康上の理由の場合

学業を続けるには健康第一でなければならない。学生の日々の健康管理については、各学科と健康管理グループ（保健センター）とで連携を取りながら、健康維持に努めるよう指導している。

④意欲喪失が理由の場合

ストレスが原因での心身疲労など理由は様々であるが、本学ではまずクラス担任が相談に乗ることになっている。それでも解決しない場合には、学科長や学部長もしくは学科内全教員で検討することもある。なお、心身状態が深刻な場合は、カウンセリング室でカウンセリングを受けたり、また、専門の医師に相談するように指導している。

(3) 退学、休学、留年等の現状を、学科長等がどのように受け止めているかを学科等ごとに記述して下さい。

生活科学科生活科学専攻（学科長の見解）

過去3年間の退学者数は4名であった。その主な理由は、学習意欲喪失と進路変更であ

った。おおむね、退学者数は少ない。理由として、「ものづくり」授業が主となる本専攻では、教員とのふれあいが多く、また、平成 20 年度よりパティシエ関連科目を開講して、グループワークの増加が人間関係を良好にしていることがあげられる。

生活科学科食物専攻（専攻主任の見解）

本専攻は栄養士資格取得を目指す学生が多いが、学力不足や学習意欲喪失が主な原因で毎年退学者が出ている。この対策として、個別の学習指導や出欠管理・遅刻防止などの日常生活の指導を徹底している。また、実習や行事の機会を捉えてクラス内の融和を図ることなどを心がけている。

保育科（学科長の見解）

退学理由としては、進路の変更が多い。「子どもが好き」などの漠然とした動機で入学した学生が授業科目数の多さや専門的な内容にとまどいを感じ、些細なきっかけから退学に至るケースがある。そのような事態を防ぐため、球技大会や授業でのグループ活動によって仲間作りをしたり、卒業生の保育者をゲストスピーカーに招いて保育の魅力を伝えたりするなどしている。また、担任は学期の始めと実習の前後に個別面談を行うほか、授業への出席状況についても定期的に確認している。欠席が多くなるなどの兆候がみられる時は担任が個別指導を行い、必要に応じて保護者との面談を行っている。

言語コミュニケーション学科（学科長の見解）

年によって 1～2 名の退学者が出ているが、その理由は、進路変更・家庭の事情・一身上の都合である。授業を三日以上連続で休む学生がいる場合、担任が本人と連絡を取る体制ができています。問題のある学生については、学科会議でとりあげ、保護者との連絡も密にし、困難な状況になる前に可能な限り対処している。

音楽科（学科長の見解）

本科では、退学者の数を減らすため、担任による学生に対するきめ細かい指導を行っている。個人実技レッスンなどで一人ひとりの学生と直接に接触する機会の多い本科の特徴を生かしながら、学業を続けることができるよう親身になって学生を支援している。

商科（学科長の見解）

本科では、退学を未然に防ぐため、定期的に面接を実施することにより学生との親密な関係づくりに努めている。また、学年始めに「新入生歓迎ボーリング大会」や「球技大会」などを実施し、新入生と在學生、及び専任教員が親睦を図っている。欠席が目立つ学生については、教員同士が連携を取り合い、担任がタイムリーな指導ができるよう学科会議で周知を図っている。

(4) 学長等は、短期大学全体の現状をどのように受け止めているかを記述して下さい。

<学長の見解>

本学では、退学者をいかに少なくするかが重要な課題であると考えている。そのために、クラス担任制及びチューター制を導入しており、学生及び保護者と綿密に相談、連絡を取れる体制をとっている。また、平成 20 年度後期よりコンピュータによる出欠管理を全学導入し、教員と学生支援グループ事務職員のダブルチェックによる、より綿密な個別指導が可能となった。また、上述したとおり、オンライン学務システムにより、クラス担任、及び、チューターによる学生への対応状況を学科長、学部長、学長は把握することができ

るので、クラス担任あるいはチューターにアドバイスを与えたり、あるいは、自身が直接学生の問題に対応することが可能である。もし、不幸にして退学に至った場合には、全学共通の「退学者・除籍者の指導記録」の用紙を作成し、各担任が個別の学生に対して、退学や除籍に至るまで、どのような指導を行ったかを記録・報告し、反省・総括することにより、退学防止に努めることとしている。

◆参考資料(38) 「退学者・除籍者の指導記録」

【資格取得の取組みについて】

(1) 《Ⅱ教育の内容》の【教育課程について】(3)で報告頂いた取得が可能な免許・資格、また教育課程とは別に取得の機会を設けている免許・資格の取得状況（取得をめざした学生数、取得者数、取得割合等）を学科等ごとに示して下さい。

＜教育課程履修で取得可能な免許・資格＞

学科・専攻	免許・資格名	資格を目指した学生数	取得者数	取得割合(%)
生活科学科 生活科学専攻	中学校教諭2種免許状(家庭)	0	0	0.0
	中学校教諭2種免許状(保健)	0	0	0.0
	養護教諭2種免許状	1	1	100.0
	二級建築士受験資格	0	0	0.0
	社会福祉士主任任用資格	0	0	0.0
	医療秘書	6	6	100.0
	介護員2級	0	0	0.0
生活科学科 食物専攻	栄養教諭2種免許状	4	4	100.0
	栄養士	30	30	100.0
	食品科学技術認定	10	10	100.0
	医療秘書	14	14	100.0
保育科	小学校教諭2種免許状	0	0	0.0
	幼稚園教諭2種免許状	54	54	100.0
	保育士	57	56	98.2
	社会福祉士主任任用資格	57	57	100.0
	レクリエーション・インストラクター	5	5	100.0
言語コミュニケーション学科	中学校教諭2種免許状(国語)	0	0	0.0
	中学校教諭2種免許状(英語)	1	0	0.0
	司書	4	4	100.0
	司書教諭	0	0	0.0
	医療秘書	9	9	100.0
	秘書士	0	0	0.0
	情報処理士	0	0	0.0
	プレゼンテーション実務士	20	20	100.0
音楽科	介護員2級	0	0	0.0
	中学校教諭2種免許状(音楽)	4	4	100.0
	幼稚園教諭2種免許状	2	2	100.0
	医療秘書	4	4	100.0
	音楽療法士2種	7	7	100.0
商科	介護員2級	0	0	0.0
	司書	1	1	100.0
	医療秘書	11	11	100.0
	秘書士	0	0	0.0
	上級秘書士	20	20	100.0
	情報処理士	19	19	100.0
	プレゼンテーション実務士	2	2	100.0
介護員2級	0	0	0.0	

＜教育課程外で取得できる資格＞

学科・専攻	資格名	資格を目指した学生数	取得者数	取得割合(%)
生活科学科	色彩能力検定2級	2	1	50.0
生活科学専攻	色彩能力検定3級	6	5	83.3

学科・専攻	資格名	資格を目指した学生数	取得者数	取得割合 (%)
	ファッション販売能力検定 2 級	1	1	100.0
	ファッション販売能力検定 3 級	6	5	83.3
	日本漢字能力検定 2 級	1	1	100.0
	日本漢字能力検定準 2 級	2	2	100.0
	秘書技能検定 2 級	1	0	0.0
生活科学科 食物専攻	フードスペシャリスト	10	10	100.0
	日本漢字能力検定 2 級	1	0	0.0
	日本漢字能力検定準 2 級	2	1	50.0
	日本語検定 3 級	1	0	0.0
	日本語検定準 3 級	1	1	100.0
保育科	日本赤十字幼児安全法支援員	9	9	100.0
言語コミュニ ケーション学科	実用英語技能検定 2 級	2	0	0.0
	TOEIC テスト	5	5	—
	日本漢字能力検定 2 級	1	1	100.0
	日本漢字能力検定準 2 級	2	1	50.0
	日本語検定 2 級	2	0	0.0
	日本語検定 3 級	2	2	100.0
音楽科	音楽検定 3 級	3	1	33.3
	音楽検定 4 級	2	2	100.0
商科	日商簿記検定 2 級	2	1	50.0
	日商簿記検定 3 級	12	1	8.3
	日商 P C (文書作成) 検定 2 級	2	1	50.0
	日商 P C (文書作成) 検定 3 級	24	19	79.2
	日商 P C (データ活用) 検定 3 級	1	0	0.0
	日商販売士検定	1	0	0.0
	秘書技能検定 2 級	3	1	33.3
	秘書技能検定 3 級	1	0	0.0

(2) 今後導入を検討している免許・資格があれば記述して下さい。

平成 22 年度よりコース制導入に伴う新しい資格取得の予定は下記の通りである。

- ・生活科学科生活科学専攻
 - アシスタント・ブライダル・コーディネーター ((社)日本ブライダル事業振興会)
- ・言語コミュニケーション学科
 - ビジネス実務士 ((財)全国実務教育協会)
- ・商科
 - ビジネス実務士 ((財)全国実務教育協会)
 - 医療秘書技能検定 (医療秘書教育全国協議会)

【学生による卒業後の評価、卒業生に対する評価について】

(1) 学科等ごとに専門就職 (当該学科等で学習した分野に関連する就職) の状況 (専門就職数、割合等) について記述して下さい。また学科等ごとに専門就職先からの卒業生に対する評価について何か文書や資料があれば参考資料として準備して下さい。

本学で「専門就職」に該当しているのは、「栄養士」の資格を利用して就職している生活科学科食物専攻と、「保育士」の資格で就職している保育科の二つの学科である。したがって、ここではこの二つの学科について記述する。

生活科学科食物専攻

就職決定者のうち、栄養士など調理関係に就職をした者が占める割合は、平成 19 年度 64.7% (22 人/34 人)、平成 20 年度 62.1% (18 人/29 人)、平成 21 年度 54.5% (12 人/22

人)である。平成 21 年度の専門就職以外は、医療事務及び一般事務関係 22.7%、販売・接客 13.6%であった。栄養士を目指して入学した学生の半数以上が、栄養士など調理関係及び技術職として取得資格を生かして就職したことになる。

保育科

就職決定者のうち保育及び教育関係への就職をした者が占める割合は、平成 19 年度 81.7%(49 人/60 人)、平成 20 年度 88.6% (39 人/46 人)、平成 21 年度 95.9%(47 人/49 人)となっており、良好である。特に、保育士が平成 19 年度 70.0%、平成 20 年度 72.7%、平成 21 年度 87.8%となっており、保育士が群を抜いて高い割合を示している。本科は保育士になることを目指して入学する学生が多いことから、大多数の学生は希望通りの就職をしていることになる。

- ◆参考資料(39) 「就職概況」平成 19 年度
- ◆参考資料(40) 「就職概況」平成 20 年度
- ◆参考資料(41) 「就職概況」平成 21 年度
- ◆参考資料(42) 「卒業生就職先企業などに対するアンケート調査」

(2) 卒業生に対する就職先（専門就職に限らない）及びその他の進路先（編入先等）からの評価をどのように受け止めているかについて、短期大学全体については学長等が、学科等については学科長等が記述して下さい。

生活科学科（学科長の見解）

「卒業生就職先企業などに対するアンケート調査」では、生活科学専攻の場合、全科・全コースの中で最も評価の高かった質問項目が三つあった。それは、「仕事に対して熱意を持ち、積極的に取り組んでいますか」、「ボランティア活動等、何かほかの人々や地域社会のために役立つことをしようとしていますか」、及び「社会生活や職業生活を通じて、自分自身をさらに成長させようとしていますか」であった。他方、食物専攻の場合には、全科・全コースの中で最も評価の高かった質問項目は、「学生時代に修得した資格・免許は役に立っていますか」、及び「職務上、さらにスキルアップしようとする意欲や向上心を持っていますか」であった。両専攻に共通していることは、「職務上、さらにスキルアップしようとする意欲や向上心を持っていますか」という質問項目に対する評価が高かったことである。また、食物専攻の学生の実習先を訪問した際に、卒業生の評価などを伺うようにしているが、おおむね好意的に受け入れられていると考えている。

保育科（学科長の見解）

上記の調査で、本科の卒業生に対する評価が高かった質問項目は、「本学の卒業生を採用されて良かったと思えますか」であった。「そう思う」が 38.2%、「どちらかといえばそう思う」が 32.4%であり、就職先の約 7 割が、本学の卒業生を採用して良かったと評価していることになる。また、「挨拶や礼儀はできていますか」、「仕事に対して熱意を持ち、積極的に取り組んでいますか」、及び「協調性があり、職場での人間関係がうまくいっていますか」の質問項目で本科の卒業生に対する評価が高かった。

本科では、学生の実習先の先生方との間に「保育実習連絡協議会」「施設実習連絡協議会」などを設け、実習先からの要望や実習前の教育について意見交換を行うと共に、本学の卒業生に対する評価などを伺うようにしている。また、実習先を訪問した際にも、現場

からの声を聞くように努めている。本科の場合、就職希望者のほとんどが保育所に就職できることから、卒業生に対する評価は好意的なものであると受け止めている。

言語コミュニケーション学科（学科長の見解）

上記の調査では、本科の有効回答が少なかったため、分析から除外している。しかし、本科は毎年就職について良好な結果を示していることから、好意的に受け止められているものと考えられる。学科の教育目標をプレゼンテーション能力の育成に教育の柱を据え、より実社会の求めるニーズに対応した教育内容にしたことはプラスの方向に作用しているものと受け止めている。

音楽科（学科長の見解）

上記の調査において、本科が最も高い評価を得たのは、「本学の卒業生を採用されて良かったと思えますか」という質問項目で 66.7%であった。「挨拶や礼儀はできていますか」、「一般常識や教養を身に付けていますか」、及び「協調性があり、職場での人間関係がうまくいっていますか」という質問項目についても、おしなべて評価が高かった。また、音楽療法コースの学生が実習の一環として施設などを訪問した場合に、引率した教員が卒業生に対する評価などを現場の先生方から伺うようにしている。卒業生の一人ひとりが音楽療法コースで学んだことを生かして地道に勤務しており、このような態度が好意的に評価されているものと受け止めている。

商科（学科長の見解）

上記の調査で、本科の卒業生の評価が最も高かったのは、「パソコンをはじめとする情報機器の扱いに馴れていますか」という質問項目であった。また、「職務上、さらにスキルアップしようとする意欲や向上心を持っていますか」という質問項目に対する評価も高かった。就職先は多方面にわたっているが、本科で学んだ情報処理能力を生かして、それぞれの現場で仕事に取り組んでいるものと考えている。

<学長の見解>

本学はこれまで各種の実習のための協議会や企業訪問などあらゆる機会を使って、学生が就職する現場の声に耳を傾けようと努めてきた。しかし、卒業生の就職先企業などに対してアンケート調査を実施したのは、今回が初めてであった。その結果 61 の就職先企業などが調査に協力していただいた。また、これまでの卒業生の実績に対し、おおむね好意的な評価をいただいた。本学は、これからも、卒業生の就職先などからの現場の声に真摯に耳を傾け、それを教育内容の充実や就職指導の改善に結び付けていきたいと考えている。

(3) 卒業生に対して「学生時代についてのアンケート（卒業後評価等）」等を実施している場合はその概要とその結果を記述して下さい。また教育の実績や効果を確認するための卒業生との接触、同窓会等との連携等を行っている場合もその取組みの概要と結果について記述して下さい。

本学では、平成 21 年度に、平成 18 年度から平成 20 年度に卒業した学生を対象として、「過去卒業生に対する満足度調査」（卒業後評価等）を実施した。郵送による調査であったが、調査票の配布数が 718 件、回収数が 66 件、回収率は 9.2% であった。平成 21 年度の卒業生については、卒業時に卒業生に対する満足度調査を行っているため、設問項目もそれとよく似た内容とした。アンケート結果は、卒業時に行った調査とよく似た傾向が

みられた。例えば、「あなたは「徳島文理大学短期大学部」を卒業して良かったと思われ
ますか」という設問に対しては、全体で「そう思う」が 47.0%であり、「どちらかとい
えばそう思う」が 25.8%であり、合計 72.8%であった。また、「短期大学での 2 年間の
大学生活は現在のあなたの生活にとって役立っていますか」という設問には、「そう思
う」が 51.5%、「どちらかといえばそう思う」が 22.2%、合計は 74.2%であった。自由
記述のところでは、本学に対する要望も含め、建設的な意見が多かった。このような卒業
生の声に真摯に耳を傾け、今後の教育内容の改善に取り組みたい。

また、学生は卒業すると同時に同窓会組織である「アカンサス会」に入会することにな
っている。「徳島文理大学通信」を全会員に毎年郵送することにより、卒業生との連携に
努めている。また、大学の大きな記念事業が行われる年には、卒業生のための「ホームカ
ミングデー」を設け、卒業生との親睦を図ってきた。なお、昨年、アカンサス会の徳島県
支部と香川県支部を設立したところである。

- ◆参考資料(14) 「平成 21 年度卒業生に対する満足度調査—学生アンケートに基づく分析—」
- ◆参考資料(15) 「卒業生満足度評価アンケート」 (マークシート用紙)
- ◆参考資料(43) 「過去卒業生に対する満足度調査 平成 21 年度」

(4) 卒業生が社会からどのように評価されているか、学科長等、学長等は現状をどのよう
に受け止めているかを記述して下さい。

<学長の見解>

前述のアンケート結果を集約すると、本学の卒業生は就職先から、挨拶や礼儀ができて
いて協調性があり、職場での人間関係がうまくいっており、さらに仕事に対して熱意を持
ち、積極的に取り組んでいると評価されている。したがって、本学の卒業生に対する社会
的な評価はおおむね良好と受け止めている。

また、自由記述の項目では、「協調性のある一般常識や教養を持った学生の指導をお願
いしたい」「様々な世代の人と交流できるコミュニケーション力を意識して欲しい。学生
時代に資格取得する事よりも、前向きな向上心を持っている学生を採用したい」といった
率直で有益なコメントを頂いた。このような調査結果を真摯に受け止め、今後のさらなる
教育内容の充実に向けて取り組みたい。

- ◆参考資料(42) 「卒業生就職先企業などに対するアンケート調査」

【特記事項について】

(1) この《IV教育目標の達成度と教育の効果》の領域で示した評価項目や評価の観点の他
に、教育目標の達成度と教育の効果について努力していることがあれば記述して下さ
い。

特記事項なし。

(2) 特別の事由や事情があり、評価項目や評価の観点が求めることが実現（達成）できな
いときはその事由や事情を記述して下さい。

特記事項なし。

V 学生支援

【入学に関する支援について】

(1) 入学志願者に対し、短期大学は建学の精神・教育理念や設置学科等の教育目的・教育目標、求める学生像をどのような方法、手段で明示しているかを記述して下さい。なおそれらが記載されている短期大学案内等の印刷物を添付して下さい。

本学の教育目標及び各学科の教育の特色、学生生活・就職状況、当該年度の入学者選抜方法などの情報については、大学案内、AO入試要項、入学試験要項、短期大学独自のパンフレットなどの配布や大学ホームページでの広報のほか、広報担当者による県内外の高等学校訪問、年間6回のオープンキャンパス、14ヶ所の府県別保護者会・進学説明会などを開催することにより、対象としての高校生、保護者、高等学校教員に入念な説明を行っている。また、進学相談会を通じて、学長以下教職員が一体となって本学の教育方針、特色、アドミッションポリシーを理解してもらうための努力を行っている。

◇添付資料① 「2011年度大学案内」

◇添付資料③ 「キャリア短大 始動! Campus Guide 2011 徳島文理大学短期大学部」

◇添付資料⑧ 「平成23年度入学試験要項」

◆参考資料(44) 「2011年度AO入試要項」

(2) 入学志願者に対し、入学者選抜の方針、選抜方法（推薦、一般、AO入試等）をどのような方法、手段で明示しているかその概要を簡潔に記述して下さい。なおそれらが記載されている募集要項等の印刷物を参考資料としてご準備下さい。

指定校制推薦については、各指定校に推薦入試要項を送付し、本学の方針を的確に周知している。公募制推薦入試、一般入試については、「入学試験要項」を作成し、応募資格、募集期間、入試日程、試験科目、入学金、授業料の納付、奨学金制度などについて詳細に記載し、受験生や保護者、高等学校に周知させている。AO入試についても、別冊の要項を作成し、アドミッションポリシー、望ましい学生像、面接による選考方法、入学前教育など、本学の方針がよくわかるように記載し、周知徹底を図っている。さらに、これらの選抜方法についてはホームページに掲載すると共に、インターネット出願も可能にしている。

◇添付資料⑧ 「平成23年度入学試験要項」

◆参考資料(44) 「2011年度AO入試要項」

◆参考資料(45) 「平成23年度指定校制推薦入学試験要項」

(3) 広報及び入試事務についての体制（組織等）の概要を記述して下さい。また入学志願者、受験生等からの問い合わせにはどのような体制で応じているかを記述して下さい。

「アドミッションズ・オフィス」を設置し、情報の収集・分析を行うと共に、資料の発送、各地での説明会開催、県内外の高等学校への巡回訪問など学内外への広報に努めている。入試事務についても、「教育・研究支援ユニット 学務入試グループ」を設置し、入試要項の作成、実施計画、入試処理などの業務を行っている。また、部内での情報の共有化を図る中で、入学志願者、受験生などに対して適切かつ迅速な対応に努めている。

(4) 願書受付から合否通知にいたる入学試験の流れについて、選抜方法ごとにその概要を記述して下さい。また多様な選抜を公正かつ正確に実施しているかどうか、入試事務の責任者は現状をどのように受け止めているかを記述して下さい。入学願書等を参考資料としてご準備下さい。

以下に、各選抜方式について説明する。

〈A O入試〉

①エントリーシート発送（志願者）→②エントリーシート受付（学務入試グループ）→③インタビューシート送付（学部事務グループ）→④インタビューシート返送（志願者）→⑤インタビューシート受付（学部事務グループ）→⑥面談日の連絡もしくは課題の送付（学部事務グループ）→⑦面談型選考（A O入試委員及び学科教員）→⑧面談型選考判定（A O入試運営委員会）→⑨選考結果を学務入試グループへ報告（学部事務グループ）→⑩志願者に結果を通知・合意者には入学願書を送付（学務入試グループ）→⑪合意者は入学願書等を送付（受験生）→⑫入学願書受付（法人事務局入試事務局）→⑬入試判定会議（教授会）→⑭合否通知発送（法人事務局入試事務局）

〈指定校制推薦入試〉

①各学部の指定する高等学校に要項送付（学務入試グループ）→②学校長の推薦書と入学願書等を送付（受験生）→③入学願書受付（法人事務局入試事務局）→④面接選考（本学教員）→⑤入試判定会議（教授会）→⑥合否通知発送（法人事務局入試事務局）

〈スポーツ推薦入試〉

①本学が指定する競技のみに限定して受験生を募集（学務入試グループ）→②学校長の推薦書と入学願書等を送付（受験生）→③入学願書受付（法人事務局入試事務局）→④面接選考（競技指導教員、本学教員）→⑤入試判定会議（教授会）→⑥合否通知発送（法人事務局入試事務局）

〈資格利用入試〉

①本学が指定する資格基準以上の資格を有する者を対象として受験生を募集（学務入試グループ）→②学校長の調査書等と入学願書等を送付（受験生）→③入学願書受付（法人事務局入試事務局）→④面接選考（本学教員）→⑤入試判定会議（教授会）→⑥合否通知発送（法人事務局入試事務局）

〈公募制推薦入試、一般入試〉

①入学願書等（推薦入試の場合、校長推薦書も必要）を送付（受験生）→②入学願書受付（法人事務局入試事務局）→③学力試験（推薦入試の場合、面談も有り）（本学教員）→④入試判定会議（教授会）→⑤合否通知発送（法人事務局入試事務局）

〈大学入試センター試験利用入試〉

①入学願書等を送付（受験生）→②入学願書受付（法人事務局入試事務局）→③大学入試センターへ成績請求（学務入試グループ）→④入試判定会議（教授会）→⑤合否通知発送（法人事務局入試事務局）

〈帰国生・社会人のための入試〉

①入学願書等を送付（受験生）→②入学願書受付（法人事務局入試事務局）→③小論文及び面接試験（音楽科の場合は、小論文に代えて実技試験）（本学教員）→④入試判定会議（教授会）→⑤合否通知発送（法人事務局入試事務局）

〈外国人留学生のための入試〉

①履歴書等選考書類を送付（受験生）→②書類受付（学務入試グループ）→③書類選考（本学教員）→④一次選考結果通知発送（学務入試グループ）→⑤入学願書等を送付（受験生）→⑥入学願書受付（法人事務局入試事務局）→⑦口頭試問（本学教員）→⑧入試判定会議（教授会）→⑨合否通知発送（法人事務局入試事務局）

〈現状〉（学務入試グループ長の見解）

AO入試に関しては、現役生、卒業生、社会人経験者などを対象に、志願者と本学との対話、体験学習、実験・実習などの諸活動を通して、相互理解を深め、双方が納得した形で入学することを前提にして実施している。また、指定校制推薦入試は、指定する要件（人物、学力、評定平均値等）に従い、徳島県をはじめ四国圏内の高等学校を中心に、全国の高等学校から志願者を募集している。スポーツ推薦入試については、バレーボール女子、バスケットボール女子、弓道男女、剣道男女の種目について、募集を行っている。

公募制推薦入試、一般入試に関しては、全国 18 都道府県の県庁所在地に試験会場を設け、受験生の利便性を図り、幅広く募集している。

大学入試センター試験利用入試は、平成 20 年度入試から回数を 2 回から 3 回にし、受験機会を増やした。

社会人入試については、生涯学習や地域貢献の観点から積極的に取り組んでいる。特に、本学は資格取得を目指す大学として、社会人や生涯学習を目指す人々の要望に対応している。

◇添付資料⑧ 「平成 23 年度入学試験要項」

◆参考資料(44) 「2011 年度AO入試要項」

◆参考資料(45) 「平成 23 年度指定校制推薦入学試験要項」

◆参考資料(46) 「平成 23 年度スポーツ推薦入学試験要項」

◆参考資料(47) 「平成 23 年度入学願書」一式

(5) 合格者もしくは入学手続き者に対し、入学までの間、授業や学生生活についてどのような方法、手段で情報の提供を行っているかを記述して下さい。なおそのための印刷物等があれば参考資料としてご準備下さい。

入学手続き者に対して、キャンパスガイドを簡素化した冊子と学習ポートフォリオのファイルを送付し、大学生活への目標を明確にして入学に望むよう呼びかけている。また、AO入試合格者に対しては、「入学前教育」を実施している。入学前教育では、共通の「日本語」「作文」のほか、学科・専攻ごとに数学・英語・作品制作などの課題を提出させている。また、本学で2回「ガイダンス」を行い、課題の解説のほか、コミュニケーション能力を高めるプログラムを行っている。

◆参考資料(48) 「学習ポートフォリオのファイル」

◆参考資料(49) 「徳島文理大学短期大学部へようこそ！！」

◆参考資料(50) 「徳島文理大学短期大学部・入学前教育の概要」

(6) 入学後（入学直前を含む）、入学者に対して行っている学業や学生生活のためのオリエンテーション等の概要を示して下さい。

入学後、2日間をかけたキャンパスガイドを用いたの全体的な説明会、その後各学科・専攻ごとに履修方法や資格取得などについてのオリエンテーションを実施している。

◇添付資料④ 「キャンパスガイドー学生生活と履修の手引きー2010」

◆参考資料(48) 「学習ポートフォリオのファイル」

◆参考資料(52) 「新入生オリエンテーション」

【学習支援について】

(1) 入学時もしくは学期ごとに行っている学習や科目選択のためのガイダンス等の概要を示して下さい。

履修方法や科目選択のためのガイダンスは、各学期の最初に行うオリエンテーションで担任と学生支援スタッフによって実施している。学生個人の希望により免許・資格が取得できるよう詳しく丁寧に説明し、履修届提出後の確認作業も行っている。

(2) 学習や科目選択のための印刷物（学生便覧等を除く）があれば参考資料としてご準備下さい。

◆参考資料(10) 「2010年度 シラバス」 （冊子）

◆参考資料(51) 「平成22年度時間割」

(3) 基礎学力不足の学生に対し補習授業等の取組みを行っている場合は、その概要を記述して下さい。

本学全体の取り組みとして、平成19年度から「全学共通教育センター」が設置された。同センターは、高度な専門知識を学ぶうえで欠かせない基礎学力を、全学部共通で向上させることを目的としている。同センターでは、教員が毎日オフィス・アワーを設け大学の授業を理解しうる基礎学力向上や教員養成支援、公務員試験対策などのために個人指導を行っている。また、必要に応じて自由に使える学習ツール（eラーニング）を導入し、学力不足の学生への一助としている。

◆参考資料(53) 「平成22年度 基礎学力充実対策（オフィス・アワー）時間割」

◆参考資料(54) 「平成21年度 全学共通教育センター利用状況」

(4) 学生の学習上の問題、悩み等に対し指導助言のための取組みや体制があれば記述して下さい。通信教育学科を置く場合には、添削等による指導の学習支援、教育相談の体制及び運営状況を記述して下さい。

学生の学習上の問題・個人的な悩みなどに対しては、担任、チューター及び学生支援スタッフが相談・指導・助言を行い、学習に関しては必要に応じて全学共通教育センターで指導している。経済的な問題や健康面での問題について、学生支援グループ・健康管理グ

グループで相談窓口を設け対応している。

(5) 進度の早い学生や優秀学生に対する学習上の配慮や学習支援を行ってれば、記述して下さい。

進度の早い学生や優秀学生に対しては、授業担当者が個人の能力に応じて個別に支援を行っている。

【学生生活支援体制について】

(1) 学生生活を支援するための組織や体制（教員組織、事務組織のいずれも）の現状を示して下さい。

学生の生活全般を支援するための組織として、学生支援ユニットと就職支援ユニットがある。学生支援ユニットは3つのグループ、就職支援ユニットは1つのグループから構成されており、それぞれのグループが連携し、学生支援に当たっている。

＜学生支援の主な支援内容＞

ユニット名	グループ名	構成員	役割
学生支援 ユニット	学生支援 グループ	ユニット長 1名 グループ長 1名 事務職員 9名	履修の相談、単位取得相談、大学生生活の相談、証明書発行、奨学金、アルバイト、クラブ・サークル、大学祭、表彰・懲罰、改善意見箱の管理
	健康管理 グループ	グループ長 1名 講師 1名 事務職員 1名	身体的な対応及び相談、心理的な相談、健康増進及び予防広報、救急処置対応、各種申請・調査、保健教育資料整備、献血、衛生委員会等
	学生寮	寮長 1名 寮監 1名	寮生の生活指導・支援 学生寮及びテニスコートの管理
就職支援 ユニット	キャリア・サポート グループ	グループ長 1名 副部長 1名 課長 1名 事務職員 5名	進路相談、就職支援指導、各種就職支援対策講座、インターンシップの推進、県内外事業所訪問及び新規開拓等

特に学生支援グループは、個々の学生の悩みや問題の解決などの総合的な窓口として様々な事柄に積極的に関わり、より適切な支援グループと深く連携を取りながら、充実した学生生活を送れるよう指導支援している。

＜学内各種委員会の運営に関する事項＞

- ① 学生指導協議会の運営（構成員 18 名、学生支援グループが運営）
学生の厚生補導に関する諸問題を審議すると共に、これらについて組織的・専門的に相談を受けたり、指導支援を行う。
- ② 人権教育推進委員会の運営（構成員 17 名、学生支援グループが運営）
全ての人の人権が尊重される社会の実現に向け、本学における人権教育を推進する。
- ③ インターンシップ推進委員会の運営（構成員 21 名、キャリア・サポートグループが運営）
学生が就業体験を通して職業意識の高揚や学習意欲の向上さらには人間的成長を図ることを目的としている。
- ④ セクシュアル・ハラスメント防止のための委員会（防止委員 20 名、総務ユニットが運営）

- ◆参考資料(55) 「学生指導協議会運営規則」
- ◆参考資料(56) 「人権教育推進委員会規則」
- ◆参考資料(57) 「インターンシップ推進委員会規則」
- ◆参考資料(58) 「セクシュアル・ハラスメント防止委員会細則」

(2) クラブ活動の現状、学友会の現状、学園行事（学園祭、短大祭等）の実施の状況を、その指導体制及び学生の活動状況を含めて記述して下さい。

本学では、クラブ活動、学園行事などについては大学との共催で実施している。クラブ活動をはじめ学生の自主的な課外活動を、人間形成を図る場として捉え、教育の一環として支援している。建学精神である「自立協同」の具現化を目指し、学業のみならず人間としての幅広い教養と健全な精神を身に付け、社会に貢献できる人材の育成を目指している。

＜クラブ活動への支援と現状＞

各クラブの活動に対し、クラブ結成の許可、部室、グラウンドなどの使用を認める施設設備面での支援のほか、年間活動費の配分及び活動状況に応じた資金援助などの経済的支援、指導者の派遣依頼、安全対策、活動の表彰と評価などの人的支援、物的支援などを図るなど課外活動活性化のための支援を行っている。

平成 21 年度は本学と大学の合同クラブとして、体育系 20 部、文化系 15 部、同好会 14 部、郷土芸能振興 3 部が活動した。クラブ活動費については、徳島文理大学クラブ委員会規約に基づき学生のクラブ委員会委員長を中心に活動状況に応じて配分され円滑に運営されている。また、指導体制については各部とも顧問教師を配して活動している。体育系クラブ 5 部、文化系クラブ 13 部及び郷土芸能については学外より専門の指導者を招聘し、活動を行っている。郷土芸能とは徳島文理大学連（阿波踊り）、ニライカナイ（沖縄県人会エイサー団体）、ヨサコイ踊り（高知県人会）を指し、特にこの 3 団体には学園挙げて支援している。

＜学友会の現状＞

本学には全学生を組織化した学友会はない。しかし、学生は様々な活動のグループを構成し、自主的な活動を行っている。クラブ活動のグループ、クラスや学科のグループ、研究のグループ、行事实践型のグループ、県人会などで、多様な活動が行われている。

＜大学祭（山城祭）への支援と現状＞

大学祭は、本学の「建学精神」体得のための活動として大きな意義を有している。

その内容は、野外ステージ、展示、模擬店、芸能人招致の 4 部門から構成されている。山城祭は平成 21 年度に第 45 回を迎え、毎年 10 月下旬の金曜日から日曜日の 3 日間の日程で実施されている。平成 21 年度の運営費は、大学祭費として 180 万円を支援している。運営は、学生支援グループの助言支援のもと大学祭実行委員が中心となり、学生が自主的に運営している。大学祭は周辺住民や本学を志望する受験者、保護者などに本学への理解を深めてもらう絶好の機会となっている。

＜その他の課外活動への支援＞

① 入生歓迎会及び各科親睦球技大会への支援

学期始めに各学科が開催するこれらの行事のために、体育館、学生寮内のテニスコート、新浜グラウンドなどの日程調整を行っている。

②県人会活動への支援

教職員に担当府県顧問を依頼し、親睦会開催のポスター掲示など活性化支援を促進している。

③ボランティア活動

学生ボランティア部は週1回の運営会議を開催し、活動に対する共通理解を深めながら、施設訪問、献血活動や清掃活動など様々なイベントへの参加を支援している。

保育科の学生には実習先の福祉施設などのイベントへの参加を奨励している。平成21年度は47名（延べ人数）の参加者があった。

◆参考資料(59) 「第45回徳島文理大学山城祭」

(3) 学生の休息のための施設・空間、保健室、食堂、売店の設置の概要について記述して下さい。なお訪問調査の際にご案内いただきます。

学生の休息のための施設として、9号館1階に学生用のロビーを設置すると共に1号館、3号館、5号館、9号館、23号館、25号館（メディアセンター）の2階以上に休息のためのラウンジを設けている。さらに野外には、万葉の道（キャンパス内の庭園）や薬草園を常に開放するなど、くつろげる休息空間を設けている。また、保健室、学生相談室はキャンパス西隅にある比較的静かな2号館に設置されている。食堂は、7号館に学生食堂パウゼ（360席）、25号館にカフェ・ロティ（36席）がある。そのほか、購買は7号館1階に、25号館（メディアセンター）1階にはJTB文理トラベルセンターとファミリーマートがある。

＜学生休息のための施設、設備、食堂、売店等の設置の概要＞

施設名	場所・広さ	備品等	概要
学生食堂 (ラウンジ)	7号館1階 282.10㎡	机37台 椅子220脚	昼食時以外は、学生の共同学習や歓談の場としている。
パウゼ	7号館2階 食堂 434.60㎡	机61台 椅子360脚	業者委託。 ランチ450円、日替わり丼、その他30種類以上のメニューが用意されている。
	厨房 181.66㎡ ラウンジ 56.25㎡	机2台 ソファ8人用、 9人用 各1脚	
購 買	7号館1階 自販機コーナー 72.98㎡	自動販売機7台 カウンターテーブル1台	業者委託
	購買 142.56㎡	コピー機1台	
研修センター	7号館3階 401.25㎡	机2台、ベンチ4台	教員室、部室として活用している。
	7号館4階 401.25㎡	机2台、ベンチ4台	
ラウンジ	9号館1階 191.31㎡	カウンターテーブル8台 椅子24脚 角机6台 椅子24脚 変形机15台 椅子56脚 コピー機1台	学生の共同学習や自習、食事など憩いの場となっている。
	24号館1階 140.29㎡	机9台 椅子38脚 机4台 ソファ椅子22脚	

施設名	場所・広さ	備品等	概要
カフェ・ロティ	25号館1階 100.32㎡	机10台 椅子36脚 ベンチ・テーブル4台	業者委託。 パスタ、パン、コーヒーなど食事とくつろぎの場としている。 テラスにはベンチ・テーブルがあり食事や憩いの場となっている。
JTB 文理トラベル センター	25号館1階 36.57㎡	カウンター椅子3脚 机1台 椅子4脚	業者委託。 合宿、遠征、帰省など学内での予約が可能。
ファミリーマート	25号館1階 151.02㎡	陳列台等	業者委託。 文具、本、弁当、パン、飲み物、菓子などを販売している。

(4) 短期大学が設置する学生寮の状況、下宿・アパート等の宿舍の斡旋の体制、通学のための便宜（通学バスの運行、駐輪場・駐車場の設置等）の概要を示して下さい。

<学生寮>

本学、大学併せて50名定員の女子学生寮を設置している。

<下宿・アパートの紹介>

良好な環境条件などを備えた学生の下宿・アパートなどの資料は、学生支援グループが保管、管理している。これらの下宿・アパートは家主と協定し、敷金など入学時の学生の経済的負担を少しでも軽減できるように支援している。

<通学バスの運行>

本学は、徳島市東部に位置し、JR徳島駅よりの通学距離は、約4kmの位置にある。通学により便宜を図るため、通学者の多いJR徳島駅と大学間で授業時間帯に合わせスクールバスを一日12往復運行している。

<バイク及び駐輪場>

キャンパス内に約2,000台収容できる大学と共用のバイク及び駐輪場を設置している。現在、全学で約1,600名の学生が自転車通学をしており十分な収容スペースが確保できている。

<学生駐車場>

学生駐車場は約200台確保している。基本的に通学距離が10km以上の学生を対象に1年入学時に厳正に書類審査をし、その後、交通安全講習会を受講させて許可学生を決定している。また、学生駐車場の利用がかなわなかった学生に対しては民間駐車場を紹介するなど可能な限り学生の要望に応えられるよう努力している。

◇添付資料① 「2011年度大学案内」(p.82)

◇添付資料④ 「キャンパスガイドー学生生活と履修の手引きー2010」(p.10、p.96-p.97)

◆参考資料(52) 「新入生オリエンテーション」

(5) 平成21年度の日本学生支援機構等の外部奨学金の取得状況を記述して下さい。また短期大学独自の奨学金等があればその概要を記述して下さい。

<外部奨学金>

① 独立行政法人日本学生支援機構奨学金の取得状況

年度	第1種	第2種	併用	計
平成21年度	22名	73名	4名	99名

② その他奨学金

各都道府県の地方公共団体奨学金や民間育英団体奨学金、その他交通遺児育英会、あしなが育英会の奨学金がある。平成 21 年度は本学を通しての取得学生はいない。

<本学独自の奨学金>

①就学支援奨学金制度（給付）

対象者	条件	手続	選考方法	給付金額	平成 21 年度 利用学生数
・全学部、学科の本学在学学生で 1 年生に限る	・経済的に修学困難な者でかつ当該年次の前期試験の成績が優秀な者	・所定の申請書及び家庭の所得証明書を添付のうえ学生支援グループ長に提出	・家庭の収入状況及び当該年次前期試験の結果等を参考にして選考	・当該年次授業料の半額	・ 1 名

②村崎サイ奨学金（給付）

対象者	条件	手続	選考方法	給付金額	平成 21 年度 利用学生数
・全学部、学科の本学在学学生	・学費担当者の事故（死亡）等により修学困難となった学生で成績優秀にして学業継続の意志のある学生	・担任の奨学金給付推薦書に本人の奨学金給付願、戸籍謄本、家庭の所得証明書を添付のうえ学生支援グループ長に提出	・成績及び家庭の所得を証明する資料等参考にして法人事務局にて審査決定	・授業料相当額 ・給付期間は 1 ケ年	・ 0 名

③徳島文理大学就学奨学金（給付）

対象者	条件	手続	選考方法	給付金額	平成 21 年度 利用学生数
・本学への入学、編入学生及び在学学生	・徳島文理大学提携教育ローンを利用している学生	・保護者との連名して給付申請書を本学学生支援グループ長まで提出	・金融機関から送付済みの当該制度融資実行通知書を照合し、在学生であることの確認	・利息相当分を奨学金として支給 ・申請年度より最短短就学期間まで	・ 2 0 名

<その他の支援>

期限内に授業料納入の困難な学生に対しては、分納など柔軟な対応を図っている。また、アルバイト情報の提供を行っている。ただし、大学生生活、修学に影響のない職種、内容、時間帯などに考慮し慎重に取り扱っている。

(6) 学生の健康管理、メンタルケアやカウンセリングの体制の概要を示して下さい。

保健センター及びカウンセリング室を設置し、校医 1 名（非常勤）、講師 2 名（兼任）、事務職員 1 名（専任）、カウンセラー 1 名（非常勤・臨床心理士）が勤務している。

入学時健康調査により健康状態を把握し、健康診断を実施すると共に、保健センターではメンタルヘルスを含む健康相談を実施し、カウンセリング室では精神面の問題や悩みについて相談を実施し学生の健康管理をサポートしている。

カウンセリング室におけるカウンセリングは、毎週月曜・水曜の 9:30 から 17:30 まで行っている。平成 21 年度の相談の内容は精神的病状についてが最も多く、つづいて対人

関係についての悩みが多かった。

◆参考資料(60) 「保健業務実施記録」平成 21 年度

(7) 学生支援のために学生個々の情報等を記録していれば、それらはどのように保管・保護されているかを記述して下さい。

本学では、個人情報保護に関する規程に基づき、学生から個人情報を収集する際は、原則として、利用目的以外に使用又は第三者に供与しないことなどを明確にし、その取り扱いに細心の注意を払っている。そのため、学生情報などを共有するネットワークシステムを構築し、学生情報を一元化して保管している。また、学生情報の利用及び運用については、「情報セキュリティ実践の手引き」に基づきアクセス権限（ID、パスワード）を有する者を限定するなど権限者を明確化し、個人情報の漏洩事故などを引き起こさないような体制を整備している。

学生の指導要録、健康記録カード、学生名簿などは金庫や保管庫などで厳重に保管している。文書の保存年限は文書保存規程の定めるところにより、保存年限の過ぎた個人情報に関するものはシュレッダーで裁断・廃棄している。

- ◆参考資料(61) 「情報セキュリティ実践の手引き」
- ◆参考資料(62) 「『個人情報の保護に関する法律』に基づく公表事項」
- ◆参考資料(63) 「文書保存規程」
- ◆参考資料(64) 「指導要録用紙」
- ◆参考資料(65) 「健康記録カード」
- ◆参考資料(66) 「健康診断票」

【進路支援について】

(1) 過去3ヶ年(平成19年度～21年度)の就職状況を学科等ごとに記載して下さい。また進路一覧表等の印刷物があれば参考資料としてご準備下さい。

<平成 19 年度～21 年度の進路状況表>

(平成 22 年 5 月 1 日現在)

学科	専攻	区分	平成 19 年度		平成 20 年度		平成 21 年度	
			人	割合(%)	人	割合(%)	人	割合(%)
生活科学科	生活科学専攻	a 卒業者数	20	—	12	—	17	—
		b 就職希望者数	10	50.0	4	33.3	14	82.4
		c うち学校で斡旋した就職者数 c/b	9	90.0	3	75.0	10	71.4
		d うち自己開拓分の就職者数 d/b	—	—	—	—	—	—
		e 就職未定者 e/b	1	10.0	1	25.0	4	28.6
		f 進学・留学希望者数 f/a	4	20.0	2	16.7	2	11.8
		g その他 g/a	6	30.0	6	50.0	1	5.9
	介護福祉士	a 卒業者数	11	—	8	—	廃止	—
		b 就職希望者数	9	81.8	8	100.0	—	—
		c うち学校で斡旋した就職者数 c/b	8	88.9	8	100.0	—	—
		d うち自己開拓分の就職者数 d/b	—	—	—	—	—	—
		e 就職未定者 e/b	1	11.1	0	0.0	—	—
		f 進学・留学希望者数 f/a	1	9.1	0	0.0	—	—
		g その他 g/a	1	9.1	0	0.0	—	—
	食物専攻	a 卒業者数	39	—	43	—	31	—
		b 就職希望者数	35	89.7	31	72.1	25	80.6
		c うち学校で斡旋した就職者数 c/b	34	97.1	29	93.5	22	88.0
		d うち自己開拓分の就職者数 d/b	—	—	—	—	—	—
		e 就職未定者 e/b	1	2.9	2	6.5	3	12.0
		f 進学・留学希望者数 f/a	1	2.6	8	18.6	1	3.2
		g その他 g/a	3	7.7	4	9.3	5	16.1

学科	専攻	区分	平成 19 年度		平成 20 年度		平成 21 年度	
			人	割合(%)	人	割合(%)	人	割合(%)
保育科		a 卒業者数	84	—	53	—	57	—
		b 就職希望者数	60	71.4	44	83.0	51	89.5
		c うち学校で斡旋した就職者数	60	100.0	44	100.0	49	96.1
		d うち自己開拓分の就職者数	—	—	—	—	—	—
		e 就職未定者	0	0.0	0	0.0	2	3.9
		f 進学・留学希望者数	10	11.9	2	3.8	6	10.5
		g その他	14	16.7	7	13.2	0	0.0
言語コミュニケーション		a 卒業者数	17	—	18	—	21	—
		b 就職希望者数	16	94.1	13	72.2	17	81.0
		c うち学校で斡旋した就職者数	16	100.0	13	100.0	15	88.2
		d うち自己開拓分の就職者数	—	—	—	—	—	—
		e 就職未定者	0	0.0	0	0.0	2	11.8
		f 進学・留学希望者数	0	0.0	4	22.2	2	9.5
		g その他	1	5.9	1	5.6	2	9.5
音楽科		a 卒業者数	21	—	16	—	15	—
		b 就職希望者数	9	42.9	8	50.0	7	46.7
		c うち学校で斡旋した就職者数	8	88.9	7	87.5	7	100.0
		d うち自己開拓分の就職者数	—	—	—	—	—	—
		e 就職未定者	1	11.1	1	12.5	0	0.0
		f 進学・留学希望者数	7	33.3	4	25.0	6	40.0
		g その他	5	23.8	4	25.0	2	13.3
商科		a 卒業者数	35	—	18	—	21	—
		b 就職希望者数	23	65.7	14	77.8	18	85.7
		c うち学校で斡旋した就職者数	22	95.7	13	92.9	17	94.4
		d うち自己開拓分の就職者数	—	—	—	—	—	—
		e 就職未定者	1	4.3	1	7.1	1	5.6
		f 進学・留学希望者数	3	8.6	1	5.6	2	9.5
		g その他	9	25.7	3	16.7	1	4.8

※(c うち学校で斡旋した就職者数)には(d うち自己開拓の就職者数)及び自営を含む

※本学では進路状況については、5月1日付けで集計している。

<平成 19 年度～平成 21 年度の就職状況>

本学の就職率は平成 19 年度が 96.9%、平成 20 年度が 95.9%、平成 21 年度が 90.9%である。

平成 17 年度以降、本学はコンスタントに 94%を上回る高い就職率をあげてきた。しかし、平成 20 年後半の米国発金融危機に端を発した世界同時不況の中で、日本の企業を取り巻く経済環境は先行き不透明な状況となり、雇用環境を大幅に悪化させてきた。平成 20 年度は危機発生が年度後半であったため、その影響を最小限に食い止めることができ、就職率は前年比-1%の減にとどめることができた。しかし、この影響は平成 21 年度には年度当初の求人減となってあらわれ、平成 21 年度は最終的に前年度比-5%の就職率となった。

ただ、数値的には減少しているが、この変動は1～2名の学生の就職結果に左右されるところもあり、おおむね学生はそれぞれ希望する分野への就職を実現している。特に、生活科学科食物専攻や保育科では、栄養士や保育士の資格を生かした就職の実現が継続されている。また、厳しい雇用情勢の中でもこれを人材獲得の好機と捉える中小企業などへの就職を念頭に、言語コミュニケーション学科や商科では、学習内容を生かしながら、サービス業をはじめ卸小売業から金融、医療福祉まで幅広く就職することで高い就職率を保っている。

◆参考資料(39) 「就職概況」平成 19 年度

◆参考資料(40) 「就職概況」平成 20 年度

◆参考資料(41) 「就職概況」平成 21 年度

(2) 学生の就職を支援する組織や体制（教員組織、事務組織のいずれも）の現状を記述して下さい。

＜組織体制について＞

本学は、平成 19 年度学生への支援を一元的に行うために新たに「学生支援ユニット」を組織し、その中に、学生のキャリア・就職支援を行うための「キャリア・サポートグループ」を設置し、平成 22 年度より就職支援ユニットとして独立した。

キャリア・サポートグループは、従前の就職部が行っていた就職支援業務に加えて、キャリアガイダンスを早い段階から実施することやインターンシップの推進を図る新たな業務を行っている。

これまで、キャリア・サポートグループは、年 4 回実施する学科別専攻別就職説明会などの機会に、各学科の担任と情報交換を行っており、個別に担任が学生を伴って相談に来るなど、相互の密接な連携のもとに学生の就職支援を行ってきている。

さらに平成 22 年 2 月に、学内に就職支援委員会を組織し、各学部とキャリア・サポートグループとの連携を一層密にし、全学での支援態勢の充実を図っている。

＜キャリア支援について＞

1 年生の早い段階でキャリアデザインを考え、目標を持った学生生活を送ってもらうために、キャリアガイダンスを実施している。1 年生のキャリアガイダンスは、毎年 5 月に全員を対象に「文理学」講座の一コマとして実施している。

平成 22 年度は、平成 21 年度「大学教育・学生支援推進事業」（就職支援推進プログラム）の助成を受け、「文理学」のキャリア・ガイダンスに続き、「自分発見検査」を行う。これにより、学生が客観的な資料も利用して自分を見つめ直し、専門相談員による相談などを利用して進路に関する悩みの解消を図ることでキャリア意識の向上による将来の就職への意識を持たせる支援を行っている。

＜就職支援について＞

1 年次の 6 月に最初の就職ガイダンスを実施し、就職に向けての支援を開始している。9 月の第 1 回目の各学科別専攻別就職説明会で、本学独自に作成した「就職活動の手引き」をもとに就職活動の具体的な進め方などについて指導・支援している。さらに、10 月以降はエントリーシート の書き方、自己分析、面接などのセミナー、就職試験対策集中講座、学内合同企業説明会、採用内定学生による企業・公務員就職体験発表会などを実施している。

また、学生の就職先の確保を目的として、文書による求人依頼と企業訪問・求人開拓を行っている。企業訪問は四国 4 県、中国・近畿地区などで毎年 150～200 社程度実施している。企業訪問では、人事担当者との良好な人間関係の構築を行い、現場に密着した最新の就職事情などを把握して学生に伝えることによるマッチング支援などを行うと共に、就職した卒業生の状況把握や激励を行っている。

＜常時の就職相談について＞

学生個々に対して個別の就職相談を常時実施している。学生の所属する学科により、就職先も保育士や栄養士から一般企業まで様々である。キャリア・サポートグループとしても、相談の継続性や学科の特色を生かした就職を求める学生の希望に対応して、学科ごとに担当者を指定して対応している。特に 2 年生に対しては個別に模擬面接指導や履歴書添

削などを行い、自信を持って試験に臨めるようサポートしている。

＜主な活動業務の状況＞

- ・就職活動・試験対策用の情報・資料の収集と提供
 - ・就職支援システムなどによる求人情報提供
 - ・「就職活動の手引き」作成と就職活動の実践支援
 - ・就職ガイダンス、学科別専攻別就職説明会の実施
 - ・各種就職セミナー、就職試験対策集中講座などの実施
 - ・学内合同企業説明会の開催
 - ・キャリアガイダンス実施とインターンシップへの対応
 - ・常時の個別就職相談
 - ・各種模擬試験の実施
 - ・応募時の書類作成指導
 - ・面接・マナー指導
 - ・求人開拓のための企業訪問とOB・OGへの激励
- ◆参考資料(67) 「就職活動の手引き」
- ◆参考資料(68) 「就職活動支援ブッケーキャリア入門編ー」

(3) 就職支援室、就職資料室等の現状を示し、学生にどのように就職情報等を提供しているかを記述して下さい。

＜就職支援室の現状＞

キャリア・サポートグループは平成 22 年 4 月 1 日現在、8 名の教職員で構成されている。メディアセンター 2 階の就職支援ユニットのキャリア・サポートグループとして、オープンカウンターや資料コーナーを備えて学生に親しみやすい環境を整え、学生のキャリア・就職支援に対応している。

＜学生への情報提供について＞

本学に送付された求人情報は、キャリア・サポートグループ掲示板、求人情報綴り冊子、就職支援システム（平成 20 年 4 月 1 日より運用開始）の 3 媒体で学生に提供している。就職支援システムはインターネット端末を利用して、学外からも情報を検索できるシステムで、各種の条件検索や携帯電話連携サービスのほか、来学企業の情報や緊急情報も掲示できるようになっている。

このほか、就活サイトや各地の新聞社、ハローワークなどの就職支援機関からの各種案内資料やパンフレット、卒業生の受験報告書、就職試験対策問題集も整備して、貸し出しにも対応している。

(4) 過去3ヶ年(平成19年度～21年度)の就職状況について、就職率及び就職先を学長等、学科長等はどのように受け止めているかを記述して下さい。

生活科学科（学科長の見解）

生活科学専攻については、就職率は、平成 19 年度が 90.0%、平成 20 年度が 75.0%、平成 21 年度が 71.4%であり、小売業を中心に就職している。

食物専攻については、就職率は、平成 19 年度が 97.1%、平成 20 年度が 93.5%、平成

21 年度が 88.0%であり、専門職である栄養士としての就職が毎年 5 割強となっている。

生活科学科としては、今後ともキャリア・サポートグループと連携し、求人先のニーズを把握して、早くから学生に進路意識を持たせることで就職率向上に努めたい。

保育科（学科長の見解）

就職率は、平成 19・20 年度が 100%、平成 21 年度が 96.1%であり、非常によい傾向が続いている。そのうち、8 割強の学生が保育士や幼稚園教諭などの専門職として就職している。これまで、入学直後から担任を中心に実習や就職に向けた指導や研修などを通して保育現場との信頼関係を築いてきたことが好結果につながっている。

また、本科では私立幼稚園・保育所への就職希望者が多いため、ピアノ実技や絵本の読み聞かせなど採用試験に課せられることの多い実技についての指導を充実させている。

言語コミュニケーション学科（学科長の見解）

就職率は、平成 19・20 年度が 100%、平成 21 年度が 88.2%と高水準を保っている。主な就職先は、サービス業、金融・保険業、商社・流通業、教育・学習支援関係、情報通信である。

厳しい就職環境の中で、特に時代のニーズに合わせてプレゼンテーション教育を充実させ、キャリア・サポートグループとの連携のもとに学生に対する個人指導を徹底し、就職指導の促進を図ったことが好結果につながったと考えている。近年、キャリア意識の低い学生もみられるところから、今後ともキャリアガイダンスや担任によるキャリア面談に力を注ぎ、学生の就職支援を一層強化したいと考えている。

音楽科（学科長の見解）

就職率は、平成 19 年度が 88.9%、平成 20 年度が 87.5%、平成 21 年度が 100.0%であり、音楽療法や音楽の専門知識を生かして医療関係や音楽教室などに就職している。しかし、音楽科の学生にとって、音楽の専門性を生かせる職種の採用は限られている状況にある。今後は学科独自に音楽関係企業の説明会を開催したり、一般企業に対する職業観の涵養やインターンシップへの参加促進などにより就職率の向上を図りたい。

なお、本科ではより高い音楽技術などを磨くために本学音楽学部などへの編入学が多く、毎年 25%から 40%程度の学生が進学を希望しており、そのため就職希望者の割合はあまり高くない。

商科（学科長の見解）

就職率は、平成 19 年度 95.7%、平成 20 年度 92.9%、平成 21 年度が 94.4%である。主な就職先としては、地元の金融機関や、一般企業、農業協同組合などである。

本科では、いかに学生に付加価値を付けて卒業させるかという観点から、就職に有利な資格取得や、学生の就職活動に直結した実践的指導と共に人格形成面も重視して取り組んでいる。担任が授業や面接を通して学生一人ひとりの希望職種や適性の把握に努める中で、キャリア・サポートグループと緊密に連携を取り、学生の就職活動を支援している。

<学長の見解>

平成 19 年度より平成 21 年度までの過去 3 年間における本学の就職率は、96.9%、95.9%、90.9%となっている。これまで、多少の差異はあるものの、高い水準を維持してきた。特に、平成 21 年度には全国的にも非常に厳しい雇用環境であったが、若干の減少に留まった。このことは各学科の教職員とキャリア・サポートグループ職員との緊密な連

携のもと、学生の希望を大切にした就職実現を目指し、きめ細かな学生支援を継続してきた結果であると考えている。

就職を希望しながら未就職で卒業した学生に対しては、卒業後も就職相談に応じており、8月と10月には追跡調査も行って対応してきた。さらに平成21年度には、大学に届けられた「既卒者可」の求人情報を卒業後も継続して検索入手できるよう就職支援システムを改良する対策を行うなど、継続した就職支援を行っている。

学生一人ひとりが自分の希望の進路を実現できるよう、平成19年度からは、入学後すぐに1年生全員を対象とした「文理学」講座でキャリアガイダンスを実施し、早くからキャリアに対する意識付けを行った。また、学科の教職員がチューターとして少人数の学生に関わり、学習ポートフォリオの作成を行う中で学生のキャリアアップを図ってきた。

さらに平成22年度からは短期大学生の進路を見据え「キャリア短大」としてスタートすると共に、平成21・22年度には文部科学省の就職支援推進プログラムの補助事業を受け、キャリアコンサルタントによる専門相談を取り入れての入学時からのキャリア意識と意欲の向上に向けた取り組みも実施している。こうした取り組みを通して、学生の希望を大切にした進路の実現を目指している。

(5) 過去3ヶ年（平成19年度～21年度）の進学（四年制大学、専門学校等）及び海外留学の実績について、その支援はどのような方法、体制で行ったかを記述して下さい

＜平成19年度～21年度の進学及び海外留学の実績＞

学科・専攻・コース		平成19年度		平成20年度		平成21年度	
		進学	留学	進学	留学	進学	留学
生活科学科	生活科学専攻	5	0	2	0	2	0
	食物専攻	1	0	8	0	1	0
保育科		10	0	2	0	6	0
言語コミュニケーション学科		0	0	4	0	2	0
音楽科		7	0	4	0	6	0
商科		3	0	1	0	2	0

本学から四年制大学や専門学校等への進学率については、

平成19年度 11.5%（四年制大学へ88.5%）

平成20年度 12.5%（四年制大学へ71.4%）

平成21年度 11.7%（四年制大学へ78.9%）

となっている。進学に対する支援については、学生支援グループが中心となって学科との連携のもと行っているが、キャリア・サポートグループでも随時学生からの相談に対応している。なお、学内の編入については、各学科で関係する学部の教員による説明会を実施している。

また、海外留学の支援については、国際交流グループが窓口となっている。

- ◆参考資料(39) 「就職概況」平成19年度
- ◆参考資料(40) 「就職概況」平成20年度
- ◆参考資料(41) 「就職概況」平成21年度

【多様な学生に対する支援について】

(1) 過去3ヶ年（平成19年度～21年度）の留学生・社会人・帰国子女・障害者・長期履修学生・科目等履修生の受け入れ状況を示し、その学習支援、生活支援はそれぞれどのような方法、体制で行っているかを記述して下さい。
なお、学生数はいずれの年度も5月1日時点とします。

＜多様な学生の受け入れ状況（平成19年度～21年度）＞

種別	平成19年度	平成20年度	平成21年度	計
留学生（人）	0	0	0	0
社会人（人）	4	2	1	7
帰国生（人）	0	0	0	0
障害者（人）	1	1	0	2
長期履修学生（人）	0	0	0	0
科目等履修生（人）	6	9	5	20

留学生、帰国生の受け入れ実績はない。社会人及び各種履修学生への特別な支援は行っていない。なお、障害者については、施設面では障害者用トイレやスロープ、点字ブロックを設置するなどバリアフリー化を図っている。

また、人的な面では学生による相互支援体制、教員による個別支援体制に留意している。

＜社会人の定義（受験資格）＞

次の各号のいずれかに該当し、平成23年3月末日に満22才以上になる者とする。

- ①高等学校もしくは中等教育学校を卒業した者
- ②国の内外を問わず通常の課程による12年の学校教育を修了した者、又はこれに準ずる者で、文部科学大臣の指定した者
- ③文部科学大臣が行う高等学校卒業程度認定試験に合格した者（大学入学資格検定に合格した者を含む）
- ④本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

＜帰国生の定義（受験資格）＞

日本国籍を有し、保護者の海外在住のために外国において、日本の高等学校教育課程に相当する期間のうち2年以上を継続して在学した者で、次のいずれかに該当する者とする。

- ①日本の高等学校もしくは中等教育学校又はこれに相当する外国の教育機関を卒業見込みの者
- ②前記所定の高等学校又は教育機関を卒業した者で、帰国後出願時までの期間が原則として1年未満の者

◇添付資料④ 「キャンパスガイドー学生生活と履修の手引きー2010」 (p. 110-p. 116)

◇添付資料⑧ 「平成23年度入学試験要項」 (p. 47-p. 54)

【特記事項について】

(1) この《V学生支援》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、例えば、学生の個人情報保護への取組み、成績不良者への支援、長期欠席者への援助、学生に対する表彰制度等、学生支援について努力していることがあれば記述して下さい。

＜学生の個人情報保護への取組み＞

学生に関する情報は学生支援検索システムに組み入れ、情報を一元化している。学生情報の利用及び運用については、セキュリティを高めたネットワーク上に置くと共に、アクセス権限（ID、パスワード）を有する者を限定するなど権限者を明確化し学生の個人情報の保護には万全の注意を払っている。

＜成績不良者への支援＞

入学時に学力試験を行い、基礎学力の不十分な者については、全学共通教育センターにおいて学力向上のための講座を実施している。

成績不良者に対しては、前・後期定期試験後に再試験期間を設け、再試験を実施している。前期は試験終了後、直ちに成績表を保護者に送付し夏季休業中に行われる保護者会での面談で成績不良科目などについて面談者が適切に指導・助言ができるようにしている。

また、クラス別に成績一覧表も作成し、担任・チューターなどは学生支援グループとの連携のもと、成績不良者の把握と本人・保護者に対して後期の勉学に関して適宜指導・助言ができるようにしている。

後期は追・再試験終了後、確定した成績を保護者に送付し、担任・チューターなどの指導の下で、次年度の修学への取り組み姿勢や履修計画が適切にできるような支援体制を敷いている。

＜長期欠席者への援助＞

本学オンライン学務システムに「学生の出欠管理システム」を構築し、授業担当教員は、授業終了後、学生の出欠状況を入力する体制を取っている。そのため、担任・チューターなどは学生支援グループとの連携のもと、常に学生の出欠状況を共有し、長期欠席を未然に防止するため、適宜適切な指導を行っている。

なお、病気などやむを得ぬ理由で長期欠席する学生については、少しでも経済的負担の軽減が図れるよう休学や、退学後の再入学を勧めるなどの対応を取っている。

＜学生に対する表彰制度＞

課外活動においては、本学の体育・文化功労賞規程に基づき優秀な成績を修め、本学を一層名誉あらしめる功績があったと認められる個人又は団体に、さらに社会活動において顕著な業績を残し、社会的に高い評価を受けたと認められる個人又は団体を対象としてこれらに該当する学生を卒業時に表彰している。

◆参考資料(69) 「体育・文化功労賞規定」

(2) 特別の事由や事情があり、評価項目や評価の観点が求めることが実現（達成）できないときはその事由や事情を記述して下さい。

特記事項なし。

VI 研究

【教員の研究活動全般について】

(1) 過去3ヶ年（平成19年度～21年度）の専任教員の研究状況を記載し、その成果について記述して下さい。

＜平成19年度～21年度 専任教員の研究実績表（学科等の順に記述）＞

学科	専攻 コース	氏名	職名	研究業績									社会的活動			国際的 活動の有 無	備考					
				平成19年度			平成20年度			平成21年度			平成 19年 度	平成 20年 度	平成 21年 度							
				著 作 数	論 文 数	学 会 等 発 表 数	著 作 数	論 文 数	学 会 等 発 表 数	著 作 数	論 文 数	学 会 等 発 表 数										
一般総合科目		安藝 武	教授																			
		後藤 立夫	准教授																			
		佐々木清克	准教授																			
		鎌田 真城	准教授																平成21年度異動			
		田口 清	准教授											2	2				平成20年度異動			
		垂水 綾夫	講師																平成19年度退職			
		馬淵 豊茂	准教授																平成21年度採用			
		林 向達	准教授										1	1				1	無	平成21年度採用		
		上田 孝子	講師															1	無	平成21年度異動		
生活科学 専攻	生活科学 専攻	和久 正明	教授											1	6	2			無			
		西藤 栄子	教授															2	無	平成21年度採用		
		鎌田 毅	准教授															2	無	平成21年度異動		
		鎌田 真城	准教授																	平成21年度異動		
		福井 弥生	教授														3			平成20年度退職		
		疋田 信正	教授																	平成20年度退職		
		井上 正信	准教授																	平成21年度異動		
		介護 福祉士 コース	介護 福祉士 コース	富澤 彰雄	教授	1			1												無	平成19年度異動
				中峯由美子	准教授																	平成19年度退職
				古川 明美	講師		2	1			1	2						10	9			無
食物 専攻	食物 専攻	有内 尚子	教授		1	3				2				3			8	4	2	無		
		山本 正子	教授		1	2	1			1	3	1	1		2		7	5	5	無		
		伊勢 正伸	准教授																		平成20年度採用	
		福田 傳	准教授														1				平成20年度退職	
		長尾久美子	講師			2	1				2				3		7	7	7	無		
保育科		淺野 弘嗣	教授																1	無	平成21年度採用	
		櫻間 幸次	教授		3	2											7		1		平成20年度退職	
		石井 信子	教授		2	1		1	1	2				1	2		3	2	5		無	
		飯原 一夫	教授				6									26		3		1	無	
		児嶋 輝美	教授		1			1	1	1				1	1		11	10	9		無	
		島田 俊朗	准教授											1							無	
		榎内 光子	准教授														2	2	1		無	
		熊丸 真太郎	准教授		2			1									7	2			平成20年度退職	
		斎藤 紀子	講師															7		8	無	平成21年度採用
		江濱 邦子	講師															5				平成20年度退職
		稲生 正徳	講師																			無
		住友 千鶴代	講師						1	1								1				平成20年度退職
言語コミュニ ケーション 学科		藤岡 克則	教授			1				1	2			1	1	1	3	3	3	有	平成21年度退職	
		江西 利夫	教授																		無	平成20年度退職
		堀口 誠信	教授			1	2			2	1				4	4		2	2	3	有	平成20年度退職
		植村 尚也	教授															2			有	平成20年度退職
		片村 恒雄	教授																		無	平成19年度退職
		早雲 洋一	准教授																		無	平成21年度採用
		友近 温壽	准教授																		無	平成20年度退職
		辻野 正人	教授															1				無
音楽科		西田 誠	准教授						1								1	1	1		無	
		熊谷 公博	教授				5									5	5	3	5		無	
		上田 和子	教授															1	3	3		無
		原井 俊典	准教授				2														無	無
		須賀 陽子	准教授																		無	無
商科		井村 幸子	講師													1		6	3		無	
		村崎 正人	教授														32	29	27		無	
		長井 定明	教授				11													1		無
		阿部 頼孝	教授														18	13	16		無	
		大津 靖弘	准教授																		無	平成20年度退職
		前川 俊孝	准教授															2	2			無
		笹倉 潤次	准教授																		無	平成20年度採用
椿本 晃久	講師		1	1					1			1	2	1						無		
張 洋介	講師								1											無		

質の高い教育を行うために研究活動の充実は欠かせない。本学では専門分野での研究や学科の特色を生かした教育研究などが行われ、一定の成果をあげている。3ヶ年の研究業績は198件あり、その内訳は著作8件、論文37件、学会発表48件、そのほか105件である。

る。ただし、教育と研究の重点の置き方は教員によって異なり、学生への教育や社会貢献の分野で活躍している教員も多い。

国際的活動では、言語コミュニケーション学科の教員による台湾日本語文学会国際学術研究大会における研究発表とイタリアのパヴィア大学におけるシンポジウムでの発表がある。社会的活動は 33 名が 277 件行っており、専門分野での学術経験者としての委員や学会理事、講演や高等学校への出張講義などで幅広く活躍している。

- ◆参考資料(27) 「教員個人調書」
- ◆参考資料(28) 「教育・研究年報」2007 年
- ◆参考資料(29) 「教育・研究年報」2008 年
- ◆参考資料(30) 「教育・研究年報」2009 年

(2) 教員個人の研究活動の状況を公開していれば、その取組みの概要を記述し、公開している印刷物等を訪問調査の際にご準備下さい。

専任教員の 1 年間の教育・研究活動の成果をまとめた「教育・研究年報」を発行している。情報公開と共に、教員の相互理解や自己評価の機会として役立っている。

また、年 2 回発行する研究紀要の 3 月号に「本学教員の研究活動状況」を設け、前年の査読論文、出版図書、そのほか論文に該当するものを掲載している。

- ◆参考資料(3) 「徳島文理大学研究紀要」第 75 号
- ◆参考資料(5) 「徳島文理大学研究紀要」第 77 号
- ◆参考資料(7) 「徳島文理大学研究紀要」第 79 号
- ◆参考資料(28) 「教育・研究年報」2007 年
- ◆参考資料(29) 「教育・研究年報」2008 年
- ◆参考資料(30) 「教育・研究年報」2009 年

(3) 過去 3 ヶ年（平成 19 年度～21 年度）の科学研究費補助金の申請・採択等、外部からの研究資金の調達状況(件数)を一覧表にして下さい。

＜外部研究資金の申請・採択状況（平成 19 年度～21 年度）＞

外部資金調達先等		(件数)					
		19 年度		20 年度		21 年度	
		申請	採択	申請	採択	申請	採択
科学研究費補助金		3	0	4	1	0	1
その他の 外部研究資金	調達先・資金名等 徳島県立工業技術センター	1	1	0	0	0	0
	社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム	2	1	0	1	0	1
	新規学習ニーズ対応プログラム	1	1	0	1	0	1

科学研究費補助金は、平成 20 年度基盤研究 C として言語コミュニケーション学科の教員による「フィンランド・メソッドを取り入れた英語プレゼンテーション能力育成法・評価法の確立」（日本学術振興会）が採択されている。また、「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」（文部科学省）、「新規学習ニーズ対応プログラム」（日本私立

学校振興・共済事業団) が各 1 件採択されている。

(4) 学科等ごとのグループ研究や共同研究、短期大学もしくは学科等の教育に係る研究の状況について記述して下さい。

本学では学内に「特色ある教育研究・共同研究」に対する研究助成制度を設け、専任教員の研究活動を奨励している。19 年度 2 件、21 年度 1 件が採択されている。また、日本私立学校振興・共済事業団による補助金については、過去 3 年間で、新規学習ニーズ対応プログラム支援経費として申請した「地域活性化のための『デザイン』スキル向上によるキャリア・リスタートプログラム」などが採択されている。これらを含む学科ごとの共同研究・学科などの教育に係る研究の状況は以下の通りである。

生活科学科

上記の「地域活性化のための『デザイン』スキル向上によるキャリア・リスタートプログラム」を実施した。

保育科

保育科全専任教員による共同研究「保育現場との連携に基づく保育者養成教育の実践」(平成 19 年度) があり、研究紀要論文として発表している。他大学との共同研究は、「保育環境の安全性に対する意識－施設長および主任と一般保育士の比較－」(保育士養成研究第 27 号(2009)) がある。

言語コミュニケーション学科

文部科学省社会人の学び直しニーズ対応教育推進事業「コンパクトシティ教育拠点構想における実践英語能力ステップアッププログラム」、私立大学等経常費補助金特別補助「TOEIC を有効活用した自律学習支援のための英語教育プログラムと学習到達度評価システムの開発」を実施し、現在、科学研究費補助金「フィンランド・メソッドを取り入れた英語プレゼンテーション能力育成法・評価法の確立」を行っている。

音楽科

本科では、学部教員と共同で「四国巡礼キャラバンコンサート」(文部科学省大学教育高度化推進対象事業「地域文化活動推進支援」) を実施した。

商科

現在、グループ研究や共同研究は実施されていない。しかし、担当授業科目に関する個人研究や実践成果は「徳島文理大学研究紀要」などに報告されている。

【研究のための条件について】

(1) 研究費(研究旅費を含む)についての支給規程等(年間の支出限度額等が記載されているもの)を整備していれば訪問調査時に拝見します。なお規程等を整備していない場合は、過去 3 ヶ年(平成 19 年度～21 年度)の決算書から研究に係る経費を項目(研究費、研究旅費、研究に係る施設、機器・備品等の整備費、研究に係る図書費等)ごとに抽出し一覧表にして参考資料として準備して下さい。

毎年度の予算策定時に算定して研究費(研究旅費)額を明確にしている。職位ごと及び担当領域ごとに一人当たりの金額が定められており、それにしたがって配分される。特別な教育・研究企画がある場合には、事業計画書を法人事務局に提出して是非の判断を仰

ぐことになる。研究費などの予算は参考資料にて説明する。

◆参考資料(70) 「研究に係る経費一覧表」

(2) 教員の研究成果を発表する機会（学内発表、研究紀要・論文集の発行等）の確保について、その概要を説明して下さい。なお過去3ヶ年（平成19年度～21年度）の研究紀要・論文集を訪問調査の際に拝見いたしますのでご準備下さい。

研究紀要は、専任教員によって組織された編集委員会が徳島文理大学研究紀要投稿規定及び編集規定に則って投稿論文の採否及び編集を行い、年2回発行している。平成21年度をもって79号となる。過去3ヶ年で本学の教員による論文は19件掲載されており、貴重な研究成果の発表の機会となっている。研究紀要に掲載された論文は、国立情報学研究所のNII論文情報ナビゲーターで公開されている。

また、学内で研究助成に採択された「特色ある教育研究・共同研究」については全学発表会を開催し、その成果を公開している。

- ◆参考資料(2) 「徳島文理大学研究紀要」第74号
- ◆参考資料(3) 「徳島文理大学研究紀要」第75号
- ◆参考資料(4) 「徳島文理大学研究紀要」第76号
- ◆参考資料(5) 「徳島文理大学研究紀要」第77号
- ◆参考資料(6) 「徳島文理大学研究紀要」第78号
- ◆参考資料(7) 「徳島文理大学研究紀要」第79号
- ◆参考資料(71) 「特色ある教育・研究」全学発表会

(3) 教員の研究に係る機器、備品、図書等の整備状況について、平成21年度の決算よりその支出状況を記述して下さい。また訪問調査の際の校舎等案内時に教員の研究に係る機器、備品、図書等の状況を説明して下さい。

教育関係機器備品は11,538,798円、図書は4,078,494円、合計で15,617,282円支出している。

(4) 教員の教員室、研究室または研修室、実験室等の状況を記述して下さい。なお訪問調査の際に研究室等をご案内願います。

専任教員には個別研究室が与えられ、事務机、電話、学内LAN端末、書架、洗面台などが備えられている。研究室数などの数及び面積は以下の通りである。

	室数	面積 (㎡)
①個人研究室	36	1,178.33
②実験室数	2	212.88
③演習室	30	1,312.61
④ピアノレッスン室	28	261.52

(5) 教員の研修日等、研究時間の確保の状況について記述して下さい。

職員服務規程（就業規則）第32条において「学園は職員の職務能力の向上と増進のために研修を行う」とされている。研修日などについての規程などは設けられていない。

平成 21 年度の教員の担当授業数は年間平均 5.0 コマであり、学科の特徴やそれぞれの専門に応じた配分をしている。

◆参考資料(72) 「学校法人村崎学園職員服務規程（就業規則）」

【特記事項について】

(1)この《VI研究》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、教員の研究について努力していることがあれば記述して下さい。

本学では学内に「特色ある教育研究・共同研究」に対する研究助成制度を設け、専任教員の研究活動を奨励し、教員の研究を支援する体制を整えている。

なお、平成 19 年度には、山本正子「唾液を用いた生体内酸化ストレスと心理的ストレスの関連性評価」、児嶋輝美「保育者としての豊かな感性と表現力を育む教育実践」、平成 21 年度には、島田俊朗「短期大学部保育科学生による幼稚園への出前保育について」、平成 22 年度には、西藤栄子「効果的状況設計を行うための雰囲気測定・評価手法の開発」が採択された。

(2)特別の事由や事情があり、評価項目や評価の観点が求めることが実現（達成）できないときはその事由や事情を記述して下さい。

特記事項なし。

Ⅶ 社会的活動

【社会的活動（国際的活動は別項で記述）への取組みについて】

(1) 社会的活動への取組みについて、その理念や方針等、教育・研究における位置づけについて、短期大学ではどのように考え、また今後どのように取組む予定かを記述して下さい。

短期大学は、学生の教育を通じて広く社会に貢献するばかりでなく、地域社会の一員として地域活動への積極的な参加などにより、地域に役立ち、地域と共生していくべきであると考えている。本学も、生涯教育などの観点から地域に開かれた大学であることを目指し、地域との良好な関係の中から社会に必要とされる人材の育成に努めている。

社会的活動への取組みについては、各教員が地域社会での公開講座や各種講演での講師を務めるなど地域社会での行事に積極的に参加している。また、学生にはボランティアの情報を提示し、参加しやすい環境を整えているほか、一部の学科では単位化するなどして奨励している。

(2) 社会人受け入れの状況について、生涯学習の観点から短期大学では社会人の受け入れを今後どのように考えているかを記述して下さい。

社会人の受け入れは、①社会人入試 ②科目等履修生 ③社会人特別聴講生などの受け入れを通じて、その体制を整えている。

①社会人入試 平成19年度4名、平成20年度2名、平成21年度1名であった。

②科目等履修生 平成19年度6名、平成20年度9名、平成21年度5名であった。

③社会人特別聴講生 平成19年度3名、平成20年度3名、平成21年度1名であった。

社会人として経験を積んだ学生は、豊かな職場経験や育児経験などをもち、授業を受ける目的意識も明確であることから、他の学生たちは、良い刺激や影響を受けている。今後も生涯学習や資格取得を目的とする希望者の要望に応えていきたい。

◇添付資料⑧ 「平成23年度入学試験要項」 (p.49-p.50)

◇添付資料⑨ 「科目等履修生要項」

◇添付資料⑩ 「平成22年度社会人特別聴講生募集要項」

(3) 過去3ヶ年（平成19年度～21年度）の短期大学が行った地域社会に向けた公開講座、生涯学習授業、正規授業の開放等の実施状況を記述して下さい。

<公開講座>

①徳島文理大学公開講座

本学は徳島文理大学との共同のもと、平成19年度から、本学むらさきホールにおいて徳島文理大学公開講座を開催している。徳島市内近郊の多くの社会人・学生に公開し、講演終了後は演者とパネラーとの質疑応答に加え、社会人・学生の質問も受け付けて、活発な討議を行っている。

・平成19年度公開講座 講演者と演題

回	講演者氏名（役職）	演 題
1	小宮山宏 東京大学総長	世界の持続的発展と課題先進国日本の役割

回	講演者氏名（役職）	演 題
2	丸山 力 日本 IBM（株）顧問	イノベーションとサービスサイエンス
3	橘・フクシマ・咲江 コン・フェリー・インターナショナル日本担当代表取締役社長	グローバル化と人財としての日本人
4	木村廣道 東京大学大学院薬学研究科客員 教授	日本の医療の行方
5	小林いずみ メルリンチ日本証券代表取締役社長	女性を生かす
6	富山和彦 経営共創基盤代表取締役 CEO	人材再生への課題と挑戦

この講演内容は、桐野豊編「プロフェッショナルの提言 日本を再浮上せよ」（かんき出版 2008 年）として出版された。

・平成 20 年度公開講座 講演者と演題

回	講演者氏名（役職）	演 題
1	都村長生 コーポレイトマルチメディアソリューションズ（株）代表取締役	香川発の日本変身
2	知識賢治 カネボウ化粧品代表取締役兼社長執行役員	企業再生の現場で学んだこと、日本的資本主義下での日本的経営システムの共通課題
3	村口和孝 日本テクノロジーベンチャーパートナーズ投資事業組合代表 / ゼネラルパートナー	ゼロから始めて成功する人生経営
4	横石知二 (株)いろどり代表取締役	人は誰でも主役になれる
5	石倉洋子 一橋大学大学院国際企業戦略研究科教授	フラット化する世界に大きく飛躍するために地域は、企業は、そしてあなたは何をすべきか
6	金子満 東京工科大学大学院メディアサイエンス専攻教授	感性か？論理か？メディアコンテンツの制作

この講演内容は、桐野豊編「個の力で日本を考える」（かんき出版 2009 年）として出版された。

平成 21 年度公開講座 講演者と演題

回	講演者氏名（役職）	演 題
1	一柳 良雄 (株)一柳アソシエイツ代表取締役&CEO	グローバル化社会における元気な企業経営とは？
2	森 正彦 (株)ファルコクニカルプラン代表取締役 (株)チュールップ調剤薬局代表取締役 (株)ファルコファーマシーズ代表取締役	よい人脈づくりと少しのスキルアップで時代を生き抜く
3	枝廣 淳子 有限会社イーズ代表取締役	本当のしあわせと地球のためにすべきこと、できること
4	須田 将啓、田中 禎人 株式会社エグモ代表取締役、共同最高経営責任者	今、ネットが変えようとしている世界
5	ロバート・アラン・フェルドマン (Robert Alan Feldman, Ph. D.) モルガン・スタンレー証券株式会社マネージング・ディレクター、経済調査部長	日本経済：W型の時代のLUV型議論
6	桐野 豊 徳島文理大学学長・香川薬学部教授	生命科学と社会

回	講演者氏名（役職）	演 題
	池谷 裕二 東京大学大学院薬学系研究科准教授	記憶のしくみーアセチルコリンと薬の不思議な関係
	三井 洋司 徳島文理大学香川薬学部教授	命の継続性を考える：寿命の起源と再生力から
7	池谷 裕二 東京大学大学院薬学系研究科准教授	神経活動を映像で捉えるー脳のゆらぎの意味を巡って

この講演内容は、桐野豊編「今を生きるための達人の教え」（かんき出版 2010 年）として出版された。

平成 22 年度公開講座 講演者と演題

回	講演者氏名（役職）	演 題
1	稲川 素子 株式会社稲川素子事務所代表取締役社長	精一杯は万策に勝る
2	小暮 真久 特定非営利活動法人 TABLE FOR TWO 代表理事	「世界の飢餓と飽食は同時解決できる」日本発の社会貢献事業 TABLE FOR TWO
3	三浦 公亮 東京大学名誉教授、宇宙構造工学者	ミウラ折りの発見とその応用
4	坂東 眞理子 昭和女子大学学長	世界と日本の女性、そして 21 世紀の地域
5	村沢 義久 東京大学サステイナビリティ研究機構・特任教授	21 世紀の産業革命と電気自動車の役割
6	茂木 賢三郎 独立行政法人日本芸術文化振興会理事長、元キッコーマン醤油（株）副会長	国づくりは人づくりから
7	今野 秀洋 三菱商事特別顧問、元経済産業省貿易局長	Wrong Questions, Wrong Answers

②保育講座

徳島県内の保育関係者と、本学保育科の学生を対象として、平成 11 年度から毎年 6 月に開催している。第一線で活躍する保育研究者や指導者による研修の機会を提供することにより、地域の保育者の資質向上に貢献すると同時に、保育の専門性の高さに触れた学生の学習意欲を高めることが目的である。毎回多くの保育関係者が参加し、高い評価を得ている。平成 21 年度は、作曲家で絵本作家でもある中川ひろたか氏を講師として招き、471 名の参加者があった。

回	開催日	講 師（役職）	演 題
第 1 回	平成 11 年 6 月 19 日	小川 博久 東京学芸大学教授	「環境による教育」を新しくとらえ直す
第 2 回	平成 12 年 6 月 10 日	森上 史朗 子ども保育実践研究会代表	時代の変化に対応するこれからの保育のあり方ー保育における真と新を問うー
第 3 回	平成 13 年 6 月 16 日	大場 幸夫 大妻女子大学教授	子どもと生きる日々、保育者の専門性を探る
第 4 回	平成 14 年 6 月 15 日	高杉 自子 子どもと保育総合研究所所長	保育者の専門性を問う
第 5 回	平成 15 年 6 月 14 日	成田 和夫 遊び歌作家	ふれあい遊び歌
第 6 回	平成 16 年 6 月 12 日	柴崎 正行 大妻女子大学教授	これからの保育者に求められていること
第 7 回	平成 17 年 6 月 11 日	小原 孝 ピアニスト	歌い継がれていく歌のように
第 8 回	平成 18 年 6 月 17 日	大豆生田 啓友 関東学院大学助教授	親子と共に歩む保育と子育て支援を考える

回	開催日	講師（役職）	演題
第9回	平成19年6月16日	湯浅 とんぼ 遊び歌作家	遊び歌でコミュニケーションとコラボレーションを楽しもう
第10回	平成20年6月7日	小川 博久 日本保育学会会長 聖徳大学 大学院教授	幼稚園教育要領・保育所保育指針改訂後の 幼児教育の動向
第11回	平成21年6月6日	中川 ひろたか 作曲家・絵本作家	保育の中の絵本と歌
第12回	平成22年6月5日	小川 清実 日本保育学会副会長 東京都 市大学教授	子どもに伝えたい伝承あそび

③保育シンポジウム

平成17年度から毎年7月に開催している。保育実践現場で活躍する保育士と本学在学生、教員が共に保育について語り合い、学び合う機会を通して、保育者としての資質向上を図ると共に、時代の変化や地域の実態に即した保育者養成のあり方を考えることが目的である。主に、県内の実践者や保育者として活躍している卒業生を特別講師として招いている。平成21年度は「絵本の魅力」をテーマに開催し、参加者は222名であった。

回	開催日	講師（役職名）	演題
第1回	平成17年7月16日	吉村 真理子 元松山東雲短期大学教授 保育士（卒業生）3名	保育の魅力
第2回	平成18年7月8日	益井 美保 グレース幼稚園教諭 原田 律子 徳島市立応神保育所保育士	表現の楽しさを伝える保育
第3回	平成19年7月7日	原田 洋子 鳴門聖母幼稚園主任教諭 平井 ちさと 助任保育園保育士 阿部 浩紀 ひまわり保育園保育士	感性と創造性を育む保育
第4回	平成20年7月5日	山本 幾代 カナン子育てプラザ21施設長 松崎 美穂子 子育てほっとスペースすきっぷ代表 上野 由弘 助任保育園園長 本学非常勤講師	これからの地域子育て支援
第5回	平成21年7月11日	飯原 一夫 本学教授 三木 スズエ とくしまお話を語る会	絵本の魅力

④おとぎのくに

保育科1年次の授業「児童文化」の一環として、ミュージカルやブラックシアター、ハンドベルの合奏などを近隣の保育所と徳島文理大学附属幼稚園の園児を招待して発表している。昭和59年度に始め、平成21年度は第26回目の開催である。毎回、700名近い参加者があり、保育実践現場から毎年の開催が待たれている。学生には保育者を目指す強い動機付けになっているだけでなく、保育実践現場との交流を深めることによって実習などを円滑に進めるうえで役立っている。

＜生涯学習授業＞

①ものづくりデザイン講座

「平成 19 年度日本私立学校振興・共済事業団による新規学習ニーズ対応プログラム支援経費」の補助を受けて、5 講座を開講した。これは、社会人のキャリアアップ・リスタートを目指すものである。

- ・わたしの椅子づくり（平成 19、20、21 年度開講、受講者 49 名）
- ・わたしの七宝アート（平成 20、21 年度開講、受講者 38 名）
- ・わたしの帽子づくり（平成 20、21 年度開講、受講者 60 名）
- ・わたしのジュエリーデザイン（平成 20、21 年度開講、受講者 13 名）
- ・ビジネスデザイン講座（平成 20、21 年度開講、受講者 110 名）

②コンパクトシティ教育拠点構想における実践英語能力ステップアッププログラム

「文部科学省 社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム委託授業（整理番号 1335）」による 2 講座を平成 19 年度から開講した。

・同時通訳 8 日間集中講座

同時通訳訓練法を利用した高度な実践的英語能力の養成を目的とし、高いレベルの英語スキルを有した学習者がさらに英語能力をステップアップさせるものである。

受講者数は、平成 19 年度 21 名、平成 20 年度 20 名、平成 21 年度 23 名であった。

・TOEIC 集中講座

世界 60 ヶ国以上で活用され、英語によるコミュニケーション能力を測るテストである TOEIC で 730 点取得を目標とする 5 日間集中講座である。対象は TOEIC500 点以上または英検 2 級以上の英語力を有し、TOEIC 高得点を目指す社会人である。

受講者数は、平成 19 年度 12 名、平成 20 年度 14 名、平成 21 年度 14 名であった。

③楽しいキーボード

平成 11 年度から徳島県生涯学習講座としてキーボード講座を開講している。60 歳以上の人を対象とし、定員 50 名。毎年 5 月から週 2 回のレッスンをを行い、3 月には修了コンサートを開催している。

④楽しいコーラス

平成 11 年度から徳島県生涯学習講座としてコーラス講座を開講している。60 歳以上の人を対象とし、定員 100 名。毎年 5 月から週 2 回のレッスンをを行い、3 月には修了コンサートを開催している。

⑤クレイアート

陶芸に関する理論・実技の習得を目的とし、9 月から 1 年間、週 1 回の制作活動を行っている。講義・実習の指導は、大学内のクレイアートスタジオで行われ、毎年 2 月に制作展を開催している。

受講者数は、平成 19 年度 7 名、平成 20 年度 6 名、平成 21 年度 6 名である。

＜正規授業の開放＞

原則的に全ての科目を開放している。

平成 19 年度～21 年度には「リスニングⅠ」「観光英語」「ライティング」「英会話（オーラルコミュニケーション）Ⅱ」「英会話（オーラルコミュニケーション）Ⅲ」「英会話（オーラルコミュニケーション）Ⅳ」「総合科目 B（韓国語・韓国文化）」「外国語

総合科目B（韓国語）」「英語の語法Ⅰ」「音楽療法概論Ⅱ」「税法総論」に受講者があった。

◇添付資料⑩ 「平成22年度クレイアート特別聴講生募集要項」

◆参考資料(73) 「徳島文理大学公開講座2010」

◆参考資料(74) 「ものづくりデザイン講座 実績報告書」

◆参考資料(75) 「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム委託業務成果報告書」
平成19年度

◆参考資料(76) 「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム委託業務成果報告書」
平成20年度

◆参考資料(77) 「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム委託業務成果報告書」
平成21年度

(4) 過去3ヶ年（平成19年度～21年度）の短期大学と地域社会（自治体、商工業、教育機関、その他団体等）との交流、連携等の活動について記述して下さい。

①四国巡礼キャラバンコンサート

文部科学省大学教育高度化推進対象事業「地域文化活動推進支援」のための「四国巡礼キャラバンコンサート」を平成18年度～20年度にわたり実施した。本事業は、四国八十八ヶ所の寺院・学校・公民館などを中心に「レクチャー」「コンサート」を開催することで、地域の文化活動の活性化を目指すものである。参加者総数（教員・学生の延べ動員数）は、約1,600名であった。

②Bunri ハンドベルクワイア

保育科の学生を中心に平成10年に結成し、今年度で11年の活動を続けている。毎年クリスマスシーズンに近隣の特別支援学校、医療センター、乳児院、デイケアセンターなどに出向き、演奏活動を行っている。

◆参考資料(78) 「四国巡礼キャラバンコンサート 実績報告書」

【学生の社会的活動について】

(1) 過去3ヶ年（平成19年度～21年度）の学生による地域活動、地域貢献あるいはボランティア活動等社会的活動の状況を記述して下さい。

ボランティア活動については、学生支援グループが窓口となり、地域社会から求められている各種ボランティア活動についての情報を入手することが可能であり、学生の積極的な参加を推奨している。

ボランティア活動内容としては、主に保育所や施設（児童養護施設、障害者支援施設、盲児施設等）での行事の手伝いや生活支援である。また、平成20年度から、徳島市の事業の一環として行われている近隣の公園清掃（パークアドプト）に登録メンバーが定期的に参加し、活動している。

(2) 短期大学では学生の地域活動、地域貢献あるいはボランティア活動等についてどのように考え、どのように評価しているか記述して下さい。

学生の地域活動やボランティア活動への参加は、活動の実体験を通して、自発的・主体

的な態度を養うと共に、個々人の社会的な役割についての理解が深められる大変良い機会である。特に、保育科ではボランティア活動を実践的な学習の機会として捉え、推奨している。

主な取り組みは以下の2点である。

・総合科目A（ボランティア）

2年生を対象として、一般総合科目の中に総合科目A（ボランティア）（選択科目2単位）を開講している。本授業では、ボランティアの理念や実情に関する講義を踏まえて、ボランティア活動を実践する。大学に寄せられたボランティア情報の中から学生が選択して参加し、参加後は活動記録とレポートを提出することを義務付けている。

・出前保育

平成20年度から、実施している。幼稚園の「預かり保育」の時間帯に学生を派遣し、子育て支援をサポートすると共に、幼児やその保護者との関わりを学ぶことを目的としている。

学生の地域活動やボランティア活動は、学生に社会の一員としての自覚を促し、修得した知識・技術や本人の本来持てる能力などが実践を通して深められる絶好の機会である。加えて、その結果が社会に貢献できると考える。

【国際交流・協力への取り組みについて】

(1) 過去3ヶ年（平成19年度～21年度）の学生の海外教育機関等への派遣（留学〈長期・短期〉を含む）の状況を記述して下さい。

平成20年度檀國大学（韓国）へ1名が交換留学制度によって半年間の長期留学をしている。過去3ヶ年の海外教育機関への短期留学の状況は下記の通りである。

平成19年度		平成20年度		平成21年度	
件数	詳細	件数	詳細	件数	詳細
2	ランガラ大学語学研修 (3名) パヴィア大学 ヨーロッパ芸術研修 (2名)	1	パヴィア大学 ヨーロッパ芸術研修 (1名)	0	—————

- ◆参考資料(19) 「2010年度夏期カナダ英語研修」
- ◆参考資料(20) 「檀國大学交換留学・短期語学研修」
- ◆参考資料(21) 「ヨーロッパ芸術研修旅行」
- ◆参考資料(22) 「オーストラリアグリフィス大学語学研修」

(2) 過去3ヶ年（平成19年度～21年度）の短期大学と海外教育機関等との交流の状況を記述して下さい。

海外教育機関との交流は、大学と一体となっていて行っている。交流の状況は、次表の通りである。

平成 19 年度		平成 20 年度		平成 21 年度	
件数	詳細	件数	詳細	件数	詳細
2	香港城市大学 (日本語研修 19 名) 檀國大学 (日本語研修 12 名)	3	香港城市大学 (日本語研修 19 名) バヴィア大学 (日本語研修 2 名) ランガラ大学 (遍路体験 21 名)	2	香港城市大学 (日本語研修 11 名) バヴィア大学 (日本語研修 5 名)

(3) 過去 3 ヶ年（平成 19 年度～21 年度）の教職員の留学、海外派遣、国際会議出席等の状況を記述して下さい。

- ① イタリアバヴィア大学でのシンポジウムにおける発表
植村尚也「Influenze Artistche Occidentali nella Modernizzazione del Giappone」
平成 19 年 10 月 8 日
- ② 2008 年度台湾日本語文学国際学術シンポジウムにおける口頭発表
藤岡克則「日本語受動構文と主体化」平成 20 年 12 月 20 日、淡江大学（台湾淡水市）
- ③ ハワイ州政府教育局、カIMUMキココミュニティスクールなどの学術視察（文部科学省・社会人の学び直し）
堀口誠信、平成 20 年 2 月 12 日～26 日
- ④ ヘルシンキ大学、タンペレ大学附属教員訓練校（中・高レベル）などの学術視察（学術振興会）
堀口誠信、平成 20 年 11 月 11 日～19 日

【特記事項について】

(1) この《Ⅶ社会的活動》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、例えば高大連携等の他の教育機関との連携、外国人への日本語教育等、社会的活動について努力していることがあれば記述して下さい。

高校生を対象とした「出張講義」（高校生向け「知の資源」の開放 出張講義実施プログラム）を実施している。

そのほか、地域社会で行われている「NPO 法人シルバーネットパワー男の料理教室」「徳島県学校給食コンテスト」「徳島県目指せスペシャリスト運営委員会」「徳島県シーズ開花事業」「介護予防リーダー養成講座」「国民健康保険事業（みなみ淡路市）」などの事業に講師として協力した。

- ◆参考資料(79) 「2007 年度 高校生向け『知の資源』の開放 出張講義実施プログラム」
- ◆参考資料(80) 「2008 年度 高校生向け『知の資源』の開放 出張講義実施プログラム」
- ◆参考資料(81) 「2009 年度 高校生向け『知の資源』の開放 出張講義実施プログラム」

(2) 特別の事由や事情があり、評価項目や評価の観点が求めることが実現（達成）できないときはその事由や事情を記述して下さい。

特記事項なし。

Ⅷ 管理運営

【法人組織の管理運営体制について】

(1) 短期大学を設置する法人のトップである理事長は、短期大学の運営に対して適切にリーダーシップを発揮しているか、また短期大学に係る重要事項はどのような流れで決定し、その流れのなかで理事長はどのように関与しているかを、できれば理事長自身が率直に現状を記述して下さい。

<理事長の見解>

本法人の運営は、理事会を最高議決機関として、常任理事会、評議員会、教授会などの諸機関が組織的にリンクされ運営に携わっている。

理事長は、学校法人村崎学園寄附行為の定めるところにより、学園業務を総理する学校経営の最高責任者として、本学の事業運営に係る重要事項の決定に責任を負い、リーダーシップを持って運営に当たっている。また、部局長会などに出席し、審議に加わると共に、学校法人の動向や建学精神、教育理念及び教育方針などを指示・伝達している。重要事項の決定は、理事長、学長、各学部長、事務局長及び各ユニット長などによる部局長会において検討し、教授会の審議を経て、理事長が議長を務める理事会で決議している。学長も理事会の理事に就任しているため、経営と教学が融合した関係を保ち、管理運営上教学側の意向を十分反映できるバランスの取れた決定を行っている。

◇添付資料⑫ 「学校法人村崎学園寄附行為」

(2) 過去3ヶ年（平成19年度～21年度）の理事会の開催状況（主な議案、理事の出席状況等を含む）を開催日順に記述して下さい。加えて理事会についての寄附行為上の規定を記述して下さい。平成22年5月1日現在の理事・監事・評議員名簿等を準備し、理事の構成に著しい偏りがないことをお示し下さい。また理事会議録は必要に応じて閲覧いたします。

<理事会開催状況（平成19年度～21年度）>

【平成19年度】

年	月	日	主な議案	出席者数	定数
19	4	2	・人間福祉学部人間福祉学科を保健福祉学部人間福祉学科に変更すること並びにこれに伴う寄附行為及び学則の一部変更の件	5	7
19	4	24	・任期満了に伴う評議員選任の件 ・徳島文理大学人間生活学部、工学部並びに徳島文理大学短期大学部生活科学科生活科学専攻における収容定員の変更並びにこれに伴う学則の一部変更の件 ・徳島文理大学工学部機械電子工学科、情報システム工学科及び文学部英米言語文化学科の名称変更並びにこれに伴う寄附行為及び学則の一部変更の件 ・徳島文理大学工学部環境システム工学科、文学部コミュニケーション学科における学生の募集停止並びにこれに伴う学則の一部変更の件 ・保健福祉学部看護学科を設置すること並びにこれに伴う寄附行為及び学則の一部変更の件	6	7
19	5	22	・平成18会計年度事業並びに決算報告承認の件	6	7
19	6	8	・平成20年度奨学金制度の件	6	7
19	6	13	・徳島市へ校地の無償使用について ・不動産（土地）の交換取得について ・里道の払い下げについて	6	7
19	10	19	・「公的研究費補助金取扱いに関する規定」制定の件 ・自己点検・評価に係る学則改正及び規程の制定の件 ・安全保健衛生管理規程の一部改正の件 ・土地購入の件 ・薬学部（6年制）、香川薬学部（6年制）の実務実習費を学費に含み、別途徴収しないとする件	7	7

年	月	日	主 な 議 案	出席者数	定数
			<ul style="list-style-type: none"> ・本学教職員子女に対する授業料免除規程での免除対象期間を薬学部（6年制）、香川薬学部（6年制）については、入学後4年間までとする件 ・徳島文理大学大学院学則の一部変更の件 ・（報告事項）西野康博氏との裁判の件 		
19	11	7	<ul style="list-style-type: none"> ・平成20年度の薬学部、香川薬学部入学者に給付する奨学金の件 ・平成21年度の薬学部、香川薬学部入学者に対する学費等納付金改正の件 ・土地の取得の件 	6	7
19	12	10	<ul style="list-style-type: none"> ・常任理事会の設置及び規程制定の件 ・顧問の設置及び規程制定の件 	5	7
20	2	19	<ul style="list-style-type: none"> ・学校法人村崎学園の平成19会計年度補正予算案審議の件 ・徳島文理大学大学院学則の一部変更の件 ・徳島文理大学学則の一部変更の件 ・徳島文理大学短期大学部学則の一部変更の件 ・任期満了に伴う評議員選任の件 ・徳島文理中学校・高等学校校舎取り壊し及び建築の件 ・徳島文理小学校用地購入の件 ・学校法人所有地の地積更正及び分筆の件 ・徳島日赤病院隣地の購入並びに建物建築の件 ・公益通報者保護規程の件 ・名誉研究所長に関する規程の件 ・全学部学科の定員並びに全学部学科の授業料等見直しの件 	6	7
20	3	12	<ul style="list-style-type: none"> ・平成20会計年度事業計画の件 ・平成20会計年度収支予算の件 ・理事選任の件 ・理事長選任の件 ・学部長選任の件 ・大学院研究科長選任の件 ・定年規程の改定の件 	6	7

【平成20年度】

年	月	日	主 な 議 案	出席者数	定数
20	5	26	<ul style="list-style-type: none"> ・平成19会計年度事業報告並びに決算報告承認の件 ・平成19会計年度監事の監査報告の件 ・任期満了に伴う監事候補者選出の件 ・名誉博士の称号を授与する件 ・名誉教授の称号を授与する件 ・常任理事会決定事項報告の件 	7	7
21	2	24	<ul style="list-style-type: none"> ・監事選任の件 ・徳島文理高等学校学則及び徳島文理中学校学則の一部変更の件 ・学園長選任の件 ・評議員選任の件 ・学校法人村崎学園の平成20会計年度補正予算案審議の件 ・徳島音楽コンクール開催の件 ・徳島市への学園所有地の一部を排水路として寄附及び国有地払い下げの件 ・徳島文理大学人間生活学部住居学科の名称変更並びにこれに伴う寄附行為及び学則の一部変更の件 	6	7
21	3	18	<ul style="list-style-type: none"> ・徳島文理大学学長兼徳島文理大学短期大学部学長選任の件 ・徳島文理大学副学長兼徳島文理大学短期大学部副学長選任の件 ・評議員選任の件 ・創立120周年記念事業計画のための2号基本金積立総額変更の件 ・平成21会計年度事業計画並びに予算案審議の件 ・徳島文理大学学則の一部変更の件 ・徳島文理大学専攻科規則の一部変更の件 ・徳島文理大学短期大学部学則の一部変更の件 ・徳島文理大学大学院学則の一部変更の件 ・未来科学研究所内に地域共同開発センターを設置する件 ・「短期契約職員就業規則」の一部改定の件 ・事務組織の変更及び「事務組織・事務分掌規程」の一部改定の件 	6	7

【平成21年度】

年	月	日	主 な 議 案	出席者数	定数
21	5	26	<ul style="list-style-type: none"> ・平成20会計年度事業報告並びに決算報告承認の件 ・平成20会計年度監事の監査報告の件 ・名誉教授の称号を授与する件 ・「徳島文理大学未来科学研究所規程」の一部改正の件 ・総合政策研究科（地域公共政策専攻）専門職学位課程における学生の募集停止並びにこれに伴う寄附行為及び学則の一部変更の件 ・短期大学部生活科学専攻、言語コミュニケーション学科、音楽科、商科の4学科について、地域総合科学科適格認定を取り下げる件 	7	7

年	月	日	主 な 議 案	出席者数	定数
			<ul style="list-style-type: none"> ・任期満了に伴う評議員選任の件 ・徳島文理大学大学院香川薬学研究科薬科学専攻修士課程を設置すること並びにこれに伴う学位規程及び学則の一部変更の件 ・徳島文理大学大学院薬学研究科薬学専攻博士前期課程及び医療薬学専攻修士課程並びに香川薬学研究科創薬科学専攻博士前期課程における学生募集停止並びにこれに伴う学則の一部変更の件 ・徳島文理大学学則の一部変更の件 ・徳島文理大学短期大学部学則の一部変更の件 ・徳島文理大学大学院学則の一部変更の件 ・常任理事会決定事項報告の件 		
21	7	7	<ul style="list-style-type: none"> ・保健福祉学部理学療法学科を開設すること並びにこれに伴う寄附行為及び学則の一部変更の件 ・人間生活学部児童学科、メディアデザイン学科、心理学科、音楽学部音楽学科における収容定員の変更並びにこれに伴う学則の一部変更の件 ・短期大学部生活科学科食物専攻、保育科における収容定員の変更並びにこれに伴う学則の一部変更の件 	5	7
22	2	16	<ul style="list-style-type: none"> ・学校法人村崎学園平成 21 会計年度補正予算案審議の件 ・任期満了に伴う評議員選任の件 ・徳島文理小学校、徳島文理中学校及び徳島文理高等学校の授業料改定及びこれに伴う学則の一部変更の件 ・経理関係規程等の改正及び制定の件 ・徳島文理大学学則の一部変更の件 ・徳島文理大学専攻科規則の一部変更の件 ・徳島文理大学大学院学則及び学位規程の一部変更の件 ・徳島文理大学短期大学部学則の一部変更の件 ・徳島市の下水道課への排水路寄付の件 ・香川薬学部長選任の件 ・「外国人留学生規程」改定の件 ・教育職員の任期制の件 ・徳島文理大学と新民高級中学との協定の件 ・人間生活学部人間生活学科、音楽学部音楽学科、保健福祉学部人間福祉学科における第 3 年次編入学定員の変更並びにこれに伴う学則の一部変更の件 ・人間生活学部児童学科にかかる大学学則の一部変更の件 ・短期大学部保育科にかかる短期大学部学則の一部変更の件 ・徳島文理大学大学院学位規程の一部変更の件 ・徳島文理大学附属幼稚園学則の一部変更の件 ・「学校法人村崎学園危機管理規程」制定の件 ・短期契約職員就業規則の一部改正の件 	5	7
22	3	18	<ul style="list-style-type: none"> ・理事選任の件 ・理事長選任の件 ・学部長選任の件 ・徳島文理大学香川薬学部創薬学科を廃止すること及びこれに伴う寄附行為の一部変更の件 ・事務組織変更及び「事務組織・事務分掌規程」改正の件 ・「徳島文理大学ヒトES細胞の使用に関する規程」の制定及び「徳島文理大学倫理審査委員会規程」改正の件 ・学校法人村崎学園平成 22 会計年度事業計画並びに予算案審議の件 	6	7

＜常任理事会開催状況(平成 20 年 1 月 1 日施行)(平成 19 年度～21 年度)＞

【平成 19 年度】

年	月	日	主 な 議 案	出席者数	定数
20	1	10	<ul style="list-style-type: none"> ・客員教授等受入要項の改正の件 ・公益通報者保護規程制定の件 	4	5

【平成 20 年度】

年	月	日	主 な 議 案	出席者数	定数
20	4	16	<ul style="list-style-type: none"> ・工学部の名称変更並びにこれに伴う寄附行為及び学則変更の件 ・平成 21 年度の学費等一部改定及び学則変更の件 ・任期満了に伴う評議員選任の件 ・名誉学長の称号授与の件 ・名誉研究所長の称号授与の件 ・校地用途変更の件 ・収容定員の見直しの件 	5	5
20	6	17	<ul style="list-style-type: none"> ・薬学部・香川薬学部の新しい指定校推薦制度（地域貢献特待生）の件 	5	5
20	7	16	<ul style="list-style-type: none"> ・徳島文理大学人間生活学部人間生活学科、薬学部薬学科、香川薬学部薬学科及び薬科学科、短期大学部商科における収容定員の変更及びこれに伴う学則の一部変更の件 	4	5

年	月	日	主 な 議 案	出席者数	定数
			件 ・「学校法人村崎学園 発明規程」の制定の件 ・学園創立120周年記念「人間 村崎凡人」冊子出版の件 ・徳島文理大学実習支援センター（仮称）建築の件		
20	9	2	・徳島文理大学及び短期大学部の各学部・学科改組転換等の件 (学生募集および改組転換を考慮に入れた学部別作成の改革案について協議)	5	5
20	10	7	・本学の短期大学部から大学3年次編入の入学金改定及び学則・編入学規程改定の件 ・助産学専攻科の開設に伴う学則及び専攻科規則の一部変更の件	5	5
20	11	4	・学生数増加のため諸施策および当面の課題の件 ・「部局長会規程」および「特別教員規程」の制定の件	5	5
20	12	9	・徳島市への学園所有地の一部を排水路として寄附及び国有地払い下げの件 ・評議員選任の件 ・「徳島文理大学・徳島文理大学短期大学部特任教員規程」制定及び学則改正の件	5	5
21	1	13	・副学長選任の件 ・学部長選任の件 ・大学院研究科長選任の件 ・短期大学部長選任の件 ・徳島文理大学人間生活学部住居学科の名称変更並びにこれに伴う寄附行為及び学則の一部変更の件 ・「徳島文理大学教員等選考規程」及び「徳島文理大学短期大学部教員等選考規程」の「資格審査に関する基準」の一部改正の件	5	5

【平成21年度】

年	月	日	主 な 議 案	出席者数	定数
21	4	23	・任期満了に伴う評議員選任の件 ・名誉園長の称号を授与する件 ・徳島文理大学大学院香川薬学研究所薬科学専攻修士課程を設置すること並びにこれに伴う学位規程及び学則の一部変更の件 ・徳島文理大学学則の一部変更の件 ・徳島文理大学短期大学部学則の一部変更の件 ・徳島文理大学大学院学則の一部変更の件	5	5
21	9	8	・香川薬学部長選任の件 ・「外国人留学生規程」改正の件	5	5
21	10	6	・教育職員の任期制の件 ・徳島文理大学と新米高級中学との協定の件	5	5
21	11	2	・人間生活学部人間生活学科、音楽学部音楽学科、保健福祉学部人間福祉学科における第3年次編入学定員の変更並びにこれに伴う学則の一部変更の件 ・人間生活学部児童学科にかかる大学学則の一部変更の件 ・短期大学部保育科にかかる短期大学部学則の一部変更の件 ・徳島文理大学大学院学位規程の一部変更の件 ・徳島文理大学附属幼稚園学則の一部変更の件	5	5
21	12	8	・「学校法人村崎学園危機管理規程」制定の件	5	5
22	1	5	・短期契約職員就業規則の一部改正の件 ・徳島文理小学校、徳島文理中学校及び徳島文理高等学校の授業料改定の件	5	5

なお、理事会については寄附行為で以下の通り定められている。

(理事会)

第六条 この法人に理事をもって組織する理事会を置く。

- 2 理事会は、学校法人の業務を決し、理事の職務の執行を監督する。
- 3 理事会は、理事長が招集する。
- 4 理事会を招集するには、各理事に対し、会議開催の場所及び日時並びに会議に付議すべき事項を書面により通知しなければならない。
- 5 前項の通知は、会議の7日前までに発しなければならない。ただし、緊急を要する場合は、この限りでない。
- 6 理事会に議長を置き、理事長をもってあてる。
- 7 理事長は、理事総数の3分の2以上の理事から会議に付すべき事項を示して理事会の招集を請求された場合には、その請求のあった日から7日以内にこれを招集しな

ければならない。

- 8 理事長が前項の規定による招集をしない場合には、招集を請求した理事全員が連名で理事会を招集することができる。この場合における理事会の議長は、出席理事の互選によって定める。
- 9 理事会に出席しない理事は、通知に示された議事について書面をもってあらかじめ意思を表示した者は出席者とみなす。
- 10 理事会は、理事総数の3分の2以上の理事が出席しなければ、その議事を開き議決することができない。
- 11 理事会の議事は、法令又はこの寄附行為に別段の定めがある場合を除くほか、理事総数の過半数で決し、可否同数の時は議長の決するところによる。
- 12 理事会の決議について、直接の利害関係を有する理事は、その議決に加わることができない。

◇添付資料⑫ 「学校法人村崎学園寄附行為」 (p. 2)

◆参考資料(82) 「理事・監事・評議員名簿」

◆参考資料(83) 「理事会議録」

(3) 理事会の下に理事会の業務を一部委任する常任理事会、幹部会等を置いている場合は、その名称と根拠規程、理事会との関係、構成メンバー等を記述して下さい。

学校法人村崎学園常任理事会規程第3条で、常任理事会は、理事会の包括的授権に基づいて、この法人の日常の業務を決定し、常任理事会で決定した事項は、次の理事会において、理事長から報告しなければならないと定めている。

構成メンバーは理事長及び常勤理事（学長、事務局長他2名）である。

◆参考資料(84) 「学校法人村崎学園常任理事会規程」

(4) 監事の業務についての寄附行為上の規定、平成21年度における監事の業務執行状況について、できれば監事自身が率直に現状を記述して下さい。

監事の業務についての寄附行為で以下の通り定められている。

(監事の選任及び職務)

第十一条 監事は理事又はこの法人の職員（この法人の設置する学校の校長（学長）、教員その他の職員を含む。以下同じ。）又は評議員以外の者であって理事会において選出した候補者のうちから、評議員会の同意を得て、理事長が選任する。

2 監事は次に掲げる職務を行う。

1. この法人の業務を監査すること。
2. この法人の財産の状況を監査すること。
3. この法人の業務又は財産の状況について、毎会計年度、監査報告書を作成し、当該会計年度終了後2月以内に理事会及び評議員会に提出すること。
4. 第1号又は第2号の規定による監査の結果、この法人の業務又は財産に関し不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実があることを発見したときは、これを文部科学大臣に報告し、又は理事会及び評議員会に報告すること。

5. 前号の報告をするために必要があるときは、理事長に対して評議員会の招集を請求すること。
6. この法人の業務又は財産の状況について理事会に出席して意見を述べること。

<監事の業務執行状況>

①決算監査

決算監査を行い監査報告書を作成し、理事会、評議員会に提出した。

②公認会計士監査の立ち会い

公認会計士の監査には毎回立ち会い、意見交換を行った。

③申請書、諸帳票、その他書類などをチェック

業務に関する申請書、総勘定元帳など経理関係諸帳票、契約書、その他業務に関する書類を適宜閲覧、チェックした。

④重要会議への出席

理事会、常任理事会、評議員会への出席のみならず、教学組織との意思疎通を図るため、部局長会などの重要会議に出席。また予算編成会議、学校行事にも出席して学校法人の運営全般についての把握に努めた。

⑤現場視察・実地監査

適時キャンパスの現場視察を行っており、また毎年実地監査を行っている。

⑥理事長はじめ幹部との意見交換

理事長はじめ幹部と意見交換を行うとともに報告を受けた。

<監事の見解>

- ①会計処理は適正に行われており、会計帳簿は記載すべき事項を正しく記載し、適正かつ正確に法人の収支状況及び財政状況を示している。
- ②学校法人の業務・財産に関し、不正の行為または法令もしくは寄附行為に違反の事実はない。

◇添付資料⑫ 「学校法人村崎学園寄附行為」 (p.3)

(5)平成21度の評議員会の開催状況（主な議案、評議員の出席状況等を含む）を開催日順に記述し、評議員会についての寄附行為上の規定を記述して下さい。

<評議員会開催状況（平成21年度）>

年	月	日	主 な 議 案	出席者数	定数
21	4	23	<ul style="list-style-type: none"> ・徳島文理大学大学院香川薬学研究科薬科学専攻修士課程を設置すること並びにこれに伴う学位規程及び学則の一部変更の件 ・徳島文理大学学則の一部変更の件 ・徳島文理大学短期大学部学則の一部変更の件 ・徳島文理大学大学院学則の一部変更の件 	13	15
21	5	26	<ul style="list-style-type: none"> ・平成20会計年度事業報告並びに決算報告承認の件 ・平成20会計年度監事の監査報告の件 ・「徳島文理大学未来科学研究所規程」の一部改正の件 ・総合政策研究科（地域公共政策専攻）専門職学位課程における学生の募集停止並びにこれに伴う寄附行為及び学則の一部変更の件 ・徳島文理大学大学院薬学研究科薬学専攻博士前期課程及び医療薬学専攻修士課程並びに香川薬学研究科創薬科学専攻博士前期課程における学生募集停止並びにこれに伴う学則の一部変更の件 	13	15
21	7	7	<ul style="list-style-type: none"> ・保健福祉学部理学療法学科を開設すること並びにこれに伴う寄附行為及び学則の一部変更の件 ・人間生活学部児童学科、メディアデザイン学科、心理学科、音楽学部音楽学科における収容定員の変更並びにこれに伴う学則の一部変更の件 	14	15

年	月	日	主 な 議 案	出席者数	定数
			・短期大学部生活科学科食物専攻、保育科における収容定員の変更並びにこれに伴う学則の一部変更の件		
22	2	16	<ul style="list-style-type: none"> ・学校法人村崎学園平成 21 会計年度補正予算案審議の件 ・徳島文理小学校、徳島文理中学校及び徳島文理高等学校の授業料改定及びこれに伴う学則の一部変更の件 ・経理関係規程等の改正及び制定の件 ・徳島文理大学学則の一部変更の件 ・徳島文理大学専攻科規則の一部変更の件 ・徳島文理大学大学院学則及び学位規程の一部変更の件 ・徳島文理大学短期大学部学則の一部変更の件 ・徳島市の下水道課への排水路寄付の件 ・「外国人留学生規程」改定の件 ・教育職員の任期制の件 ・徳島文理大学と新民高級中学との協定の件 ・人間生活学部人間生活学科、音楽学部音楽学科、保健福祉学部人間福祉学科における第 3 年次編入学定員の変更並びにこれに伴う学則の一部変更の件 ・人間生活学部児童学科にかかる大学学則の一部変更の件 ・短期大学部保育科にかかる短期大学部学則の一部変更の件 ・徳島文理大学大学院学位規程の一部変更の件 ・徳島文理大学附属幼稚園学則の一部変更の件 ・「学校法人村崎学園危機管理規程」制定の件 ・短期契約職員就業規則の一部改正の件 	14	15
22	3	18	<ul style="list-style-type: none"> ・徳島文理大学香川薬学部創薬学科を廃止すること及びこれに伴う寄附行為の一部変更の件 ・事務組織の変更及び「事務組織・事務分掌規程」改正の件 ・「徳島文理大学ヒト E S 細胞の使用に関する規程」の制定及び「徳島文理大学倫理審査委員会規程」改正の件 ・学校法人村崎学園平成 22 会計年度事業計画並びに予算審議の件 	13	15

なお、評議員会については寄附行為で以下の通り定められている。

(評議員会)

第十六条 この法人に、評議員会を置く。

- 2 評議員会は、15 人の評議員をもって組織する。
- 3 評議員会は、理事長が招集する。
- 4 評議員会を招集するには各評議員に対し、会議開催の場所及び日時並びに会議に付議すべき事項を、書面により通知しなければならない。
- 5 前項の通知は、会議の 7 日前までに発しなければならない。ただし、緊急を要する場合は、この限りではない。
- 6 評議員会に議長を置き、会議のつど評議員のうちから互選で定める。
- 7 理事長は、評議員総数の 3 分の 1 以上の評議員から会議に付すべき事項を示して評議員会の招集を請求された場合には、この請求のあった日から 20 日以内にこれを招集しなければならない。
- 8 理事長が前項の規定による招集をしない場合には、招集を請求した評議員全員が連名で評議員会を招集することができる。
- 9 評議員会は評議員の過半数の出席がなければ、その議事を開き議決することができない。ただし、当該議事につき書面をもってあらかじめ意思表示した者は、出席者とみなす。
- 10 評議員会の議事は、出席した評議員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- 11 前項の場合において、議長は、評議員として議決に加わることができない。

◇添付資料⑫ 「学校法人村崎学園寄附行為」 (p. 5)

(6) 法人の管理運営について今後改善や変更をしたいと考えている事項があれば記述して下さい。また法人が抱えている問題あるいは課題について差し支えない範囲で記述して下さい。

学校法人が抱えている最大の課題は、少子化と高校生の変向の変化に、いかに対応し安定的に学生を確保するかということになる。本学では、平成 21 年度から「キャリア短大」を目指し、特色あるカリキュラムの開発や教育方法の実践に努めている。さらに、FD、SDに取り組み教職員の意識改革を進めると共に、学生支援を充実させ、学生の満足度を上げる諸策と、高校生や社会に対しての分かりやすい広報に取り組んでいきたい。

【教授会等の運営体制について】

(1) 短期大学の教育・研究上のトップである学長は、短期大学の教育活動全般について適切にリーダーシップを発揮しているか、また短期大学に係る教育・研究上の事項はどのような流れで決定し、その流れのなかで学長はどのように関与しているかを、できれば学長自身が率直に現状を記述して下さい。なお学長選考規程等があれば訪問調査の際に拝見することがありますのでご準備下さい。

<学長の見解>

学長は、学則 48 条の規定により、教育・研究に関する学務を掌理する責任者として、常に副学長や短期大学部長などと緊密な連携を取り合い、それぞれが担う機能を適切に分担しつつ、その職責を果たしている。実際に、「Ⅲ 教育の実施体制」に述べた(a)～(d)に関するPDCAサイクルの仕組みを、学長が先頭に立って、考案・提案し、実現した。意思決定のプロセスは、各学科会議や各種委員会からの提案を受けて、教授会などの審議を得るが、十分な意思疎通を図ったうえで決定している。また学長は理事にも就き、法人の管理運営にも関わっており、常に経営と教学の融合した一元的な関係の保持に努めている。

◇添付資料② 「徳島文理大学短期大学部学則」 (p. 4)

◆参考資料(85) 「学長選考規程」

(2) 教授会についての学則上の規定（教授会で議すべき事項等を含む）、平成 21 年度における開催状況（主な議案、構成メンバー、出席状況等を含む）を年月日の順に記述して下さい。

なお、学則を添付して下さい。

「徳島文理大学短期大学部学則（抜粋）」

第 52 条 本学に教授会を置く。

2 教授会は教授で組織する。ただし、学長が必要ありと認める場合は、准教授、その他の職員を加えることができる。

3 教授会の運営に関する規則は別に定める。

第 53 条 教授会は次の事項を審議する。

1 学則及び教育に関する諸規定の制定、又は改廃に関する事項

2 教員の選考に関する事項

- 3 学科、課程に関する事項
- 4 学生の入学、休学、退学、卒業、その他学生の学籍に関する事項
- 5 学生の試験に関する事項
- 6 学生の厚生補導に関する事項
- 7 学生の賞罰に関する事項
- 8 その他学長の諮問する事項

＜教授会開催状況（平成 21 年度）＞

年	月	日	主 な 議 案	出席者数	定数
21	4	14	(1) 平成 22 年度Ⅱ期 A 日程入試の入試科目について (2) 平成 21 年度各学部・短期大学の担任委嘱について (3) 学生の身分異動について (4) 江西利夫教授の名誉教授推薦について (5) 短期大学部生活科学科生活科学専攻、言語コミュニケーション学科、音楽科、商科の 4 学科について、地域総合科学科適格認定を取り下げる件について	27	35
21	5	12	(1) 退学者の指導記録について (2) 平成 21 年度府県別保護者会及び保護者会役員会の開催について (3) 進学説明会について (4) 申請書（稟議書）の記載要項等について	27	35
21	6	9	(1) 構内の灰皿設置場所の見直しと喫煙マナーの向上について (2) 外国人留学生のための入学試験要項について (3) 平成 22 年度スポーツ推薦入学試験要項について (4) 平成 21 年度ブロック別進学説明会の開催について (5) オープンキャンパスについて	28	35
21	7	14	(1) 外国人留学生のための編入学試験について	24	35
21	9	8	(1) 学生の身分異動について (2) 平成 22 年度入試の地方試験場について (3) 危機管理について	32	35
21	10	13	(1) 学生の身分異動について (2) 平成 22 年度主要行事予定表について (3) 平成 22 年度入試処理日程について (4) 平成 22 年度推薦入試Ⅰ期実施計画について (5) 平成 22 年度入試におけるインフルエンザへの対応について (6) 平成 23 年度入試日程について	27	35
21	10	23	(1) 学生の身分異動について (2) 平成 22 年度指定校制推薦入試・資格利用入試の合否判定について (3) 保育科の授業科目の一部変更について	35	35
21	11	5	(1) 平成 22 年度推薦入試合否判定について	34	35
21	11	24	(1) チューター制（平成 22 年度）について (2) 成績入力ミス防止策について (3) 府県別保護者会について (4) GPA の導入について (5) 大学入試センター試験の実施について (6) 平成 22 年度推薦入試Ⅱ期実施計画について	28	35
21	12	8	(1) 冬季休業中の学生指導について (2) 平成 22 年度Ⅰ期 A 日程・B 日程入学試験実施計画（案）について	30	35
22	1	12	(1) 学生の身分異動について (2) セクシュアル・ハラスメントの防止等に関する規程の細則について	28	35
22	2	4	(1) 平成 22 年度Ⅰ期 A・B 日程入試合否判定について (2) 社会人のための入試合否判定について (3) 外国人留学生のための入試合否判定について	28	35

年	月	日	主 な 議 案	出席者数	定数
22	2	9	(1) 学生の身分異動について (2) 平成22年度センター試験利用入試Ⅰ期合否判定について (3) 学生指導協議会運営規則一部改正について (4) 平成22年度新入生オリエンテーションについて (5) 平成21年度大学院学位記授与式、専攻科修了証書授与式、大学学部並びに短期大学部卒業証書・学位記授与式の実施計画について (6) 就職支援委員会（仮称）について	27	35
22	2	24	(1) 平成22年度Ⅱ期A日程入試合否判定について (2) 学生の身分異動について (3) 平成21年度卒業判定について	26	35
22	3	11	(1) 平成22年度Ⅱ期B日程入試合否判定について (2) 平成22年度センター試験利用入試Ⅱ期合否判定について (3) 学生の身分異動について (4) 生活科学科生活科学専攻2年生1名の専門科目への読替依頼について (5) 学生指導協議会運営規則一部改正について (6) 人権教育推進委員会規則一部改正について (7) 平成21年度優秀卒業論文・研究賞及び優秀卒業演奏賞について (8) 平成23年度入試の変更点について (9) 平成23年度入試日程について (10) 平成21年度卒業式総代等について (11) 平成22年度入学式計画（案）について (12) 「就職支援委員会規程」について	32	35
22	3	25	(1) 平成22年度Ⅲ期C日程入試合否判定について (2) 平成22年度センター試験利用入試Ⅲ期合否判定について (3) 学生の身分異動について	24	35

◇添付資料② 「徳島文理大学短期大学部学則」 (p.4)

◆参考資料(86) 「教授会規程」

(3)学長もしくは教授会の下に教育・研究上の各種の委員会等を設置している場合は、その名称と根拠規程、主な業務、構成メンバー、平成21年度の開催状況等を記述して下さい。

番	委員会名	構成員	主な審議事項	開催回数	根拠規程
1	全学入試委員会	学長、副学長、事務局長、各学部長各学部入試委員長企画部長、スーパーバイザーズ・オフィス長、アドミッションズ・オフィス長、総務ユニット長 教育・研究支援ユニット長、学務入試グループ長	入試地方会場の廃止及び追加、入試科目の変更、「人間生活学部」「保健福祉学部」の併願等について	1	全学入試委員会規程
2	倫理審査委員会	学長、教授、総務担当、外部委員他	実験に関わる教育・研究事故発生の際に必要な措置及び改善策	6	倫理審査委員会規程
3	遺伝子組み換え実験安全委員会	委員17名（関係教授）	申請された遺伝子組み換え実験計画が規則に則って計画されたものか審査	7	遺伝子組換え実験安全管理規則
4	全学実験動物委員会	委員10名	動物実験許可書及び発注・飼育申し込み書の承認、動物実験に関する第三者評価について、	2	動物実験と動物の飼育及び保管等に関する規程
5	省エネ推進委員会	各学部長、各号館代表	目標管理制度の実施について・省エネ1%削減の方法	1	徳島文理大学(徳島キャンパス)エネルギー管理標準(第二種エネルギー管理指定工場)

番	委員会名	構成員	主な審議事項	開催回数	根拠規程	
6	広報担当者会	理事長、学長、事務局長、広報担当者	平成20年度入試総括、平成21年度広報活動、オープンキャンパス、学生募集	5	広報担当者会議規約	
7	セクシュアル・ハラスメント防止委員会	本部代表、各学部代表、各ユニット代表20名	規則等の制定について、セクシュアル・ハラスメント防止のためのガイドラインについて、学内の現況について	3	セクシュアル・ハラスメント防止委員会細則	
8	インターンシップ推進委員会	学長、副学長、各学部構成委員、事務局	インターンシップ受け入れ先及び学生の実習、インターンシップ推進方策	1	インターンシップ推進委員会規則	
9	学生指導協議会	各学部、各ユニット代表	禁煙実態と分煙の徹底化、駐輪・駐車	1	学生指導協議会運営規則	
10	人権教育推進委員会	各学部、各ユニット代表	人権教育の推進、各種研修会の報告	2	人権教育推進委員会規則	
11	大学通信編集委員会	各学部長、各ユニット長、アドミッションズ・オフィス	年3回発行編集について	3	——	
12	紀要編集委員会	各学部の専任教員 教育研究支援グループ長	投稿規定及び編集規程に準拠した論文の募集と投稿された論文の審査並びに研究紀要の編集	4	研究紀要投稿規定及び編集規定	
13	自己点検・評価委員会	学長、副学長、事務局長、短期学部長、各学科学長、総務部長、企画部長、経理部長、スーパーバイザーズ・オフィス長 ユニット長、アドミッションズ・オフィス長、情報センター長	自己点検・評価の基本方針、報告書の作成並びに公表及び改善に関すること、第三者機関による認証評価に関すること	2	自己点検・評価に関する規程	
14	教員養成対策委員会	各学部長、総務ユニット長、学務・入試グループ長、キャリア・サポートグループ長、全学共通教育センター長	本年度の取り組み、教員養成対策の推進と支援対策	1	教員養成対策委員会規約	
15	発明委員会	副学長、事務局長 総務部長、企画部長、経理部長、総務ユニット長、教育・研究支援ユニット長、教授他	調理時に発生する水質汚濁物質の排出性能が改良された食品用途種 質量分析用多価ブローグ 血管内皮細胞の管腔形成促進剤	3	発明規程	
16	教職課程委員会	教職に関する科目担当、学部代表 企画部長、教育・研究支援ユニット長他	教員免許状更新講習の実施について、「教職実践演習」について、本学の教職課程について改善すべき課題	2	教職課程委員会規定	
17	衛生委員会	産業医、学部長、衛生管理者、ユニット長、総務部長、衛生に関し経験を有する者	定期健康診断、結核検診の問題点、インフルエンザについて、AED、緊急傷病事故	5	衛生委員会会則	
18	教育開発機構	全学カリキュラム委員会	各学部代表、学務入試グループ	学長からの諮問に答える。	随時	教育開発機構設置要綱
		入試制度検討部会 (含入学前教育)	各学部代表、学務入試グループ			
		一般教育研究部会 (含新入生教育)	各学部代表、全学共通教育センター、語学センター			
		学部教育連絡部会 (含専門導入教育)	各学部代表、教育・研究支援グループ			
		FD研究部会	各学部代表、教育・研究支援グループ			
19	就職支援委員会	学長、副学長、各学部・学科委員、スーパーバイザーズ・オフィス長、総務ユニット長、教育・研究支援ユニット長、アドミッションズ・オフィス長、キャリア・サポートグループ長	学生の就職支援計画に関する事項、学生の就職に係る情報の収集及び提供に関する事項、各種就職支援事業の実施に関する事項、記号の調査研究及び就職先開拓に関すること、各学部間及びキャリア・サポートグループとの就職支援に係る連絡調整に関する事項、その他学生の就職に関する必要な事項	1	就職支援委員会規程	

※上記は、大学、短期大学部共通の委員会である。

短期大学部各種委員会		構成員	開催回数	根拠規程
1	カリキュラム委員会	教員12名	2回	徳島文理大学短期大学部各種委員会運営規程
2	FD委員会	教員8名	2回	
3	AO入試運営委員会	教員8名 事務職員1名	その都度	
4	ホームページ委員会	教員8名	2回	
5	インターンシップ委員会	教員4名	2回	

- ◆参考資料(17) 教育開発機構設置要綱
- ◆参考資料(55) 学生指導協議会運営規則
- ◆参考資料(56) 人権教育推進委員会規則
- ◆参考資料(57) インターンシップ推進委員会規則
- ◆参考資料(58) セクシュアル・ハラスメント防止委員会細則
- ◆参考資料(87) 全学入試委員会規程
- ◆参考資料(88) 倫理審査委員会規程
- ◆参考資料(89) 遺伝子組換え実験安全管理規則
- ◆参考資料(90) 動物実験と動物の飼育及び保管等に関する規程
- ◆参考資料(91) 徳島文理大学（徳島キャンパス）エネルギー管理標準
（第二種エネルギー管理指定工場）
- ◆参考資料(92) 広報担当者会議規約
- ◆参考資料(93) 研究紀要投稿規定及び編集規定
- ◆参考資料(94) 自己点検・評価に関する規程
- ◆参考資料(95) 教員養成対策委員会規約
- ◆参考資料(96) 発明規程
- ◆参考資料(97) 教職課程委員会規定
- ◆参考資料(98) 衛生委員会会則
- ◆参考資料(99) 就職支援委員会規程
- ◆参考資料(100) 徳島文理大学短期大学部各種委員会運営規程

(4) 短期大学の運営全般について抱えている問題あるいは課題について差し支えない範囲で記述して下さい。

本学の運営全般について抱えている問題あるいは課題の一つは、「学生の確保」である。今日、18歳人口の減少や四年制大学志望者の増大などにより、短期大学進学志望者は年々減少傾向にある。このような状況に対応するために、本学は平成22年度からは短期大学本来の教養教育をベースにして、より実践的な短期大学へと進化を遂げるため「キャリア短大」として科目の再編やカリキュラムの見直しを行った。

【事務組織について】

(1)現在の法人全体の事務組織図を記載し、その中に短期大学の事務部門を記入して下さい。また組織図には短期大学の事務部門の役職名（課長、室長相当者以上。兼職の有無を含む）、各部門の人員（専任・兼任の別を含む）、各部門の主な業務を含めて記入して下さい。また事務組織が使用している部屋等は、機器・備品を含めて訪問調査の際にご案内いただきます。

大学・短期大学部共通の事務組織として事務局長の総括・調整の下に、総務ユニット、教育・研究支援ユニット、学生支援ユニット、就職支援ユニットと図書館、スーパーバイザーズ・オフィス、アドミッションズ・オフィス、情報センターを設置している。各業務の概要を以下に示す。

＜総務ユニット＞

①庶務・渉外グループ

外部との対応と教職員福利厚生、教職員に関する勤務及び労務管理、業務の効率化企画、事務に関わる会議の計画・運営、オープンキャンパス及び学生募集など大学全体として行う業務の企画・運営支援、同窓会が主催する業務の支援、教育分野以外の外部機関による調査・報告などの期日管理及び実施状況の管理などを行う。

②施設・サプライグループ

出張関係や物品の購入など経費支出に係わる管理や効率化の企画を行う。また、学内の環境整備、建物などの施設管理、設備・物品などの管理保全や検査機関への報告、環境保全、施設・設備の有効活用及びその企画を行う。

③国際交流グループ

外国人教員の採用に関する調査・交渉、外国人教員及び家族が赴任ないしは退職時のサポート及び本学教員の留学サポート、日本学術振興会など公的関連業務及び留学生・研究員の来日・離日支援、外国人が本学に来学する際の計画・準備・実施、海外研修の支援及びオリエンテーションの実施、公文書翻訳などの業務を行う。

④学部事務グループ

学長、学部長、短期大学部長の事務を補佐する。

＜教育・研究支援ユニット＞

①学務入試グループ

授業計画・試験などを教学と連携して計画・実施、進級や卒業など学生の成績に係わる全ての業務の教学支援、学生の身分異動などの管理業務。入学試験の計画から合格発表までの、全ての業務を教学と連携して企画実施する。

②教育・研究支援グループ

教学と連携した教育研究高度化の企画・立案、地域社会貢献の企画、各種資格取得支援及び取得可能免許・資格など種類の見直しと充実に関する教学との連携を行う。

③全学共通教育センター

基礎学力の到達度に応じた教育、全学的な基礎学力に関する全学共通教育センター運営を通じた教育事業を行う。

④語学センター

外国語教育に関する企画・立案、帰国生・留学生に対する日本語教育、英語スピーチコ

ンテスト、英検・TOEIC・TOEFL 受験支援など、語学センターを通じた全学的語学教育関連業務を行う。

⑤メディアセンター

IT教材開発（eラーニングを含む）、マルチメディア関係の教学連携、学生プレゼンテーションコンテスト運営などITを活用した教育の企画支援を行う。

<学生支援ユニット>

①学生支援グループ

教学との連携を密にした学生の教育に関する相談・支援、学生の生活に関する相談・支援、学生への情報発信、学生・卒業生への証明書など発行物管理、奨学金受給の相談・指導、学生アルバイトの斡旋、学生の課外活動の企画・支援、学生指導に関する会議の開催及び出席などの業務を行う。

②健康管理グループ

学生及び教職員の健康管理及び関連諸行事の企画・実施、及び専門家によるメンタルケアを行う。

③学生寮

学生生活指導・支援、学生寮及びテニスコートなどの管理運営を行う。

<就職支援ユニット>

①キャリア・サポートグループ

キャリアアップを目的とする資格取得支援、キャリアガイダンス及び就職支援企画、学生への求人情報提供、就職状況の把握、就職情報提供の効率化、インターンシップ推進などの業務を行う。

<図書館>

図書館機能を活用した教育研究の企画・運営を行う。

<スーパーバイザーズ・オフィス>

教育界、産業界など各界で卓越した経験を有する者で構成し、大学各部局に適切な助言を呈し、大学の発展に資することを旨とし、学生募集活動の支援、基礎学力教育の支援、その他大学事務各部門の運営支援を行う。

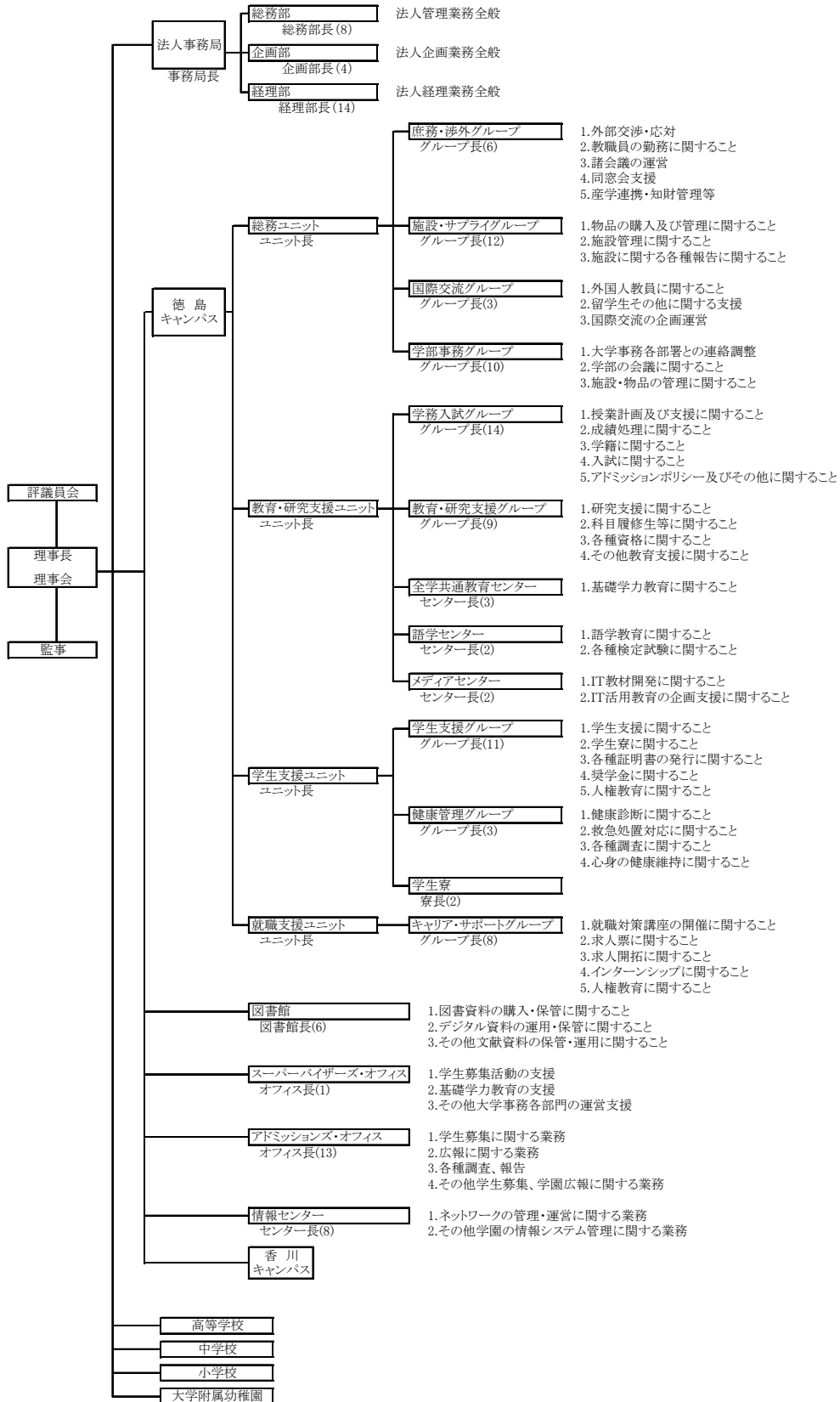
<アドミッションズ・オフィス>

教育・研究支援ユニットの学務入試グループ、総務ユニットの庶務・渉外グループほか各部局と連携し、学生募集に関する全ての業務と調査・データ分析、計数管理、効果的募集活動の企画・実施をする。

<情報センター>

ネットワークの計画やセキュリティに対する提案・管理・運営を行う。プログラムの作成及び管理・運用を行う。

<事務組織図>



(2) 事務職員の任用（役職者の任免を含む）について現状を訪問調査時にご説明下さい。
「職員資格審査基準」に基づき、事務職員の任用を行っている。訪問調査時に説明する。

◆参考資料(101) 「職員資格審査基準」

(3) 事務組織について整備している諸規程名を列記して下さい。なお諸規程等は訪問調査の際に拝見することがありますのでご準備下さい。

◆参考資料(63) 「文書保存規程」

◆参考資料(102) 「事務組織・事務分掌規程」

◆参考資料(103) 「支出決裁権限規程」

◆参考資料(104) 「文書取扱規程」

◆参考資料(105) 「公印使用規程」

(4) 決裁処理の概要と流れ、また公印や重要書類（学籍簿等）の管理、防災の状況、情報システムの安全対策等の現状を記述して下さい。

＜決裁処理の流れ、公印、重要書類の管理＞

本学園の文書取扱規程に、起案文書や決裁に必要な手続き、決裁権者などを規定している。全ての決裁文書は、起案者が所定の起案書を用いて作成し、文書発送簿に起案年月日、番号そのほか必要事項を記入し、主管課の上司及び総務部長、事務局長の承認後、最終決裁者である理事長・学長において決裁される。

公印は、学校法人村崎学園公印使用規程に基づき、それぞれの公印について保管責任者を決め、その者が金庫などに入れるなどして適切に保管している。なお、短期大学部関連の公印は短期大学部長が公印保管責任者となっている。

指導要録などの重要書類は教育・研究支援ユニット長を管理責任者として耐火金庫に厳重に管理している。

＜防災の状況＞

徳島文理大学、徳島文理大学短期大学部防災規程において、防災管理業務について必要な事項を定めている。防火管理者は総務ユニット長である。また、総務ユニット長を隊長とする自衛消防隊を組織し、火災・震災そのほかの災害の予防及び事故発生時の被害を最小限度に止めるようにしている。

＜情報システムの安全対策＞

①各システム

・入試システム

専用のネットワークを構築し、特定部署のみシステムが使用できるようになっている。

・学務・事務システム

ファイアウォールで学外からのアクセスは全て遮断している。また利用者ごとにIDとパスワードを付与している。このIDには利用権限があり、利用できる情報が限られる。

②ウイルス対策

学内の全てのパソコンにウイルス対策ソフトを導入し、定期的にアップデートを行っている。

③保守委託

本学における保守委託の契約はなし。

- ◆参考資料(63) 「文書保存規程」
- ◆参考資料(104) 「文書取扱規程」
- ◆参考資料(105) 「公印使用規程」
- ◆参考資料(106) 「防災規程」

(5) 事務職員は教員や学生から支持され信頼されているか、できれば事務組織の責任者（事務局長等）が現状を率直に記述して下さい。

<事務局長の見解>

本学の事務職員のほとんどが本学出身者であり、教員とも常に密接な関係を構築している。また、学生との距離も近く、いつでも気軽に相談に乗れる雰囲気の中で相互に信頼関係を維持している。

(6) 事務組織のスタッフ・ディベロップメント（SD）活動（業務の見直しや事務処理の改善等、授業改善を支援する職員等の研修等、事務職員の能力開発、内部研修、外部への研修等）の現状を記述して下さい。

本学では職員の資質向上のために様々な研修に取り組んでいる。セクションごとの研修のみならず、積極的に学外での研修会に出席し、その結果については学内で報告することにより研修の成果を共有する取り組みを行っている。

平成 19 年 2 月に、大学コンソーシアム京都教育事業部長の山内信幸同志社大学教授による「総合大学におけるFDの在り方について」と題した講演会を行った。教員と職員が共に出席することにより、FDのみならずSD活動としての意義もあった。また、平成 21 年 7 月には、佐藤浩章准教授（愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室副室長）による「効果的な授業改善の技法－授業アンケート・研究授業をどう活用するか」と題した講演会を実施し、教員・職員が共に研修を行った。

日本私立大学協会及び日本私立短期大学協会をはじめとする学外の各種研修会、セミナーへの参加は、各職位者の能力開発や専門性の向上及び業務の効率化への取り組みにつながっている。また、学内の研修会や平成 19 年度から始めた各界有識者による公開講座への教職員の積極的な参加は、職員の資質向上と職場内外の環境変化への対応力の向上に有効に機能している。

- ◆参考資料(73) 「徳島文理大学公開講座 2010」

(7) 短期大学の事務組織が抱えている問題あるいは課題について差し支えがなければ記述して下さい。

現在、特に問題点と認識しているものはない。

【人事管理について】

(1) 教職員の就業について、現在、短期大学が抱えている問題あるいは課題について差し支えがない範囲で記述して下さい。なお教職員の就業についての規程（就業規則、給与規程等）を訪問調査の際にご準備下さい。

現在、特に問題点と認識しているものはない。

- ◆ 参考資料(72) 「学校法人村崎学園職員服務規程（就業規則）」
- ◆ 参考資料(108) 「職員給与規程」

(2) 法人（理事長及び理事会等）と短期大学教職員の関係について、できれば理事長及び学長がそれぞれ記述して下さい。

<理事長の見解>

理事長は、学校法人村崎学園寄附行為の定めるところにより、学校経営の最高責任者として、本学運営に係る重要事項の決定に責任を負わなければならない。そのためには常に、本学のあるべき姿、現状を把握していなければならない。その一環として本学教職員についても理解していなければならないことは言うまでもない。

本学では毎月、定例的に「部局長会」を開催しているが、これは全学的意思疎通、共通理解を目的とするもので、「部局長会規程」に基づき、大学・短期大学の教学、事務の各部門責任者が会合し、担当部局の現状、問題点を出し合って協議している。理事長は、毎回出席し、協議に参加することによって、大学・短期大学の現状、教職員の状況についても充分把握し、理解することができる。

また、入学式、卒業式等の学校行事や、受験生への説明会、オープンキャンパス、保護者会等を開催した場合、終了後、反省会を行っているが、理事長は、その会に必ず出席し、教職員と膝を交えて話し合うことにしている。こうした機会を通じて、教職員個々とも互いに理解を深めあうことができる。

<学長の見解>

学校法人村崎学園の就業規則、職員給与規程、職制などに定める通り、理事会は学園の制度と規則の下で、教職員の業務環境整備に努めている。また、それぞれとの意思疎通の円滑化についても十分留意している。

具体的には、学長は毎月開催される「部局長会」を主宰し、教員及び職員の幹部と協議している。学内の各種委員会は学長を委員長とするものも多い。オンライン学務システム、教育・研究年報、教員活動報告等により、教員個人及び学科、学部の活動状況を学長は把握できる。また、学生・教職員からの学長宛の訴え・提案を「提案箱」を通じて受け取る仕組みがある。さらに、学長と学部長の意思疎通の場である「学部長懇談会」及び、学長と事務職員幹部との意思疎通の場である「ユニット長等懇談会」を毎月開催している。これらの仕組みにより、学長は短期大学教職員の考えや活動状況を把握するようにしている。

その上で、学長は、毎月開催される法人理事会において、教職員の意見を代表して発言している。また、法人と教学の代表者（法人側は、理事長、事務局長、経理部長、総務部長。教学側は、学長と二人の副学長）による「大学運営懇談会」を原則として毎月開催して、法人と短期大学教職員の意思疎通を図っている。

なお、法人の理事長は、学園長かつ副学長を兼務しているため、部局長会と合同教授会のメンバーであることから、法人と短期大学の意思疎通は十分に図られている。

法人と教職員が共に、協力して大学運営にあたっている。

(3) 教員と事務職員との関係について、できれば学科長等及び事務局長がそれぞれ記述して下さい。

＜短期大学部長の見解＞

学校組織における教員と事務職員との関係はよく車の両輪に喩えられているが、まさに今日の学校運営の厳しい状況の中において、この関係はより重要になってくる。本学では、事務職員のほとんどが本学の卒業生であり、教員と事務職員とは強い信頼関係で結ばれている。

＜事務局長の見解＞

短期大学が、学生から支持され社会に貢献できるためにも、教員及び事務職員はお互いを信頼し協働することが必要である。

教員と事務職員は、共に学生の勉学と生活全般にわたるサポートを連携しながら行っている。学科の事情に精通したスタッフがそれぞれの担当として教員と学生の橋渡しとなっている。このように、教員と事務職員が連携することにより、学生に対して細やかなサポートができています。

(4) 教職員の健康管理、就業環境の改善、就業時間の順守等の現状を率直に記述して下さい。

健康管理については、毎年5月に定期健康診断を実施しており、平成21年度の実診率は約80%であった。検診の結果は、本人に通知しているが、異常所見がみられる者には2次検査を受診するよう連絡している。

学園では教職員の安全と健康の保持増進を図ることを目的として、安全保健衛生管理規程を定め、理事長の命を受け、衛生管理者・産業医などを任じている。これらの職責者に加え、教職員の代表者を含めた衛生委員会を定期的に開催し、就業環境の改善に係る問題の解決に当たっている。また、施設設備について、就業環境上に問題が生じた場合には、施設サプライグループが適宜必要な措置を講じている。

職員の就業時間については、就業規則に始業終業時刻、休憩時間などの勤務時間を定めている。

超過勤務などを含む職員の就業時間は日々所属長の責任の下に現認によって適正に管理している。教員の勤務についてはキャンパスカードによって出校記録を作成し、月ごとに所属長が点検管理をしている。

◆参考資料(72) 「学校法人村崎学園職員服務規程（就業規則）」

◆参考資料(109) 「安全保健衛生管理規程」

【特記事項について】

(1) この《Ⅷ管理運営》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、管理運営について努力していることがあれば記述して下さい。

短期大学を取り巻く状況は厳しさを増しており、教学における取り組みと共に管理運営においても機敏な対応が求められる。3年前に行った事務組織の変更は、教学と共に考え、素早く実行に移すために必要な取り組みであり、それぞれの部署においてスキルアップを図り、より良い教育と研究の環境づくりに努力している。

(2) 特別の事由や事情があり、評価項目や評価の観点が求めることが実現（達成）できないときはその事由や事情を記述して下さい。

特記事項なし。

Ⅹ 財 務

【財務運営について】

(1) 学校法人もしくは短期大学において「中・長期の財務計画」を策定している場合は、計画の名称、策定した経緯等を簡潔に記述して下さい。なお中・長期の財務計画は訪問調査の際に参考資料として拝見いたしますのでご準備下さい。

本学他、法人の経営する各学校の教育・研究企画ならびに法人本部各部の事業計画に基づいて年度単位の財務的見積作業を行い、将来5年間にわたる全体の中期財務計画を経理部において作成している。

また理事会の経営方針、決定事項等を、その都度中期財務計画に反映させ、財務計数の動向を把握している。

◆参考資料(110) 「学校法人村崎学園中期財務計画」

(2) 学校法人及び短期大学の毎年度の事業計画及び予算決定に至る過程、手続きを簡潔に記述して下さい。

事業計画案と予算案編成作業については、各部署から提出された特別予算を審査し、それに各部署の人数等に基づいた基礎計数（経常予算）をあわせて事業ならびに予算の原案を作成する。この事業計画原案と予算原案を3月下旬開催する理事会で決定する。

(3) 決定した予算の短期大学各部門への伝達方法、予算執行に係る経理、出納の業務の流れを必要な承認手続きを含めて簡潔に記述して下さい。なお経理規程等の財務諸規程について、整備している規程名を列記して下さい。財務諸規程は訪問調査の際に参考資料として拝見いたしますのでご準備下さい。

理事会で予算が決定された後、法人本部経理部より短期大学部長に通知され、各部署に周知される。本学は電子決裁システムを導入しており、各部署・各人予算が経費支出に伴い差引されていくことになる。支出決裁権限は、本学の職位に応じて5万円未満、10万円未満の金額内で付与されている。10万円以上については全て法人本部の決裁が必要である。1件ないしは1連の金額が100万円以上の場合は、事前伺いにより法人本部と協議することとなっている。見積書、発注、納品等は施設・サプライグループが担当し、支払は法人本部経理部で実施する。

◆参考資料(36) 「物件の調達管理取扱規程」

◆参考資料(103) 「支出決裁権限規程」

◆参考資料(111) 「経理規程（同施行細則）」

◆参考資料(112) 「学費等収納事務取扱規程」

◆参考資料(113) 「資産運用内規」

◆参考資料(114) 「旅費支給規程」

(4) 過去 3 ヶ年（平成 19 年度～21 年度）の公認会計士監査状況の概要を開催日順に記述して下さい。公認会計士の監査と監事がどのように連携しているか、また公認会計士から指摘を受けた事項があれば、その対応について記述して下さい。

公認会計士監査時には、監事も立会し意見の交換など常に意思疎通が図られている。公認会計士の指摘事項はない。

＜公認会計士による監査実施状況（平成 19 年度～21 年度）＞

平成 19 年度				平成 20 年度				平成 21 年度				備考
年	月	日	概要	年	月	日	概要	年	月	日	概要	
19	7	10 ～ 11	月次決算監査	20	7	15 ～ 16	月次決算監査	21	7	14 ～ 15	月次決算監査	
19	9	11 ～ 12	月次決算監査	20	9	17 ～ 18	月次決算監査	21	9	15 ～ 16	月次決算監査	
19	11	13 ～ 14	月次決算監査	20	11	11 ～ 12	月次決算監査	21	11	17 ～ 18	月次決算監査	
19	1	16 ～ 17	月次決算監査	21	1	14 ～ 15	月次決算監査	22	1	19 ～ 20	月次決算監査	
20	2	14 ～ 15	月次決算監査	21	2	17 ～ 18	月次決算監査	22	2	16 ～ 17	月次決算監査	
20	4	15 ～ 16	期末監査	21	4	23 ～ 24	期末監査	22	4	13 ～ 14	期末監査	
20	5	13 ～ 15	決算監査	21	5	14 ～ 18	決算監査	22	5	11 ～ 13	決算監査	
20	6	3	19 年度会計年度 決算監査報告	21	6	2	20 年度会計年度 決算監査報告	22	6	4	21 年度会計年度 決算監査報告	

(5) 財務情報の公開は今までどのように行ってきたか、また私立学校法第 47 条第 2 項に基づき、財務情報の公開をどのように実施しているか。それぞれの概要を記述して下さい。

私立学校法の改正を受けて、平成 16 年度の財務情報から公開した。16 年度は、学園本部事務室に公開資料を備え付けて閲覧に供した。平成 17 年度以降の財務情報は、学内誌「徳島文理大学通信」にも掲載し、学生、卒業生、教職員、保護者等に配布している。平成 19 年度からはさらにホームページでも公開して、広く一般社会にも閲覧が可能となるようにした。

(6) 寄附行為に基づき、どのような基本方針で資金等の保有と運用を考えているか簡潔に記述して下さい。なお資金等の保有と運用に関する規程等が整備されていれば、訪問調査の際に参考資料として拝見いたしますのでご準備下さい。

寄附行為第五章の各条項の趣旨に則り、資金等の保有と運用を行っている。施設の円滑な更新と教職員への確実な退職金支払を担保すべく、減価償却資産買替引当特定資産と退

職給与支払引当特定資産の積み増しを重要項目と考えている。

従来、本学園は銀行預金を主体に資金の運用を行ってきた。しかしながら金融再編後の近時は金融機関の情報開示も進み、資金運用メニューも豊富になってきたことから、外部資金源多様化の観点から資金運用の範囲を多様化させた。リスクマネジメントについては「資金運用内規」を順守して安全性確保を第一としている。なお、資金全般については適正な流動性を確保するなど、ポートフォリオ（資産配分）に十分留意している。

◇添付資料⑫ 「学校法人村崎学園寄附行為」(p.7-p.8)

◆参考資料(113) 「資産運用内規」

(7) 寄附金・学校債の募集を行っていただければその概要を記述して下さい。なお寄附金・学校債の募集についての印刷物等を訪問調査の際に参考資料としてご準備下さい。

新入生、在学生等に対して寄附金の募集はしない。また、学債の募集も行っていない。寄附金として主なものには、卒業生による卒業記念寄附金、研究助成としての奨学寄附金ならびに寄附講座、そして受配者指定寄附金等の実績がある。

【財務体質の健全性と教育研究経費について】

(1) 過去3ヶ年（平成19年度～21年度）の資金収支計算書・消費収支計算書の概要を、別紙様式1にしたがって作成し、添付して下さい。

◇添付資料⑬ 「過去3ヶ年(平成19年度～21年度)の収支計算書の概要」(別紙様式1)

(2) 学校法人の貸借対照表の概要（平成22年3月31日現在）を、別紙様式2にしたがって作成し、添付して下さい。

◇添付資料⑭ 「平成21年度末の貸借対照表概要」(別紙様式2)

(3) 財産目録及び計算書類（資金収支計算書、資金収支内訳表・人件費支出内訳表・消費収支計算書・消費収支内訳表・貸借対照表・固定資産明細表・借入金明細表・基本金明細表）について、過去3ヶ年（平成19年度～21年度）分を訪問調査の際に参考資料としてご準備下さい。

◆参考資料(115) 「財産目録及び決算報告書」一式

(4) 過去3ヶ年（平成19年度～21年度）の短期大学における教育研究経費比率（消費収支計算書の教育研究経費を帰属収入で除した比率）を、小数点以下第2位を四捨五入し第1位まで求め記述して下さい。

＜教育研究経費比率（平成19年度～21年度）＞

区 分	平成19年度	平成20年度	平成21年度
教育研究経費 (a)	240,244千円	217,930千円	218,598千円
帰属収入 (b)	700,130千円	638,379千円	513,624千円
教育研究経費比率 (a)/(b)	34.3%	34.1%	42.6%

【施設設備の管理について】

(1) 固定資産管理規程、図書管理規程、消耗品及び貯蔵品管理規程等、施設設備等の管理に関する諸規程を、財務諸規程を含めて一覧表として示して下さい。なお整備した諸規程を訪問調査の際に参考資料としてご準備下さい。

＜管理に関する諸規程＞

学内施設使用規程	経理規程（同施行細則）
施設・設備等使用規程	学費等収納事務取扱規程
車輛管理規程	物件の調達管理規程
図書館利用規程	資産運用内規
教職員の館外貸出内規	支出決裁権限規程
守衛服務規程	旅費支給規程

- ◆参考資料(35) 「図書館利用規程」
- ◆参考資料(36) 「物件の調達管理取扱規程」
- ◆参考資料(103) 「支出決裁権限規程」
- ◆参考資料(111) 「経理規程（同施行細則）」
- ◆参考資料(112) 「学費等収納事務取扱規程」
- ◆参考資料(113) 「資産運用内規」
- ◆参考資料(114) 「旅費支給規程」
- ◆参考資料(116) 「学内施設使用規程」
- ◆参考資料(117) 「施設・設備等使用規程」
- ◆参考資料(118) 「車輛管理規程」
- ◆参考資料(119) 「教職員の館外貸出内規」
- ◆参考資料(120) 「守衛服務規程」

(2) 火災等の災害対策等、以下の危機管理対策について現状を簡潔に記述して下さい。

- ①火災等の災害対策
- ②防犯対策
- ③学生、教職員の避難訓練等の対策
- ④コンピュータのセキュリティ対策
- ⑤省エネ及び地球環境保全対策
- ⑥その他

「防災規程」「危機管理規程」により、以下のような対策を講じている。

①火災等の災害対策

消防法の趣旨を周知徹底し、自衛消防隊の編成、火元取締責任者の明確化、所轄消防署と連携した防火並びに避難訓練の実施など万全の体制がとられている。また学校法人村崎学園緊急連絡網を定めており、自然災害から事故の発生に至るまで迅速に対応できている。

②防犯対策

平日は、校内主要出入りに守衛を配して不審者の侵入を監視している。外来者には外来用IDカードを交付して適宜呈示を求めることにしている。学内主要施設は入退館チェックシステムで管理されており、正当な権限を付されたIDカードによってのみ出入りが

できるようになっている。また、夜間を問わず守衛、警備員により適時巡回が行われており、事故や犯罪などの防止に努めている。

また、各門衛所には防犯カメラを設置している。

③学生、教職員の避難訓練等の対策

学生、教職員の避難訓練は毎年 12 月に定例行事として全員参加で実施され、消防署による消火訓練の実施、AEDの実演など万々に備えて熱心に行われている。

④コンピュータのセキュリティ対策

学内ネットワークには最高レベルのセキュリティシステムが施され、また災害時に備えて徳島・香川両キャンパス二重化によるサーバ環境対策がとられている。一方、「情報セキュリティ実践の手引き」を全教職員に配布して周知するなどセキュリティマインドの向上にも努めている。

⑤省エネ及び地球環境保全対策

エネルギー節約など地球環境保全は、これからの新社会人である学生達が身に付けるべき必須の理念であり、真の意味での教育研究環境整備につながるものと認識している。学内原則禁煙、過度の冷暖房見直し、廃棄物の選別徹底など全学で取り組んでいる。国による「平成 17 年度先導的負荷平準化機器導入普及モデル事業」の認定をその象徴として受け止めている。

◆参考資料(61) 「情報セキュリティ実践の手引き」

◆参考資料(106) 「防災規程」

◆参考資料(107) 「危機管理規程」

【特記事項について】

(1) この《IX財務》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、財務管理について努力していることがあれば記述して下さい。

特記事項なし。

(2) 特別の事由や事情があり、評価項目や評価の観点が求めることが実現（達成）できないときはその事由や事情を記述して下さい。

特記事項なし。

X 改革・改善

【自己点検・評価について】

(1) 短期大学では自己点検・評価を、短期大学の運営のなかでどのように位置づけているか、また自己点検・評価を実施するための組織、規程等の整備状況を記述して下さい。また今後、自己点検・評価をどのように実施しようと考えているかについても記述して下さい。

本学では、平成4年に自己点検・自己評価に関する規程を設けた。さらに、平成19年10月に、学則第75条に基づき、徳島文理大学短期大学部「自己点検・評価に関する規程」を改訂した。自己点検・評価は、本学が「自立協同」の建学精神に則り、高等教育機関としての社会的使命を果たしているか、また教育の質の維持と向上に努めているかを教職員自らが問い直し、大学運営の改革・改善に生かしていく重要な活動であると位置付けている。

「自己点検・評価に関する規程」第2条に基づき、自己点検・評価委員会を設置している。自己点検・評価委員会は、学長、副学長、事務局長、短期大学部長、各学科長、本部総務部長、企画部長、経理部長、スーパーバイザーズ・オフィス長、ユニット長、アドミッションズ・オフィス長、情報センター長により構成されている。また、委員会の下に、管理運営部会、教育研究部会、学生支援部会、教職員部会、財務施設部会、学外活動部会の六つの専門部会を設け、活動を行っている。

今後も多様な観点から教育の現場を点検し、改革・改善を進め、新たな試みを導入することにより、本学の高等教育機関としての教育研究水準の向上を図り、社会的使命を達成していくためにも、自己点検・評価活動を推進していきたいと考えている。

◆参考資料(94) 「自己点検・評価に関する規程」

(2) 過去3ヶ年（平成19年度～21年度）の自己点検・評価報告書の発行状況を記述して下さい。またその報告書の配付先の概要を記述して下さい。なお過去3ヶ年（平成19年度～21年度）にまとめられた自己点検・評価報告書を訪問調査の際にご準備下さい。

自己点検・評価活動の一環として、「教育・研究年報」「学生による授業評価－学生アンケートに基づく分析－」「新入生アンケート報告書」「卒業生に対する満足度調査－学生アンケートに基づく分析－」を発行し、教員全員に配付している。

◆参考資料(11) 「平成21年度学生による授業評価－学生アンケートに基づく分析－」

◆参考資料(13) 「平成21年度新入生アンケート報告書」

◆参考資料(14) 「平成21年度卒業生に対する満足度調査－学生アンケートに基づく分析－」

◆参考資料(28) 「教育・研究年報」2007年

◆参考資料(29) 「教育・研究年報」2008年

◆参考資料(30) 「教育・研究年報」2009年

【自己点検・評価の教職員の関与と活用について】

(1) 平成 21 年度までに行った自己点検・評価に関わった教職員の範囲を記述して下さい。また今後、どのような教職員の関わり方が望ましいと考えているかを記述して下さい。

現在は、「自己点検・評価に関する規程」で定められた自己点検・評価委員会の下に設けられた六つの専門部会を中心にして、教育研究活動などについて自己点検・評価活動を進めている。教職員個人や所属部署などの立場に応じて、その活動に関わっているが、当該報告書をまとめるにあたっては、自己点検・評価専門部会、点検項目に関わる学科・委員会・事務部署の責任者が主たる担当となっている。担当責任者以外の教職員は、データ及び原稿作成の段階で、所属する学科・事務部署などを通じて点検・評価活動に関与している。また、各学期末の学生による授業評価は、全ての専任教員を対象として実施しており、年 4 回行われる研究授業は、本学の教員全てに公開して実施されている。

平成 19 年度に改訂した「自己点検・評価に関する規程」は、教学関係だけでなく事務部局も含めた点検・評価を行うためのものであり、学長の下に一元的な組織体制を構築して、自己点検・評価の実施及び第三者評価の諸準備を進めている。今後とも全教職員が自己点検・評価活動に関わることにより、抱える課題を共有し、改革・改善に向けて努力していきたい。

(2) 平成 21 年度までに行った自己点検・評価結果の活用についてその実績を記述して下さい。また今後、自己点検・評価の結果をどのように活用しようと考えているかについても記述して下さい。

平成 6 年「自己点検・評価項目の策定と事例研究報告」・「シラバス（授業評価）作成のための自己点検システムと意識調査」、平成 7 年「教育効果をあげるための授業計画に関する意識調査」、平成 10 年「大学活性化のための自己点検・自己評価」、さらに、平成 15 年に「徳島文理大学短期大学部の現状と課題－自己点検・評価報告書－」を作成し、全教職員に配布した。今後は、自己点検・評価の結果を十分に活用すべく、各学科・各事務部署において改善に向けて検討すると同時に、教職員研修会を開きその結果を検討テーマとして討論することを通じて認識を深め、全学的な取り組みとなるよう努力したいと考えている。

- ◆参考資料(121) 「自己点検・評価項目の策定と事例研究報告」
- ◆参考資料(122) 「シラバス（授業評価）作成のための自己点検システムと意識調査」
- ◆参考資料(123) 「教育効果をあげるための授業計画に関する意識調査」
- ◆参考資料(124) 「大学活性化のための自己点検・自己評価」
- ◆参考資料(125) 「徳島文理大学短期大学部の現状と課題－自己点検・評価報告書－」

【相互評価や外部評価について】

(1) 平成 21 年度までに行った相互評価及び外部評価の概要を示し、評価結果の活用についてその実績を記述して下さい。

現在、本学では、自己点検・評価の充実に努めている段階であるため、相互評価及び外部評価は行っていない。

(2) 相互評価や外部評価を実施するための組織、規程等の整備状況を記述して下さい。また今後、相互評価や外部評価をどのように実施しようと考えているかについても記述して下さい。

現在は、認証評価機関による第三者評価を受けることに全学的に取り組むための組織作りと担当部署となる自己点検・評価専門部会を立ち上げ、順次点検・評価を行ってきた。本学がさらに高等教育機関としての教育研究の向上を図ると共に、社会的使命を果たし地域社会に貢献するためには、他大学との相互評価や外部評価も必要であると認識している。第三者評価の結果に対し必要な対応を行った後、次のステップとして検討したい。

【第三者評価（認証評価）について】

(1) 第三者評価を実施するための学内組織の概要を記述して下さい。

「自己点検・評価に関する規程」第 2 条に基づき、学長、副学長、事務局長、短期大学部長、各学科長、本部総務部長、企画部長、経理部長、スーパーバイザーズ・オフィス長、ユニット長、アドミッションズ・オフィス長、情報センター長により構成される自己点検・評価委員会を設置している。さらに、自己点検・評価委員会の下に、管理運営部会、教育研究部会、学生支援部会、教職員部会、財務施設部会、学外活動部会の六つの専門部会を設け、活動を行っている。

◆参考資料(94) 「自己点検・評価に関する規程」

(2) 第三者評価に当たって短期大学の決意を述べて下さい。理事長、学長、各部門の長及び ALO（第三者評価連絡調整責任者）がそれぞれ記述されても結構です。

<学長の見解>

本学では、「Ⅲ 教育の実施体制」で述べたように、教育研究活動の改善のための P D C A サイクルが稼働するための仕組みを過去数年間で築き上げてきた。その結果、教職員の意識は確実に変わってきており、成果も徐々にではあるが、上がりつつあると認識している。しかしながら、短期大学を取り巻く環境はそれ以上のスピードで変化しており、私どもは改革を更に加速する必要があると考えている。現時点で、教育研究活動改善への取り組みを第三者の視点からチェックしていただくことは、大変ありがたい機会であり、心して、受審したいと考えている。

自己点検・評価は、本学が「自立協同」の建学精神に則り、高等教育機関としての社会的使命を果たしているか、また教育の質の維持と向上に努めているかを教職員自らが問い直し、大学運営の改革・改善に生かしていく重要な活動であると位置付けている。本学は、平成 22 年度に短期大学基準協会の第三者評価を受けることを決め、自己点検・評価委員

会の下に設けられた六つの専門部会を中心として、自己点検・評価活動を進めてきた。「自己点検・評価報告書」を作成する過程の中で、短期大学として短期大学基準協会が求めている「第三者評価」の評価基準や評価項目に対して、改善や改革の必要性があることを認識させられた。教職員全員が、これまで以上に「学生あつての大学」、「一人ひとりの学生の成長を支援し、付加価値を高めて送り出す」という意識を共有し、地域社会から信頼される大学づくりを進めることが大切である。今後も多様な観点から教育の現場を点検し、改革・改善を進め、本学の高等教育機関としての社会的使命を達成していくためにも、自己点検・評価活動を推進していきたいと考えている。

【特記事項について】

(1) この《X改革・改善》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、例えば評価に関する教職員への研修の実施等、当該短期大学が改革・改善について努力していることがあれば記述して下さい。

平成 22 年に短期大学基準協会の評価を受けることが決まり、自己点検・評価委員会主導のもとに、同協会の評価項目及び評価の観点などについて教授会で全員に周知させた。さらに、各専門部会において、それぞれの領域に関して専門分野ごとに議論を深め、認識を高めてきた。

(2) 特別の事由や事情があり、評価項目や評価の観点が求めることが実現（達成）できないときはその事由や事情を記述して下さい。

特記事項なし。

** 将来計画の策定（自由記述）

この「将来計画の策定」は自由記述です。したがって、必ずしも記述する必要はありません。しかし短期大学の現在を理解するためには、将来どのような方向に向かおうとしているのかを知ることも重要です。その意味で、短期大学の将来計画（中期・長期計画）がありましたら、差し支えのない範囲で記述して下さい。

<学長の見解>

めまぐるしく変化する現代社会において、二年間で教育が完結しその実績を示し、社会の評価を仰ぐことができることは短期大学の大きなメリットである。したがって、短期大学こそ大学教育改革の先頭に立ち、現代の高等教育をリードする牽引車の役割を担える機関である。

18歳人口の減少や、高校生の四年制大学志望者の増大などにより、我が国では、短期大学の衰退が著しいが、世界に目を向けると欧米諸国では短期大学（及び、それに相当する高等教育機関）は繁栄している。それらの国では、短期大学は、社会人の学び直し（新しい職能・技術を短期間で身につけることができる）教育機関としての役割を果たしている。現代社会では、ある一つの職業が生涯にわたって社会的価値を発揮し続けることは難しく、何度か職業を変えざるを得ないケースが増大すると考えられる。このときに、2年間という短期間で時代の要請に応じた新しい職業教育を実施できる短期大学は、4年以上の教育期間を必要とする大学よりも需要が高いと考えられる。

この意味で、本学が打ち出している「キャリア短大」の方向は、18歳年齢の若者を対象とするだけでなく、近未来的には社会人の再教育という時代の要請に沿うものである。短期間の実践的職業教育は各種専門学校でも提供しているが、現代の多くの専門的職能は、高度に発展した学問的基礎の上に築かれたものが多く、専門学校では十分な対応は困難であろう。その点で、本学のように、四年制大学や大学院の教員組織を背景に有する短期大学は、高度な職業教育を教授する上で、大きい利点を有するものと考えている。

世界的に見られる、短期大学のもう一つの大きい特徴は地域密着性である。実際、本学の場合も、入学者のほとんどが徳島県及び四国圏内出身者であり、卒業後の就職も地元を希望する者が多い。したがって、短期大学における人材養成のキーワードは「地域共創」である。そこで、本学は、地域の企業経営者、及び、地方自治体と連携して、「人材養成における産学官連携」を一層推進しようとしている。地域振興方策と同時並行的に、地域が真に必要とする人材の要件を産学官で議論し、それを取り入れた教育カリキュラムを開発する予定である。そのため、「地域人材養成産学官連携協議会（仮称）」の設置を構想中である。本学のメディアセンタービル最上階には、産学官連携協同研究室のスペースが既に確保しており、本構想が実現した時には、ここに「地域人材養成産学官連携協議会（仮称）」事務局を置く予定である。

平成 21 年度 教育課程

生活科学科生活科学専攻 教育課程

科目の種別	授業科目	授業形態			単位			教員配置			前年度の履修人員 (クラス数)	備考		
		講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任				
専門教育科目	ライフサイエンスフィールド	生活科学ユニット	生活科学論	○			2			○		21(1)		
			衣生活論	○			2			○		22(1)		
			食生活論	○			2				○		21(1)	
			住居学	○			2					○	22(1)	
		ライフコアユニットⅠ	家庭経済学	○				2				○	11(1)	
			環境科学	○				2						
	ライフコアユニットⅡ	救急処置及び看護法	○				2							
		育児学	○				2							
	ファッションフィールド	ファッションビジネスユニット	家族関係	○			2				○	4(1)		
			ファッションビジネス論	○				2						
			ファッションデザイン論	○				2						
			服飾史	○				2		○			11(1)	
		ファッション造形ユニットⅠ	生活美学(被服デザインを含む)	○				2		○			3(1)	
			アパレルCAD	○				2						
			ファッション造形論	○				2		○			3(1)	
			服飾工芸実習			○		2		○			5(1)	
		ファッション造形ユニットⅡ	被服整理学	○				2				○	6(1)	
			被服材料学	○				2				○	1(1)	
	被服構成学実習Ⅰ				○		2				○	7(1)		
	被服構成学実習Ⅱ				○		2				○	10(1)		
アートクラブフィールド	アートクラブユニットⅠ	被服構成学	○			2			○		1(1)			
		卒業制作(ファッションデザイン)		○			2		○			2(1)		
		デッサン		○			2		○			15(1)		
		グラフィックデザインⅠ(造形論を含む)		○			2		○			15(1)		
	アートクラブユニットⅡ	陶芸Ⅰ		○			1				○	15(1)		
		彫塑		○			2				○	2(1)		
		デッサンⅡ		○			2		○			12(1)		
		グラフィックデザインⅡ		○			2		○			4(1)		
		陶芸Ⅱ		○			1		○			12(1)		
		卒業制作(絵画)		○			2		○			4(1)		
コンピュータグラフィックユニット	卒業制作(陶芸)		○			2				○	6(1)			
	CGⅠ		○			2				○	17(1)			
	CGⅡ		○			2				○	12(1)			
	卒業制作(CG)		○			2				○	12(1)			
住居インテリアフィールド	住居ユニットⅠ	CAD製図		○			2			○	8(1)			
		住宅設計製図Ⅰ		○			2			○	7(1)			
		住宅設計製図Ⅱ		○			2							
	住居ユニットⅡ	住宅設備	○				2							
		住宅構造学	○				2							
	住居ユニットⅢ	住宅材料学	○				2				○	1(1)		
		構造力学	○				2							
	インテリアユニットⅠ	住宅施工	○				2							
		建築法規	○				2							
	インテリアユニットⅡ	インテリアデザイン	○				2				○	4(1)		
住生活環境学		○				2								
カラーコーディネートユニット	生活空間論	○				2				○	4(1)			
	生活空間デザイン	○				2								
	木工デザイン		○			2				○	4(1)			
	色彩学	○				2			○		20(1)			
パティシエフィールド	洋菓子ユニット	カラーコーディネート検定対策講座	○			2			○		5(1)			
		色彩と表現		○			2			○		4(1)		
		洋菓子基礎実習Ⅰ		○			2				○	17(1)		
		洋菓子基礎実習Ⅱ		○			2				○	14(1)		
	和菓子ユニット	洋菓子応用実習Ⅰ		○			2				○	14(1)		
		洋菓子応用実習Ⅱ		○			2				○	14(1)		
		和菓子基礎実習Ⅰ		○			2				○	15(1)		
		和菓子基礎実習Ⅱ		○			2				○	13(1)		
		和菓子応用実習Ⅰ		○			2				○	14(1)		
		和菓子応用実習Ⅱ		○			2				○	14(1)		
販売士フィールド	販売士ユニット	商品学	○				2			○	1(1)			
		マーケティング	○				2			○		19(1)		
健康・福祉フィールド	健康ユニット	家庭看護学	○				2				○	3(1)		
		予防医学	○				2				○	6(1)		
		リハビリテーション論	○				1				○	4(1)		
		ケアマネジメント技術			○		1				○	3(1)		
	福祉ユニット	社会福祉制度政策論	○				2				○	3(1)		
		障害者福祉論	○				2				○	2(1)		
		介護概論	○				1			○	1(1)			

科目の種別			授業科目	授業形態			単位			教員配置			前年度の履修人員(クラス数)	備考				
				講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任						
専門教育科目	健康・福祉フィールド	介護演習ユニット	介護実技			○		2					○	5(1)				
			施設介護実習			○		1						○	1(1)			
	健康・福祉フィールド	医療事務ユニット	医療秘書概論	○				2						○	20(1)			
			医療事務総論	○				2						○	17(1)			
			医療事務各論	○				2							○	17(1)		
		医学基礎ユニット	薬理概論	○				2							○	11(1)		
			解剖生理学	○				2							○	18(2)		
			公衆衛生学	○				2							○	19(1)		
	フーズベシャリストフィールド	フーズベシャリストユニットⅠ	看護学Ⅰ	○				2							○	11(1)		
			栄養学Ⅰ	○				2					○		5(1)			
			食品学	○				2							○	1(1)		
			調理学	○				2							○	11(1)		
		フーズベシャリストユニットⅡ	調理学実習			○		2								○	13(1)	
			消費科学	○				2								○	3(1)	
			情報機器演習	○				2										
		フーズベシャリストユニットⅢ	フードコーディネート論	○				2								○	2(1)	
			食品学実験			○		1								○	2(1)	
			調理科学実験			○		1										
	食品加工学		○				2							○	2(1)			
	保健フィールド	保健科ユニットⅠ	食品衛生学実験			○		1										
			食品衛生学	○				2								○	8(1)	
			学校保健	○				2										
			養護概説	○				2								○	2(1)	
		保健科ユニットⅡ	衛生学	○				2										
			栄養学Ⅱ	○				2										
			生理学	○				2								○	2(1)	
			健康相談活動	○				2								○	3(1)	
疾病予防及び看護法			○				2											
微生物学			○				2											
看護フィールド	看護ユニットⅠ	精神保健学	○				2							○	1(1)			
		看護学Ⅱ	○				2							○	3(1)			
	看護ユニットⅡ	免疫学	○				2								○	2(1)		
		看護学Ⅲ	○				2							○	1(1)			
		看護学Ⅳ(臨床実習を含む)			○		2								○	1(1)		

言語コミュニケーション学科 教育課程

科目の種別			授業科目	授業形態			単位			教員配置			前年度の履修人員(クラス数)	備考				
				講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任						
専門教育科目	ベーシックフィールド	コアユニット	言語とコミュニケーション	○			2							○	16(1)			
			文学入門	○			2								○	16(1)		
	日本語・日本文化フィールド	日本語コミュニケーションユニットⅠ	日本語の語法	○				2							○	13(1)		
			日本語概説Ⅰ	○				2							○	3(1)		
			日本語表現法Ⅰ	○				2							○	16(1)		
			人とことば(言語学概説)	○				2							○	18(1)		
		日本語コミュニケーションユニットⅡ	日本語概説Ⅱ	○				2							○	8(1)		
			日本語表現法Ⅱ	○				2							○	21(1)		
			日本文学A(詩歌)	○				2								○	11(1)	
		日本の文学ユニットⅠ	日本文学C(物語Ⅰ)	○				2								○	14(1)	
			日本文学史Ⅰ	○				2								○	16(1)	
			日本文学B(小説)	○				2								○	18(1)	
			日本文学史Ⅱ	○				2								○	15(1)	
		日本の文化ユニットⅠ	日本文化論	○				2								○	13(1)	
			俳句入門	○				2								○	14(1)	
			書道及び書道史Ⅰ	○				2										
	中国文学A(中国の詩文)		○				2											
	日本の演劇		○				2								○	8(1)		
	日本の文化ユニットⅡ	歴史と文化(日本)	○				2								○	5(1)		
		書道及び書道史Ⅱ	○				2											
		中国文学B(漢字と中国文化)	○				2											
		TOEIC・英検対策Ⅰ	○				2								○	4(1)		
	英語・英会話フィールド	英語資格対策ユニットⅠ	英語の語法Ⅰ	○				2								○	14(1)	
			リーディングⅠ	○				2								○	3(1)	
			ライティング	○				2								○	14(1)	
			TOEIC・英検対策Ⅱ	○				2								○	6(1)	
		英語資格対策ユニットⅡ	英語の語法Ⅱ	○				2								○	5(1)	
リーディングⅡ			○				2								○	12(1)		
スピーキング			○				2								○	13(1)		

科目の種別		授業科目	授業形態			単位			教員配置			前年度の履修人員(クラス数)	備考		
			講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任				
専門教育科目	英語・英会話フィールド	英語コミュニケーションユニットⅠ	英会話(オーラルコミュニケーション)Ⅰ	○				2				○	8(2)		
			英会話(オーラルコミュニケーション)Ⅱ	○				2				○	3(2)		
			リスニングⅠ	○				2		○				11(1)	
			インターネットの英語	○				2							
		英語コミュニケーションユニットⅡ	英会話(オーラルコミュニケーション)Ⅲ	○				2					○	16(1)	
			英会話(オーラルコミュニケーション)Ⅳ	○				2					○	12(1)	
			リスニングⅡ	○				2		○				3(1)	
			英米文化論	○				2					○	16(1)	
			国際社会と日本	○				2					○	16(1)	
			異文化間コミュニケーション	○				2					○	16(1)	
	異文化理解ユニット	英語学概説Ⅰ	○				2		○				4(1)		
		英米文学A(小説)	○				2		○				5(1)		
		英米文学B(ドラマ)	○				2					○	14(1)		
		英米文学C(詩)	○				2								
	英語圏の文化ユニット	英語学概説Ⅱ	○				2								
		観光サービスⅠ(ガイド論)	○				2					○	4(1)		
	観光フィールド	観光実務ユニット	観光サービスⅡ(ホテル論)	○				2							
			観光英語	○				2							
			プレゼンテーション概論	○				2		○				16(1)	
	プレゼンテーションフィールド	プレゼンテーションユニット	プレゼンテーション演習Ⅰ		○			2		○				15(1)	
プレゼンテーション演習Ⅱ				○			2				○		22(1)		
情報機器利用プレゼンテーション演習				○			2		○				22(1)		
情報機器演習			○				2				○		18(1)		
情報ユニット		情報ネットワーク論	○				2				○		15(1)		

音楽科 教育課程

科目の種別		授業科目	授業形態			単位			教員配置			前年度の履修人員(クラス数)	備考		
			講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任				
専門教育科目	ベーシックフィールド	音楽基本ユニットⅠ	音楽理論Ⅰ(和声を含む)	○			2					○	13(1)		
			音楽理論Ⅱ(和声を含む)	○				2					○	12(1)	
			音楽史	○				2						5(1)	
			ソルフエージュⅠ			○		1					○	13(4)	
			ソルフエージュⅡ			○		1					○	8(4)	
			ソルフエージュⅢ			○		1					○	7(4)	
		音楽基本ユニットⅡ	ソルフエージュⅣ			○		1					○	9(4)	
			実技AⅠ			○		3		○				10(2)	
			実技AⅡ			○		3		○				12(2)	
			実技AⅢ			○		3		○				11(2)	
			実技AⅣ			○		3		○				16(2)	
			卒業研究			○		2		○				15(10)	
			音楽基本ユニットⅣ	実技BⅠ			○		1		○			13(2)	
			実技BⅡ			○		1		○				12(2)	
	音楽基本ユニットⅤ	実技BⅢ			○		1		○				11(2)		
		実技BⅣ			○		1		○				8(2)		
		音楽基本ユニットⅥ	実技CⅠ			○		1		○			23(2)		
		実技CⅡ			○		1		○				8(2)		
	音楽基本ユニットⅦ	実技CⅢ			○		1		○				10(2)		
		実技CⅣ			○		1		○				14(2)		
演奏ユニットⅠ		合奏A			○		1		○			16(2)			
合奏B				○		1		○				15(2)			
演奏フィールド	演奏ユニットⅡ	合奏C			○		1		○			11(2)			
		合奏D			○		1		○				13(2)		
	吹奏楽ユニット	吹奏楽演習A		○			1				○		5(1)		
		吹奏楽演習B		○			1				○		5(1)		
	室内楽ユニット	室内楽A			○		1					○	5(1)		
		室内楽B			○		1					○	3(1)		
	合唱ユニットⅠ	合唱A			○		1					○	2(1)		
		合唱B			○		1					○	8(1)		
		合唱C			○		1					○	5(1)		
		合唱D			○		1					○	10(1)		
ひろがりフィールド	ポピュラー音楽理論ユニット	ポピュラー音楽理論	○				2		○			12(1)			
		コンピュータ音楽Ⅰ	○				2		○				7(1)		
		コンピュータ音楽Ⅱ	○				2		○				8(1)		
	音楽創作ユニットⅠ	作曲法Ⅰ	○				2					○	11(1)		
		伴奏法Ⅰ	○				2					○	9(1)		
		指揮法	○				2					○	14(1)		
音楽創作ユニットⅡ	作曲法Ⅱ	○				2					○	17(1)			
	伴奏法Ⅱ	○				2					○	12(1)			

科目の種別			授業科目	授業形態			単位			教員配置			前年度の履修人員(クラス数)	備考		
				講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任				
専門 教育 科目	ひろがり フィールド	音楽ひろがり ユニット	比較音楽学	○				2					○	2(1)		
			音楽特講	○				2				○			15(1)	
		音楽鑑賞 ユニット	音楽鑑賞A	○				2						○	12(1)	
			音楽鑑賞B	○				2						○	13(1)	
			音楽教育 ユニット	教育原理	○				2					○	13(1)	
			音楽科教育法	○				2					○	15(1)		
	音楽療法 フィールド	音楽療法 ユニットⅠ	臨床心理学	○				2						○	12(1)	
			音楽心理学	○				2						○	9(1)	
			医学概論	○				2						○	11(1)	
			老年医学	○				2						○	9(1)	
			発達障害論	○				2						○	10(1)	
			ヒューマニズム論	○				2			○				13(1)	
			音楽療法概論Ⅰ	○				2			○				11(1)	
		音楽療法 ユニットⅡ	音楽療法概論Ⅱ	○				2			○				10(1)	
			音楽療法論臨床Ⅰ	○				2						○	10(1)	
			音楽療法論臨床Ⅱ	○				2						○	10(1)	
			音楽療法演習			○			2					○	30(1)	
			音楽療法実習			○			3					○	19(1)	

商科 教育課程

科目の種別			授業科目	授業形態			単位			教員配置			前年度の履修人員(クラス数)	備考		
				講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任				
専門 教育 科目	商科 ベーシック フィールド	商科 ベーシック ユニットⅠ	経済学Ⅰ	○			2						○	30(1)		
			経営学Ⅰ	○			2				○			20(1)		
			簿記論Ⅰ	○			2				○				32(1)	
			会計学Ⅰ	○			2				○				20(1)	
		商科 ベーシック ユニットⅡ	経済学Ⅱ	○				2			○				20(1)	
			経営学Ⅱ	○				2			○				20(1)	
			簿記論Ⅱ	○				2			○				30(1)	
			会計学Ⅱ	○				2			○				18(1)	
		商科 ベーシック ユニットⅢ	PC文書作成実習Ⅰ			○	1				○				32(1)	
			PC文書作成実習Ⅱ			○	1				○				30(1)	
			PCデータ活用実習Ⅰ			○	1					○			20(1)	
			PCデータ活用実習Ⅱ			○	1					○			20(1)	
	ビジネス フィールド	ビジネス実 務ユニット	ビジネス実務総論	○				2								
			ビジネス実務演習	○				2								
		経営 ユニット	ビジネス英語	○				2						○	15(1)	
			中小企業経営論	○				2						○	14(1)	
			ビジネス戦略論	○				2								
		実務簿記 ユニット	工業簿記	○				2			○				5(1)	
			簿記演習			○			2					○	4(1)	
			財務諸表論	○				2			○				5(1)	
		基礎法務 ユニット	会社法	○				2						○	21(1)	
			民法	○				2			○				12(1)	
			税法総論	○				2						○	17(1)	
		企業法務 ユニット	実務法規	○				2						○	2(1)	
			現代社会と法	○				2			○				11(1)	
		商業 ユニット	商業学(商業史を含む)	○				2			○				20(1)	
			マーケティング	○				2			○				25(1)	
			商品学	○				2			○				16(1)	
		地域経済 ユニット	財政学	○				2								
			金融論	○				2						○	26(1)	
				キャリアガイダンス	○				2			○			8(1)	
		医療事務 ユニット	医療秘書概論	○				2						○	25(1)	
	医療事務総論		○				2						○	21(1)		
	医療事務各論		○				2						○	14(1)		
	ワーク ユニット	事務管理	○				2						○	30(1)		
		国語表現法	○				2						○	27(1)		
		社会心理学	○				2			○				27(1)		
	情報 フィールド	企画表現 ユニット	プレゼンテーション概論	○				2					○	10(1)		
			情報機器演習			○			2			○			15(1)	
		オフィス データ ユニット	コンピュータ概論Ⅰ	○				2						○	31(1)	
			コンピュータ概論Ⅱ	○				2						○	28(1)	
			情報処理Ⅰ	○				2						○	15(1)	
			コンピュータ応用演習			○			2					○	14(1)	
			広告論	○				2						○	15(1)	
			情報処理Ⅱ	○				2			○				15(1)	
	情報社会 ユニット	マルチメディア論	○				2						○	12(1)		
		情報ネットワーク論	○				2						○	10(1)		

科目の種類			授業科目	授業形態			単位			教員配置			前年度の履修人員 (クラス数)	備考	
				講義	演習	実習	必修	選択	自由	専任	兼任	兼任			
専門教育科目	秘書フィールド	秘書 ユニットⅠ	秘書学概論Ⅰ	○				2			○			32(1)	
			秘書実務Ⅰ	○				2			○			20(1)	
			地域総合連携講座	○				2			○			29(1)	
		秘書 ユニットⅡ	秘書学概論Ⅱ	○				2			○			21(1)	
			秘書実務Ⅱ	○				2			○			20(1)	

徳島文理大学短期大学部
自己点検・評価報告書

平成 22 年 6 月

発 行 徳島文理大学短期大学部
〒770-8514
徳島市山城町西浜傍示 180

印 刷 原田印刷出版株式会社